

# 寺内古墳群、相方遺跡

—和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマート  
インターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書—

2017年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



# 寺内古墳群、相方遺跡

—和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書—

2017年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター





## 序

和歌山市寺内、森小手穂、吉礼、西に所在する寺内古墳群、相方遺跡は、和田盆地の北東部に位置しています。

両遺跡の北側には、古墳数が全国でも有数の、国の特別史跡である岩橋千塚古墳群が展開し、4世紀から7世紀にかけて古墳が多く築かれ、南西側には和田遺跡、神前遺跡、井辺遺跡等の集落・水田跡が広がっています。また両遺跡の西側には、南流する農業用水があります。この農業用水の前身は、古代末から中世初頭に開削された宮井新溝と呼ばれる用水路と考えられています。この溝の開削主体は、当該期に遺跡の所在する和田盆地を開発した日前宮といわれ、この農業用水の開発の背景には、両遺跡東側の土地を開発していた根来寺勢力への対抗措置として、この地域の開発とその安定化を図ったものといわれています。

このたび、平成27年度及び同28年度に和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴い発掘調査を実施してきました。調査の結果、弥生時代末から古墳時代初頭の建物跡、鎌倉時代の建物跡、中世に埋没した自然流路を発見し、当時の集落の変遷を明らかにすることができました。なかでも、今回の調査で見つかった古代末から中世初頭の遺構・遺物は、こうした農業用水の開発に何らかの関係がある可能性があります。

平成28年度には出土遺物等整理作業を行い、このたびその成果をまとめることができましたので、発掘調査報告書として刊行する次第です。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに本書の作成にあたり御指導・御協力を賜りました関係各位及び地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 櫻井敏雄



## 例 言

1. 本書は、和歌山県和歌山市寺内、森小手穂、吉礼、西に所在する寺内古墳群、相方遺跡の発掘調査報告書である。
2. 平成 27 年度に和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、平成 28 年度に海草振興局建設部庁舎移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業に伴い発掘調査を行った。同 28 年度にこれらの出土遺物等整理業務を実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県及び西日本高速道路株式会社の委託を受けた公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当文化財センター」とする。）が、和歌山県教育委員会の指導の下に実施した。
4. 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、和歌山県及び西日本高速道路株式会社が負担した。
5. 現地調査に際し、和歌山県及び西日本高速道路株式会社関西支社和歌山工事事務所をはじめ、和歌山市教育委員会、関係機関並びに隣接する地元の方々から多大なご協力を得た。
6. 本書は、加藤が執筆・編集した。
7. 写真図版に使用した遺構写真・遺物写真は、加藤が撮影した。
8. 発掘調査に当たっては、次の諸氏から多大なご指導・ご教示を賜った（所属は当時、敬称略、五十音順）  
中村貞史（当文化財センター理事）、廣瀬覚（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）考古第一研究室主任研究員）、額田雅裕（和歌山市立博物館館長）、若林邦彦（同志社大学歴史資料館準教授）
9. 発掘調査・出土遺物等整理業務で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は当文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は、以下に示すとおりである。

### 調査組織

事務局	【平成 27 年度】	【平成 28 年度】
事務局長（管理課長）	米田 良博	南 正人
埋蔵文化財課長	土井 孝之	土井 孝之
発掘調査業務担当	（参与） 村田 弘	（技師） 加藤 達夫
遺物等整理業務担当		（技師） 加藤 達夫

## 凡 例

- 1 発掘調査及び出土遺物整理業務は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006 年 4 月）に準拠して行った。
- 2 遺構実測図、遺構全体図及び地区割の基準となる座標は、平面直角座標系第VI系（世界測地系）に基づき、値はm単位を使用している。また、図面に示した北方位は、座標北を示す。
- 3 遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P.）表示である。
- 4 発掘調査及び整理作業で使用した調査コードは、以下のとおりである。  
15－01・187（2015 年度－和歌山市・寺内古墳群）第1次発掘調査  
15－01・440（2015 年度－和歌山市・相方遺跡）第1次発掘調査  
16－01・187（2016 年度－和歌山市・寺内古墳群）第2次発掘調査  
16－01・440（2016 年度－和歌山市・相方遺跡）第2次発掘調査  
出土遺物・記録資料の整理にあたっては、全て上記の調査コードを使用している。
- 5 地区割の詳細については、本文の第Ⅲ章第3節に記述する。
- 6 遺構番号は、2015 年度は1区を1番から、2区を201番から、3区を301からの通し番号とし、2016 年度4区を100番から、5区を1番から、6区を401番からの通し番号とし、遺構番号には必要に応じて後に種類を付した。但し遺構が両地区に跨る場合は、基本的に先行して調査を行った地区の遺構番号を使用している。  
例：100溜楸、153自然流路・・・
- 7 本書の遺構・土層実測図の縮尺は、各々に明示している。図の表現では、遺構、任意掘削・掘り残し、掘残し、攪乱でケバの表現を以下のとおり各々変えている。



- 8 遺構番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。
- 9 遺物実測図の縮尺は、土器類は原則として1/4、それ以外は必要に応じて縮尺を明示している。遺構及び遺物写真の縮尺は特に統一していない。
- 10 調査時の土層の色調・土壌の粒径区分及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（2010年版）を使用した。  
土層名で2種類以上の記載のある場合は、前者が主体で、後者が副になることを示す。

# 本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過	4	主要出土遺物を対象とした整理作業	9
第1節 調査に至る経緯	1	5 遺構図面の整理	9
第2節 調査の経過	1	6 遺構写真の整理	9
第Ⅱ章 位置と環境		第3節 調査区の設定	10
第1節 位置と地理的環境	3	第Ⅳ章 調査成果	
第2節 歴史的環境	3	第1節 第1次調査の成果	12
第3節 既往の調査	4	1 第1次調査の概要	12
第Ⅲ章 発掘調査の方法と資料整理		2 基本層序と遺構面	12
第1節 調査現場の記録作業	7	3 各遺構の調査結果	13
1 写真撮影作業	7	第2節 第2次調査の成果	25
2 実測図作成作業	7	1 第2次調査の概要	25
3 航空写真測量・基準点測量	7	2 基本層序と遺構面	25
第2節 出土遺物等資料の整理	7	3 各遺構の調査結果	28
1 出土遺物の応急整理等	7	第Ⅴ章 まとめ	44
2 出土遺物等整理業務	8	報告書抄録	巻末
3 出土遺物の登録	9		

# 挿図目次

図1 寺内古墳群、相方遺跡と周辺の遺跡 (1:25,000)	5	図9 3区 303 竪穴建物 平面図・断面図	17
図2 区画割位置模式図及び地区割(大区画)	10	図10 1-2区 26 竪穴建物 平面図・断面図	17
図3 調査位置と区画割及び地区割(中区画)	11	図11 1-2区 13 竪穴建物 平面図・断面図	18
図4 調査位置と地区割及び地区割(小区画)	11	図12 1-2区 6・7 溝 平面図・断面図	19
図5 第1次調査の基本層序(3区南壁土層堆積)	12	図13 2区 209 溝 平面図・断面図	20
図6 3区 365・367・368 竪穴建物 平面図・ 断面図	13	図14 2区 228 土坑 平面図・断面図	21
図7 第1次調査区 遺構全体図(1~3区)	14・15	図15 2区 210 谷状地形 平面図・断面図	22
図8 3区 366 竪穴建物 平面図・断面図	16	図16 3区 掘立柱建物1 平面図・断面図	23
		図17 1-1区 51 自然地形の落ち込み 断面図	24
		図18 第2次調査の基本層序(5区北壁)	25
		図19 第2次調査区 遺構全体図(4~6区)	26・27

図 20	4区 101 竪穴建物 平面図・断面図・ エレベーション図……………28	図 30	4区 100 溜枿 平面図・断面図・ 立面図……………41
図 21	4区 102 竪穴建物 平面図・断面図・ エレベーション図……………30	図 31	5区 66 段状遺構 平面図・断面図…………42
図 22	4区 103 竪穴建物 平面図・断面図・ エレベーション図……………32	図 32	4・5区 153 自然流路 断面図 ……43
図 23	4区 189 竪穴建物 平面図・断面図・ エレベーション図……………33	図 33	第1次調査出土遺物実測図① ……46
図 24	4区 223 竪穴建物 平面図・断面図 ……34	図 34	第1次調査出土遺物実測図② ……47
図 25	4区 277・278 竪穴建物 平面図・断面図・ エレベーション図……………35	図 35	第1次調査出土遺物実測図③ ……48
図 26	6区 456・457 竪穴建物 平面図・断面図 ……………36	図 36	第2次調査出土遺物実測図① ……49
図 27	5区 掘立柱建物 2 平面図・断面図・ エレベーション図……………38	図 37	第2次調査出土遺物実測図② ……50
図 28	4区 掘立柱建物 3 平面図・断面図 ……39	図 38	第2次調査出土遺物実測図③ ……51
図 29	4区 掘立柱建物 4 平面図・断面図・ エレベーション図……………40	図 39	第2次調査出土遺物実測図④ ……52
		図 40	第2次調査出土遺物実測図⑤ ……53
		図 41	第2次調査出土遺物実測図⑥ ……54
		図 42	第2次調査出土遺物実測図⑦ ……55
		図 43	第2次調査出土遺物実測図⑧ ……56

## 表 目 次

表 1	発掘調査・出土遺物等整理業務工程表………… 1	表 4	出土遺物観察一覧表(石製品) ……61
表 2	寺内古墳群、相方遺跡と周辺の遺跡地名表 …… 6	表 5	出土遺物観察一覧表(金属製品) ……61
表 3	出土遺物観察表(土器) ……57		

## 写 真 目 次

写真 1	寺内古墳群、相方遺跡第1次調査現地公開 状況：検出遺構説明 …… 2	写真 5	遺物充填剤による補強・復元作業 …… 8
写真 2	寺内古墳群、相方遺跡第2次調査現地公開 状況：検出遺構説明 …… 2	写真 6	出土遺物の実測図作成作業 …… 8
写真 3	出土遺物(土器)の洗浄作業 …… 8	写真 7	遺構図トレース作業 …… 8
写真 4	土器の接合作業 …… 8	写真 8	遺物実測図のトレース作業 …… 9
		写真 9	版組作業 …… 9

## 図 版 目 次

写真図版 1	1. 1 - 1 区全景 (北東から)	2. 103 竪穴建物完掘 (南から)
	2. 1 - 2 区全景 (北上空から)	3. 189 竪穴建物完掘 (南西から)
	3. 2 区上層全景 (北東から)	写真図版 12
写真図版 2	1. 2 区下層全景 (南東から)	1. 456・457 竪穴建物完掘 (東から)
	2. 2・3 区全景 (北西上空から)	2. 456 竪穴建物堆積状況 (南から)
	3. 1 - 2 区北壁基本層序 (南から)	3. 457 竪穴建物堆積状況 (南から)
写真図版 3	1. 365、366、367、368 竪穴建物 完掘 (西から)	写真図版 13
	2. 372 炉土器出土状況 (南から)	1. 223 竪穴建物 (南から)
	3. 372 炉完掘 (北東から)	2. 227・228 竪穴建物 (南西から)
写真図版 4	1. 303 完掘竪穴建物 (北東から)	3. 掘立柱建物 2 (南東から)
	2. 13 竪穴建物完掘 (西から)	写真図版 14
	3. 6・7 溝完掘 (南から)	1. 掘立柱建物 2 の 27 柱穴 (東から)
写真図版 5	1. 6 溝瓦器出土状況 (北から)	2. 100 溜枳 (西から)
	2. 209 溝完掘 (南東から)	3. 100 溜枳堆積状況 (南から)
	3. 228 土坑土器出土状況 (北東から)	写真図版 15
写真図版 6	1. 210 谷状地形 (北西から)	1. 100 溜枳瓦器出土状況 (南から)
	2. 210 谷状地形堆積状況 (北西から)	2. 66 段状遺構完掘 (南西から)
	3. 掘立柱建物 1 (南から)	3. 153 自然流路堆積状況 (南東から)
写真図版 7	1. 5 区全景 (北東上空から)	写真図版 16
	2. 4 区全景 (西上空から)	第 1 次調査 出土遺物①
	3. 4 区全景 (上空から)	写真図版 17
写真図版 8	1. 5 区全景 (上空から)	第 1 次調査 出土遺物②
	2. 6 区全景 (東半) (南から)	写真図版 18
	3. 6 区全景 (西半) (東から)	第 1 次調査 出土遺物③
写真図版 9	1. 5 区北壁基本層序 (南から)	第 2 次調査 出土遺物①
	2. 101 竪穴建物完掘 (南から)	写真図版 19
	3. 101 竪穴建物堆積状況 (南から)	第 2 次調査 出土遺物②
写真図版 10	1. 102 竪穴建物 (南西から)	写真図版 20
	2. 102 竪穴建物堆積状況 (北東から)	第 2 次調査 出土遺物③
	3. 102 竪穴建物土器出土状況 (北西から)	写真図版 21
写真図版 11	1. 102 竪穴建物完掘 (南から)	第 2 次調査 出土遺物④
		写真図版 22
		第 2 次調査 出土遺物⑤
		写真図版 23
		第 2 次調査 出土遺物⑥





# 第 I 章 調査の経緯と経過

## 第 1 節 調査に至る経緯

寺内古墳群（図 1－187）は和歌山市寺内、森小手穂、吉礼、西に所在する。相方遺跡は、森小手穂に所在し、和歌山県教育委員会（以下「県教育委員会」とする。）により平成 26 年 5 月 16 日に行われた分布調査、平成 27 年 3 月 12 日から 18 日に行われた第 1 次試掘調査、平成 27 年 4 月 27 日から 28 日に行われた第 2 次試掘調査により、種別を「散布地」として新たに埋蔵文化財包蔵地に登録された（図 1－440）。

今回の調査対象地は、和歌山県により和歌山橋本線道路改良工事及び海草振興局建設部庁舎移転外事業及び、西日本高速道路株式会社（以下「ネクスコ」とする。）により近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業が計画され、その予定地の一部が寺内古墳群、相方遺跡の範囲に相当するため、和歌山県知事より文化財保護法第 94 条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が県教育委員会に提出された。その後、工事予定地のうち調査可能な範囲について県教育委員会により先に述べた試掘調査が行われ、このうち記録保存が必要とされた範囲について、和歌山県及びネクスコとの協議のうえ、寺内古墳群、相方遺跡の範囲内で記録保存目的の本発掘調査を実施することとなった。

これを受けて、平成 27 年度に当文化財センターが「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業」（寺内古墳群、相方遺跡第 1 次発掘調査）として受託し、県教育委員会の指導のもと、本発掘調査を実施した。ついで、平成 28 年度には、「海草振興局建設部庁舎移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業」（寺内古墳群、相方遺跡第 2 次発掘調査）としてこれを受託し、県教育委員会の指導のもと本発掘調査を実施することとなった。

## 第 2 節 調査の経過（表 1）

第 1 次の発掘調査については、平成 27 年 12 月 14 日から平成 28 年 3 月 16 日にかけて実施し、調査面積は 2,118㎡である。調査は工事請負方式で実施し、角谷産業株式会社に、航空写真測量・基準点測量は株式会社ウエスコに委託した。

表 1 発掘調査・出土遺物等整理業務工程表

調査回数	年度	平成 27 年度												平成 28 年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
寺内古墳群、相方遺跡第 1 次調査	1 区																								
	2 区																								
	3 区																								
寺内古墳群、相方遺跡第 2 次調査	4 区																								
	5 区																								
	6 区																								
出土遺物等整理 報告書印刷期間含																									

調査地は、排土置場の確保のため、東西に3分割し西から順に1・2・3区として調査を行った。1区については、さらに1-1区と1-2区に分けて調査を行った。航空写真測量は、平成27年12月26日、平成28年2月2日、同年2月18日、同年3月3日の計4回行った。その後、埋戻しを行いつつ残りの実測作業等を行い、3月16日に現地作業が終了した。この他、発掘調査と併行し、応急整理として遺物の洗浄・登録を行っている。

第2次の現地調査については、平成28年5月30日から平成28年11月15日にかけて実施し、本発掘調査面積は1,904㎡である。発掘調査は工事請負方式で実施し、株式会社森上土木に、航空写真測量・基準点測量は和歌山航測株式会社に委託した。

調査地は、排土置場確保のため、東西に2分割し、東側を4区、西側を5区とした。また付帯工事として里道の付替えを行った。発掘調査は、付帯工事である里道の付替え工事の施工のため、5区から先行して発掘調査を行った。5区の発掘調査及び里道付け替えが終了後、4区の発掘調査に着手した。4区の発掘調査を行っていたところ、記録保存が必要と判断される遺構が調査区の北側に展開することが確認されたため、県教育委員会に報告した。これを受けて、県教育委員会では、平成28年10月13日に4区北側で確認調査を行った。これにより、記録保存すべき埋蔵文化財の範囲が4区の北側にさらに展開することが確認されたため、関係機関と協議のうえ記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。4区の北側に新たに6区を設定し、4区の調査終了後6区の発掘調査に着手した。6区についても調査区を東西に反転して、東半分から着手し、調査終了後埋戻し西半分の発掘調査に着手した。航空写真測量は、平成28年8月3日、同年10月4日の計2回行った。6区については平成28年11月10日に足場からの写真撮影を行った。その後、残りの実測作業を行い、11月15日に埋戻しを行い作業を終了した。また、発掘調査と併行し、応急整理として遺物の洗浄・登録を行った。

また、普及活動として、周辺住民を対象とした現地説明会を第1次発掘調査では、平成28年3月6日に、第2次発掘調査では、平成28年10月2日に行い、それぞれ84名、42名の参加者を得た。



写真1 寺内古墳群、相方遺跡第1次調査  
現地説明会状況：検出遺構説明



写真2 寺内古墳群、相方遺跡第2次調査  
現地説明会状況：検出遺構説明

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 第1節 位置と地理的環境（図1）

寺内古墳群、相方遺跡のある和歌山市は、和歌山県の北西部に位置する。市域の北側を大断層である中央構造線が東西に横断し、断層の北側は内帯、南側は外帯に分けられる。紀の川は中央構造線に沿って西流し、市西部で紀伊水道に注いでいる。紀の川の北側には、大阪府との府県境となる和泉山脈が東西に延びている。南側には、長峰山脈と結晶片岩を主体とする三波川変成帯が広がっている。長い年月の末、三波川変成帯は浸食がすすみ、和歌山平野には大小の山塊が点在している。

これらの遺跡の西側に広がる和田盆地は、かつての構造運動によって生じた溺れ谷が埋積されたものであり、周辺の孤立丘陵は地盤沈降が生じる前の山頂部を示す。和田盆地は、縄文海進時には湾であったと推測され、紀の川本流の堆積作用は及ばず三角州下位面となり、長期間入り江であったと推定されている。

調査地の現況は、山塊に刻まれた支谷の谷頭にあたる。調査地は果樹畑、畑で西向きに谷が開く。地元での聞き取りによると、少なくとも戦前までは水田であったが、昭和30年前後から柑橘畑へ転用された。調査地の西端には、幅1.5m程のコンクリート製の農業用水が南流し、さらにその西側の和田盆地には水田が広がっている。

### 第2節 歴史的環境

寺内古墳群、相方遺跡が所在する岩橋山塊周辺は、縄文時代より多くの遺跡の展開がみられる。以下、周辺の遺跡について概略する。

**縄文時代** 花山丘陵裾には、縄文時代の前期から晩期にかけて形成された遺跡が認められる。昭和6年に国史跡に指定された鳴神貝塚（317）のほか、禰宜貝塚（176）、吉礼貝塚（298）、岡崎縄文遺跡（309）である。鳴神貝塚では、中期から晩期にかけての遺物が出土しているほか、抜歯をした女性を埋葬した土壙墓が検出されている。禰宜貝塚では、前期から後期にかけての遺物が出土しているほか、多くの骨角器がみついている。これらの貝塚からはいずれもヤマトシジミ、カキ、ハイガイ、ハマグリ等の汽水産、海産の貝類が出土している。

**弥生時代** 弥生時代の前期から中期にかけて、紀の川南岸の平野部で、多くの遺跡が展開する。JR和歌山駅東側に広がる太田・黒田遺跡は大規模集落で、前期から中期にかけての竪穴建物、前期末には大規模な斜行する溝が開削されている。集落東部では、銅鐸が発見されている。このほかに、前期から中期の遺跡として、秋月遺跡、和田遺跡（301）、神前遺跡（307）が挙げられる。和田遺跡では、県内でも古い段階の紀伊Ⅰ－Ⅱ様式の土器の一括資料が土坑から出土している。神前遺跡では、弥生時代前期から庄内期にかけての溝が多数検出されている。ついで、弥生時代中期後半から後期前半にかけては、平野部での遺跡が減少する。一方、丘陵部で滝ヶ峯遺跡（282）や橘谷遺跡のような高地性集落が出現する。和田川を挟んで対岸の丘陵上に位置する菖蒲谷遺跡（256）では、弥生時代中期の5基の方形周溝墓が検出されている。また、隣接する千石山遺跡（256）では台状墓が4基確認されている。

弥生時代後期後半になると様相が変わり、再び平地に遺跡が認められるようになる。太田・黒

田遺跡、井辺遺跡（308）、秋月遺跡、津奏遺跡があり、古墳時代前期に継続して集落が展開する。**古墳時代** 岩橋千塚古墳群は、全国的にも有数の群集墳である。岩橋山塊とその周辺の古墳群も含めると、4世紀末から7世紀にかけて800基前後の古墳が築かれている。後期の主要な古墳には、結晶片岩を積み上げ、石梁や石棚をもついわゆる岩橋型とよばれる横穴式石室を備えるものがある。岩橋千塚古墳群（185）の大日山地区に所在する大日山35号墳では、人物埴輪等多数の埴輪が出土している。

**古代** 古代には、紀伊一宮の日前・国懸神宮が造営された。日前宮南の平野部には、方位がN-5°～6.5°-Wの条里地割が現在も遺されている。太田・黒田遺跡では、井戸から和同開珎や万年通宝が、鳴神V遺跡からは陶硯、緑釉陶器、土馬が出土している。

**中世** 神前遺跡では、鎌倉時代の溝及び耕作痕（鋤溝）が確認されている。溝は古代の条里とは異なり、振れが逆のN-6-Eとなり、振れ幅も小さくなる。少なくとも鎌倉時代から東偏する地割が存在したことになる。また、現用水路を一部踏襲するかたちで、鎌倉時代に整備された宮井用水の一つである「中溝」水路の肩が検出され、これに伴う屋敷地の区画溝も検出されている。

太田・黒田遺跡の南側には、羽柴秀吉による水攻めで著名な太田城の推定地があり、幅10m、深さ3mを測る、16世紀代の濠状遺構が検出されている。また、太田城水攻めの堤跡がわずかに残っている。岩橋高柳遺跡（427）では、掘立柱建物2棟と井戸2基の鎌倉時代の屋敷跡や室町時代の堀状遺構が検出されている。

### 第3節 既往の調査

寺内古墳群では、昭和42年に和歌山市教育委員会より関西大学考古学研究室に、寺内59号墳・60号墳の開墾に伴う発掘調査の依頼がなされ、調査が行われた。両古墳とも石材採取を目的とする乱掘を受け、内部構造は徹底的に攪乱されていた。発掘調査の結果、寺内59号墳は11m×12mの、同60号墳は16m×17mの円墳で、葺石はないことが分かった。内部構造は、両古墳とも結晶片岩の割石を小口積にした横穴式石室で、いずれも南東方向に開口していたと推定される。玄室の規模は、59号墳で2.25m×2.0m、60号墳では長さは不明なものの、幅2.2mで、これに羨道が付随していた。玄室前道・前室等の有無は明らかでなく、両古墳とも排水溝を備えていた。石室の床面は、粘質土で突き固められており、60号墳では、玄室の一部に河原石を敷いた部分があり、この一面を囲む箱式石棺の存在が推測された。出土遺物として、59号墳から金環2、管玉1、須恵器子持壺の子壺1、土師器坏が、60号墳から、鉄刀、鉄鏃、須恵器坏が出土している。

#### 【参考文献】

和歌山市教育委員会・関西大学考古学研究室 1968 『和歌山市森小手穂・寺内59・60号墳緊急調査概報』

和歌山県立紀伊風土記の丘 2011 『大王の埴輪・紀氏の埴輪—今城塚と岩橋千塚—』

公益財団法人和歌山県文化財センター 2014 『井辺遺跡、神前遺跡』

公益財団法人和歌山県文化財センター 2014 『神前遺跡』

公益財団法人和歌山県文化財センター 2015 『和田遺跡』



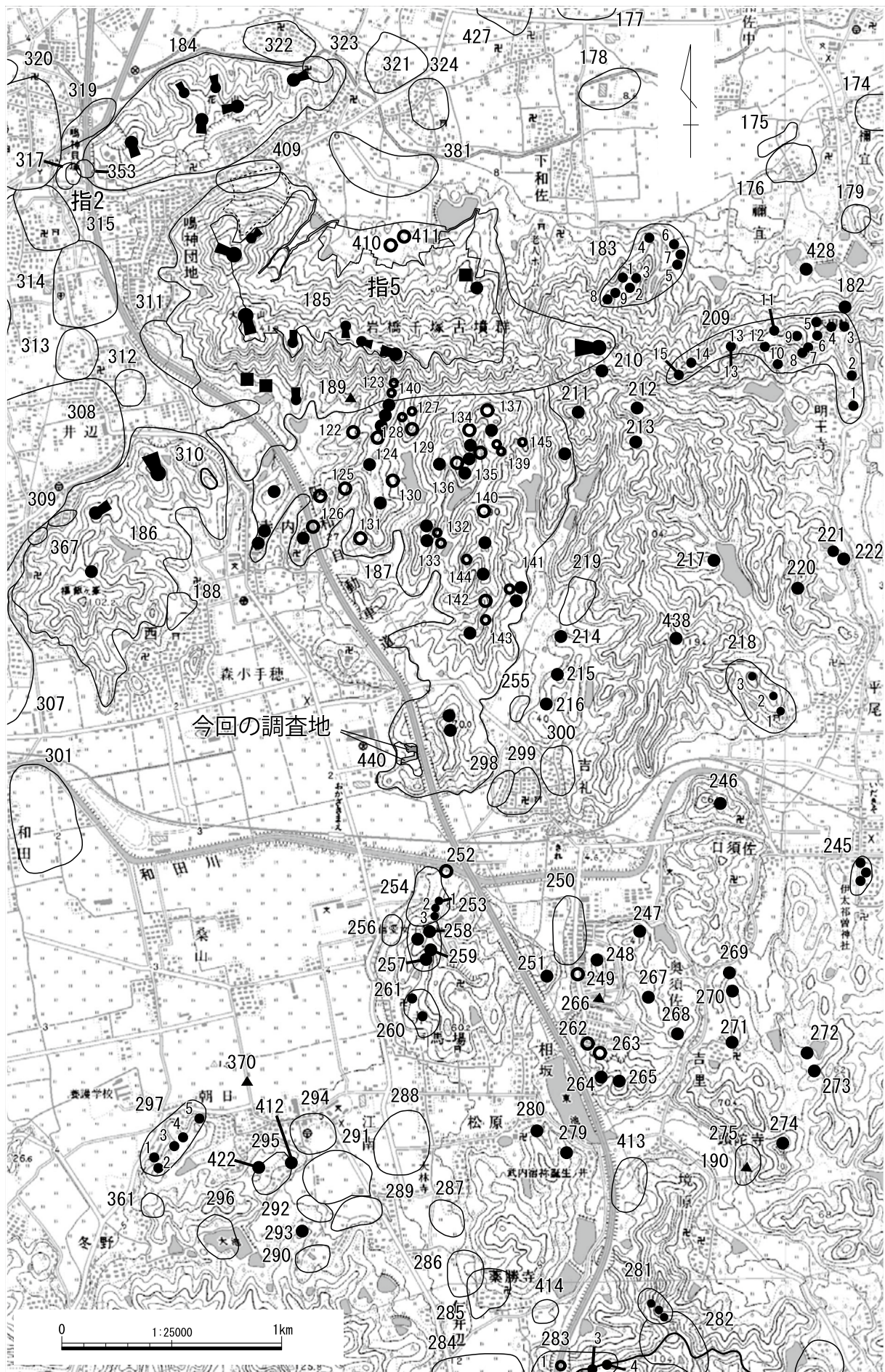


図1 寺内古墳群、相方遺跡と周辺の遺跡 (1 : 25,000)



表2 寺内古墳群、相方遺跡と周辺の遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	立地	概要
174	禰宜Ⅰ遺跡	禰宜	散布地		丘陵裾	土師器
175	禰宜Ⅱ遺跡	禰宜	散布地	縄文	丘陵裾	サヌカイト
176	禰宜貝塚	禰宜	貝塚	縄文(前期～後期)	丘陵裾	縄文土器、石器(匙、錐、鏃、鏃、斧)、骨角器(骨針、牙製ナイフ)、ハイガイ、ヤマトシジミ、ハマグリ、マガキ、その他
177	河南中学校北方遺跡	和佐中	散布地		沖積地	土師器(旧河南中学校所在地北方)
178	和佐中遺跡	和佐中	散布地		沖積地	土師器
179	和佐寺跡	禰宜	寺院跡		丘陵端	瓦
182	和坂古墳	禰宜	古墳	古墳	山腹	円墳
183-1～7	和佐古墳群	下和佐	古墳群	古墳	丘陵	7基の古墳からなる
183-8、9	天王塚山古墳群	下和佐	古墳群	古墳	丘陵	円墳2基
184	花山古墳群	鳴神・岩橋・栗栖	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳9基、円墳89基からなる
185	岩橋千塚古墳群	岩橋、鳴神、井辺、寺内	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳13基、方墳4基、円墳455基からなる
186	井辺前山古墳群	井辺、岡崎、寺内、神前、西、森小手穂	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳15基、円墳60基からなる
187	寺内古墳群	寺内、森小手穂、吉礼	古墳群	古墳	山腹	円墳33基からなる
188	森小手穂遺跡	森小手穂	散布地	古墳～中世	丘陵	須恵器、土師器、瓦等
209～215	山東古墳群	禰宜、明王寺	古墳群	古墳	丘陵	21基
218	若林古墳群	平尾	古墳群	古墳	丘陵	3基
219	吉礼砂羅合窯跡	吉礼	窯跡	古墳～奈良	丘陵麓	須恵器
220～222	平尾古墳群	平尾	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
245	伊太祈曾神社古墳群	伊太祈曾	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
246	チシヨ古墳	口須佐	古墳	古墳	丘陵	円墳、径7.5m、高さ2m、直刀
247～249	城ヶ森古墳群	吉礼	古墳群	古墳	丘陵	3基
250	城ヶ森遺跡	吉礼	散布地	弥生	丘陵	弥生土器
251	相坂古墳	相坂	古墳	古墳	丘陵	円墳
252,253	千石山古墳群	井戸	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基
254	菟浦谷遺跡	井戸	散布地	弥生～古墳	丘陵	方形周溝墓、台上墓、土師器、須恵器
256	千石山遺跡	井戸	散布地	弥生	丘陵斜面	弥生土器
257～259	井戸古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
260	馬場古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	2基
261	馬場遺跡	相坂	散布地	弥生	丘陵斜面	弥生土器
262～265	東池古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基
266	吉里銅鐸出土地	吉里	出土地	弥生	丘陵	袈裟文銅鐸
267	小山古墳	吉里	古墳	古墳	丘陵	円墳?、横穴式石室?
268	奥須佐窯跡	奥須佐	窯跡	奈良	丘陵麓	須恵器(壺、坏)
269	円海寺古墳	奥須佐	古墳	古墳	丘陵	円墳、横穴式石室、須恵器(埴、坏)
270	峯古墳	奥須佐	古墳	古墳	丘陵	円墳、径16.5m、高1.5m、竪穴式石室、埴輪(円筒、盾、人、家)、須恵器
271	西光寺窯跡	奥須佐	窯跡	奈良	丘陵	須恵器(壺、甕、坏)
272	吉里1号窯跡	吉里	窯跡	奈良	丘陵麓	須恵器(壺、甕、坏)
273	吉里2号窯跡	吉里	窯跡	奈良	丘陵麓	須恵器(壺、甕、坏)
274	頭蛇寺古墳	頭蛇寺	古墳	古墳	丘陵	円墳
275	頭蛇寺遺跡	頭蛇寺	散布地	弥生	丘陵麓	寺院跡もある。石鏃、瓦
279,280	松原古墳群	松原	古墳群	古墳	丘陵	2基
281	滝ヶ峯古墳群	栗勝寺	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
282	滝ヶ峯遺跡	栗勝寺(海南市多田)	集落跡(貝塚)	弥生	丘陵鞍部(標高80m)	貝塚、竪穴住居等、弥生土器(壺、甕、高坏、器台鉢)、石包丁、石製紡錘車、砥石、鉄片、龍文鏡片、貝類
283	栗勝寺南山古墳群	栗勝寺	古墳群	古墳	丘陵	4基
284	仁井辺遺跡	小瀬田	散布地	古墳	平地	土師器、須恵器
285	栗勝寺跡	栗勝寺	寺院跡	奈良～平安	台地	栗勝寺の階段下に大門の礎石がある。鷲尾、軒丸瓦、平瓦
286	栗勝寺遺跡	栗勝寺	散布地	弥生	台地	弥生土器(壺、高坏)、石斧
287	松原Ⅰ遺跡	松原	散布地		丘陵端	土師器、須恵器
288	松原Ⅱ遺跡	松原	散布地		丘陵端	土師器、須恵器
289	薬師谷遺跡	江南	散布地	縄文	丘陵	石鏃、縄文土器
290	江南遺跡	江南	散布地		丘陵	須恵器、土師器、瓦
291	曾垣田遺跡	江南	散布地	古墳	丘陵端	土師器(壺、甕、鉢)
292	曾垣田Ⅱ遺跡	江南	散布地		丘陵端	土師器
293	曾垣田古墳	江南	古墳	古墳	丘陵端	箱式石棺群
294	城の前Ⅱ遺跡	朝日	散布地		丘陵端	須恵器、瓦器
295	城の前Ⅰ遺跡	朝日	散布地		丘陵端	土師器
296	大池遺跡	朝日	散布地		池畔	瓦器、土師器、すり鉢、大池の西～南沿岸
297	赤津古墳群	朝日	古墳群	古墳	丘陵	5基からなる
298	吉礼貝塚	吉礼	貝塚	縄文	丘陵麓	貝類(蛤、かき、はい貝等)、縄文土器、土製耳飾、石器(匙、鏃、鏃、斧)、獣骨
299	西吉礼遺跡	吉礼	散布地	弥生	丘陵端	弥生土器(壺、甕、高坏)
300	東吉礼遺跡	吉礼	散布地	弥生	丘陵端	弥生土器(壺、甕、高坏)
301	和田遺跡	和田	散布地	弥生	沖積地	弥生土器
307	神前遺跡	神前	集落跡、用水路	弥生～江戸	沖積地	竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、石器(石鏃、石包丁、石斧)、紡錘車
308	井辺遺跡	井辺、神前	弥生～古墳	弥生	沖積地	竪穴建物、土坑、溝、前方後方形墳、方形墳、自然流路、弥生土器、土師器、須恵器、各種木製品
309	岡崎縄文遺跡	井辺	散布地	縄文	丘陵端	縄文土器、石器多数
310	森小手穂埴輪窯跡	森小手穂	窯跡	古墳	山麓	埴輪(円筒、形象)
311	大日山Ⅰ遺跡	井辺	集落跡	古墳～奈良	丘陵端	竪穴建物、掘立柱建物、土師器(壺、小型壺、甕、高坏、坏、甑)、須恵器(坏、高坏)、鳥形土器、滑石製勾玉、有孔円板
312	井辺Ⅰ遺跡	井辺	散布地	弥生～古墳	平地	弥生土器、土師器
313	井辺Ⅱ遺跡	井辺	散布地	弥生～古墳	平地	弥生土器、土師器、須恵器
314	鳴神Ⅱ遺跡	鳴神	用水路跡	弥生～平安	平地	弥生土器、土師器、須恵器、木製品
315	鳴神Ⅲ遺跡	鳴神	散布地		平地	土師器、須恵器
317	鳴神貝塚	鳴神	貝塚、墓	縄文～弥生	丘陵麓	縄文土器、骨製品、人骨、弥生土器
319	菟浦遺跡	鳴神	集落跡	古墳	平地	竪穴建物、掘立柱建物、溝、土師器(壺、小型壺、甕、高坏、甑、甗)、有孔円盤、須恵器(壺、高坏、坏、甑)、石製紡錘車
321	岩橋遺跡	岩橋	散布地	平安～鎌倉	丘陵端	溝、水田跡、旧河道、土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器
322	栗栖Ⅰ遺跡	栗栖	散布地	古墳	丘陵端	土師器、須恵器
323	栗栖Ⅱ遺跡	栗栖	散布地		丘陵端	瓦
324	高橋神社遺跡	岩橋	散布地		平地	土師器
353	興徳寺跡	鳴神	寺院跡	中世	花山丘陵の西南斜面	瓦、宝篋印塔、五輪塔
361	冬野遺跡	冬野	散布地	中世	丘陵麓	土師器(坏、皿)、土師質土器(カマド、土釜)
367	井辺Ⅲ遺跡	井辺	散布地	縄文	丘陵麓	縄文土器
370	朝日石棺出土地	朝日	出土地	弥生	平地	石棺
381	岩橋Ⅱ遺跡	岩橋	散布地	古墳～室町	平地	サヌカイト、土師器、須恵器、瓦器
409	岩橋Ⅲ遺跡	岩橋	散布地	平安、江戸	丘陵端	土坑、小穴群、土師器、黒色土器
412	城ノ前Ⅰ号墳	朝日	古墳	古墳	丘陵	円墳、周溝状遺構、横穴式石室、須恵器、土師器、黒色土器、土釜
413	境原遺跡	境原	散布地	弥生～室町	丘陵裾部	弥生土器、土師器、瓦器
414	栗勝寺Ⅱ遺跡	栗谷	散布地	弥生～奈良	孤立丘陵	弥生土器、土師器、須恵器
415	本渡遺跡	本渡	散布地	古墳～平安	丘陵裾	須恵器(甕、壺、高坏)
422	朝日臓骨器	朝日	墳墓	奈良	山腹	須恵器壺(臓骨器)、短頸壺(外容器)
427	岩橋高柳遺跡	岩橋	集落	古墳、中近世	沖積地	岩橋城屋敷推定地
440	相方遺跡	森小手穂	散布地	古墳～中世	丘陵裾	

遺跡内で調査履歴有り  
和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財包蔵地地名表』2007年3月31日発行を一部改編・補筆

## 第Ⅲ章 発掘調査の方法と資料整理

調査は、財団法人和歌山県文化財センターの定めた『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006.4）を基準として進めた。発掘調査で使用した調査コードは、15－01・187（2015年度－和歌山市・寺内古墳群）、15－01・440（2015年度－和歌山市・相方遺跡）、16－01・187（2016年度－和歌山市・寺内古墳群）、16－01・440（2016年度－和歌山市・相方遺跡）である。出土遺物、記録資料はこの調査コードを用い整理・管理している。

### 第1節 調査現場の記録作業

寺内古墳群、相方遺跡の調査に伴い、下記に示す記録作業を行った。

#### 1 写真撮影作業

記録保存としての写真撮影作業は、大判カメラ（4×5判：白黒フィルム・カラーリバーサルフィルム）・中判カメラ（6×7判：白黒フィルム・カラーリバーサルフィルム）・小判カメラ（35mm判：白黒フィルム・カラーリバーサルフィルム）・デジタル一眼レフカメラにより、主に発掘調査の状況、検出遺構・遺物の出土状況、断面土層等を撮影した。撮影内容は、基本的に写真台帳に調査区・対象・方向・使用フィルムを登録して把握しているほか、デジタル画像データにも内容を記載してDVD-Rに保存している。

#### 2 実測図作成作業

記録保存としての実測図作成作業は、各遺構面の検出遺構の遺構位置全体図（縮尺＝1／100）・遺構平面実測図（縮尺＝1／20）・個別遺構や遺物の出土状況図（縮尺＝1／10 or 1／20）・個別遺構の断面土層図（縮尺＝1／10 or 1／20）を作成した。また、調査地区の遺存状態の良好な壁面に対して断面土層図（縮尺＝1／20）などを記録として作成した。

#### 3 航空写真測量・基準点測量

調査地の遺構図面作成や遺物の取り上げのため、国土座標第Ⅵ系（世界測地系）による既設の公共基準点を利用して3級基準点・補助点を設置し、各地区内に4級基準点を設置した。併せて、3、4級基準点にも水準測量を行っている。

発掘調査により検出した遺構は、ラジコンヘリコプターを使用した調査地全体の航空写真撮影及び航空写真測量図化（縮尺1／100）を行った。

### 第2節 出土遺物等資料の整理

#### 1 出土遺物の応急整理等

出土遺物については、和歌山市岩橋においてその一部を応急的な洗浄・登録作業を実施した。これは、調査の進捗に伴い、現地調査方法の判断資料として時期決定を行い、調査を円滑に進めていく必要があるためである。出土遺物の総合的な把握と調査報告書作成までのコンテナ収納・管理を目的とした出土遺物登録台帳の作成作業を行い、この全てを完了した。



写真3 出土遺物（土器）の洗浄作業

## 2 出土遺物等整理業務

調査で出土した遺物は、応急的な整理が完了しているのみであったため、現地調査の遺構図面・遺構写真などの調査記録資料の整理を行い、資料登録台帳（データのPC入力）などを作成した。

出土遺物の内、土器類は、通常の遺物収容コンテナ（容量28ℓ）にして土器類112箱である。その他、金属製品2点、石製品6点である。出土遺物の整理は、調査同様に『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル(基礎編)』（2006.4）に準拠して行った。



写真4 土器の接合作業



写真5 遺物充填剤による補強・復元作業



写真6 出土遺物の実測図作成作業



写真7 遺構図トレース作業



出土遺物は、応急整理済み（全ての洗浄作業）のものを省いて全ての遺物に対し、洗浄作業（写真3）、遺物への調査コードと出土遺物登録番号の注記作業・遺物内容及び点数の台帳登録集計・接合作業を行った。

### 3 出土遺物の登録

出土遺物の内容登録に伴う遺物破片点数の数量化は、時代と主要となる土器類・その他の遺物に分けて作業を進めた。土器の種類は矛盾のない程度に簡素化している。時代・時期区分については、大きく弥生時代後期・終末期、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、平安時代末～室町時代、江戸時代に区分した。

### 4 主要遺物を対象とした整理作業

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、接合作業（写真4）、遺物充填剤による補強・復元（写真5）・遺物実測（写真6）・実測遺物台帳登録・遺物実測図トレース・レイアウト（写真8・9）・遺物実測図の整理・写真撮影等を行った。

### 5 遺構図面の整理

現地調査の遺構図面は、台帳登録・報告書掲載用図面の作図を行い、調査報告書に掲載する図面原稿を抽出した。抽出した遺構図面について、トレース（写真7）・レイアウト作業を行った。

### 6 遺構写真の整理

調査現場の記録写真には、4×5判：白黒・カラーリバーサルフィルム、6×7判：白黒・カラーリバーサルフィルム、35mm判：白黒・カラーリバーサルフィルム、デジタル写真画像、ラジコンヘリコプターによる航空写真がある。デジタル写真画像を除く各写真は、年度ごとに写真アルバムに収納し、各写真アルバムの背にタイトルを明示した。デジタル写真画像は、調査時に日付ごとにフォルダに纏めた。フィルムに対して写真登録番号を付し、航空写真を除く写真に対して写真内容の記録を記載した。一部のデジタル画像については、調査報告書に使用する目的で、掲載用写真画像の抽出を行った。



写真8 遺物実測図のトレース作業



写真9 版組作業

### 第3節 調査区の設定

#### 地区割の方法

寺内古墳群、相方遺跡を網羅する基点（ $X = -195.00\text{km}$ 、 $Y = -70.00\text{km}$ ）を設け、この基点から西方向と南方向にそれぞれ1km四方の区画を1単位とする大区画を設定し、北東端を基点に西方向へローマ数字Ⅰ～Ⅲ、南方向へアラビア数字で1～4と表記した。これにより、第1次、第2次の調査区は共にⅡ4区に位置する。次に大区画内をそれぞれ100m四方を1単位とした中区画を設定し、Ⅱ4区の北東端を基点とし西方向へ大文字アルファベットでA～Jと、南方向へアラビア数字で1～10と表記した。次に中区画内を4m四方を1単位とした小区画を設定し、各小区画の北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でa～yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した。

遺構図面作成や遺物取上げの際には原則として、4m四方の小区画で行い、大区画—中区画—小区画を組み合わせて表記して用いた。但し、今回の調査範囲は第1次調査・第2次調査共に大区画Ⅱ4区に入るため、本文の記述における大区画の表記は省略した。さらに調査区は、2015年度の第1次調査の調査区を1～3区、2016年度の第2次調査の調査区を4～6に区分した。

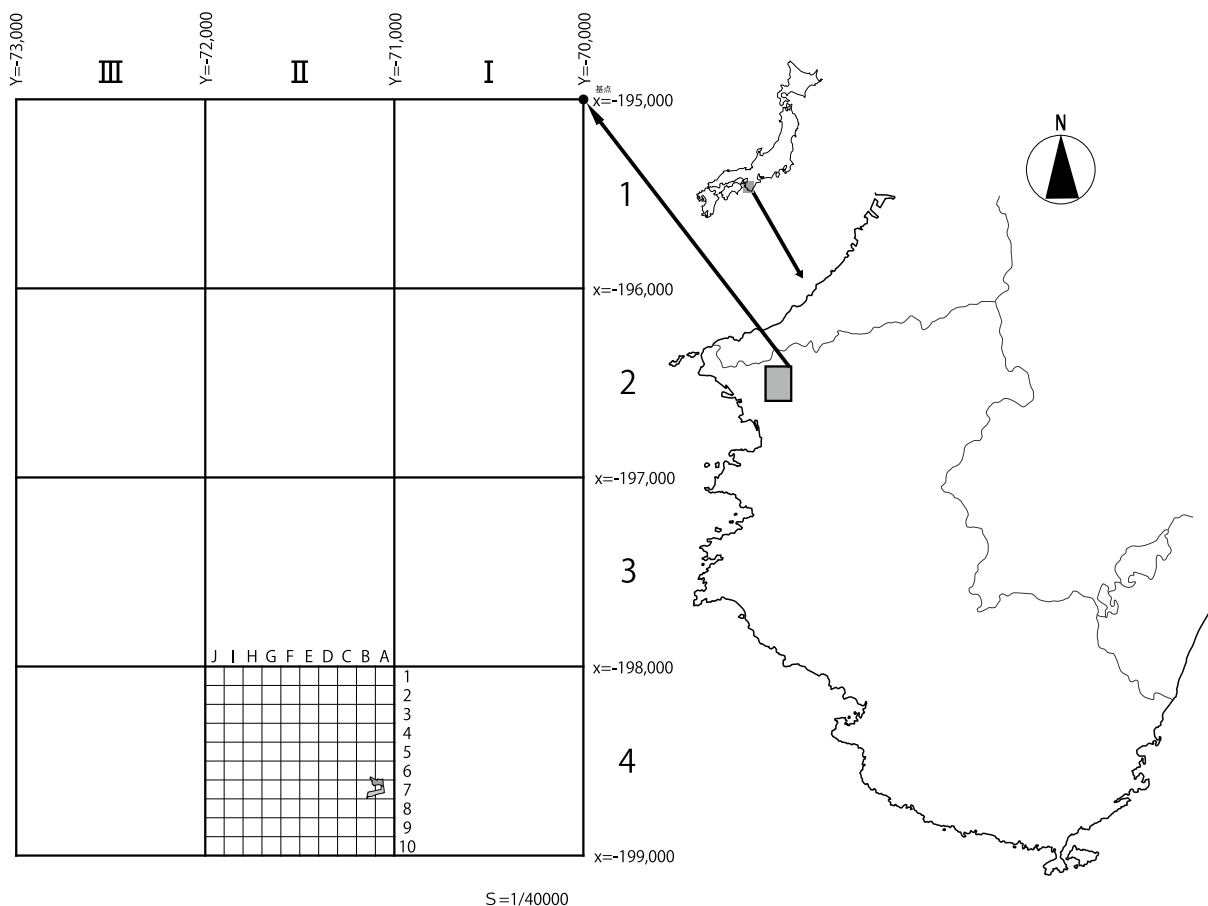


図2 区画割位置模式図及び地区割（大区画）

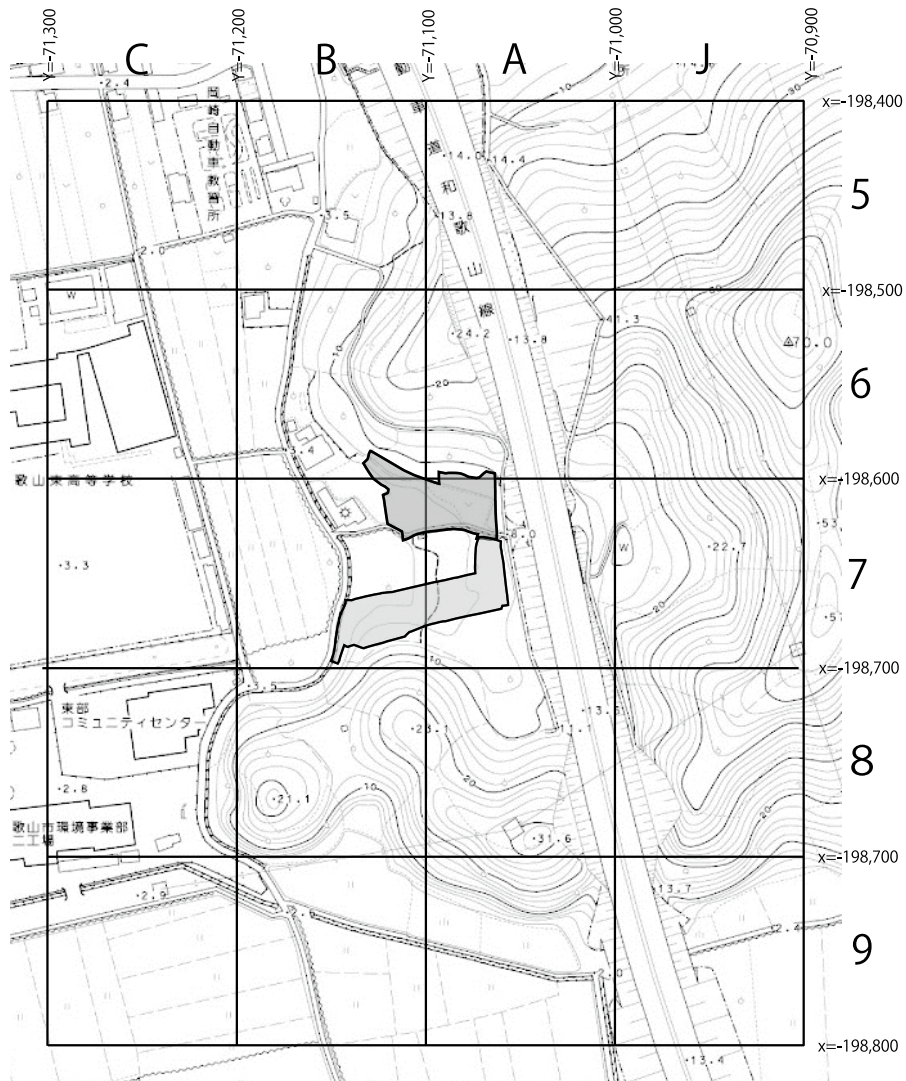


図3 調査位置と区画割及び地区割（中区画）

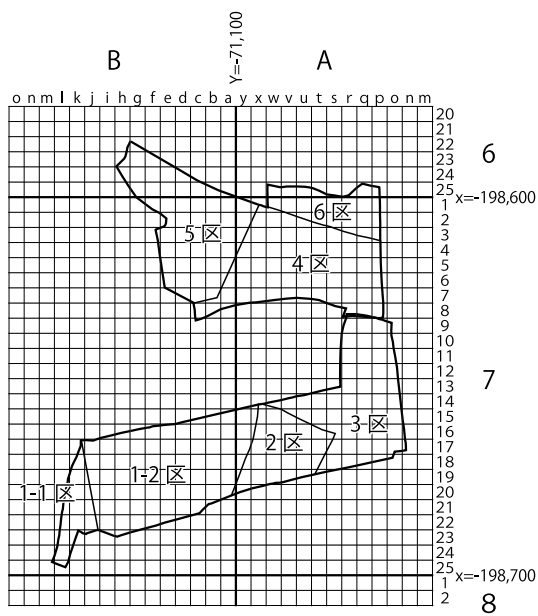


図4 調査位置と地区割及び地区割（小区画）

## 第IV章 調査成果

### 第1節 第1次調査の成果

#### 1 第1次調査の概要（図7）

第1次調査では、調査区の南北及び東側は、丘陵の裾部に当たっており、わずかに西側のみが開けた谷間地となっている。西側の最も低い箇所（1区西端の耕作土上面）の高さは、T.P.=3.50 m、東側の最も高い箇所（3区の耕作土上面）ではT.P.=6.50 mを測る。東側に向かってなだらかに上がっており、その比高は約3.00mである。調査区の西端は、幅約1.50 mの用水路に接している。

調査区の東側では、比較的良好な遺構が残り、調査区の中央部を、南東から南西へと流れ、埋没した谷状地形が検出されている。調査区西端付近も谷状の落ち込みが認められる。遺構検出は、基盤層である第5層上面で行った。なお、2区では、第4-2層としている遺物包含層上面に遺構面が確認されたため、上下2面の調査を実施している。ただし、第4層-2上面の遺構密度は低く、土坑・溝などをわずかに検出したにすぎなかった（写真図版1）。

第5層上面では、7棟の竪穴建物、1棟の掘立柱建物、多数の溝、土坑、小穴などを検出した。遺物は、弥生時代弥生時代後期の土器・石器、古墳時代、鎌倉時代の土器が出土した。

#### 2 基本層序と遺構面（図5、写真図版2）

第1層：現代の耕作土。

第2層：第1層に伴う床土、明黄褐色シルト。

第3層：灰色シルト層で、量的に少ないが中世の遺物を含む包含層である。この層については、中世の開発に伴う時期のものである可能性が高い。

第4層：にぶい黄褐色シルト、弥生時代から中世までの遺物包含層である。その濃淡により細分されるが、下層ほど色が濃く、古い時代の遺物が多く含まれる傾向が認められた。

第5層：明黄褐色を呈する土で、この付近の基盤層と考えられる層であり、この面において遺構が検出される。遺構検出面第5層で、調査区全体に広がる。

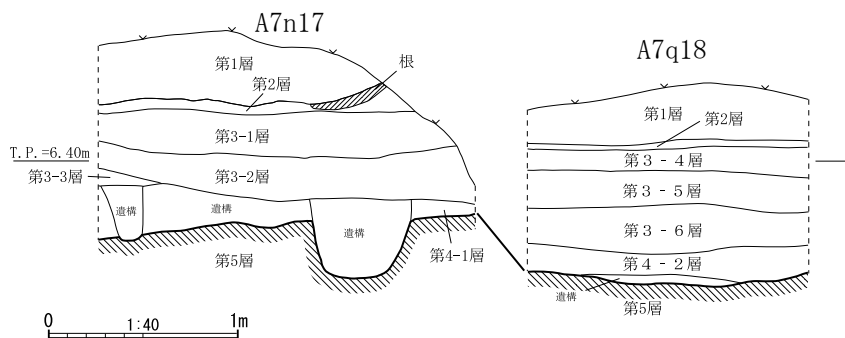


図5 第1次調査の基本層序（3区南壁土層堆積）

### 3 各遺構の調査結果

以下検出した主な遺構について古い時代順に記述する。

#### 368 竪穴建物（図6、33、写真図版3・16）

368 竪穴建物は、調査区東端に位置する。溝の幅は0.15m前後、断面形はU字形を呈し、残存する深さは0.05mである。円弧を描く形状であることから、円形竪穴建物の壁溝と考えた。南半分は後世の削平により失われているが、残存する円弧の規模から復元径は8.00m程度と考えられる。この壁溝から弥生時代終末期の甕（2）が出土した。この建物に伴う炉が372と考えられる。

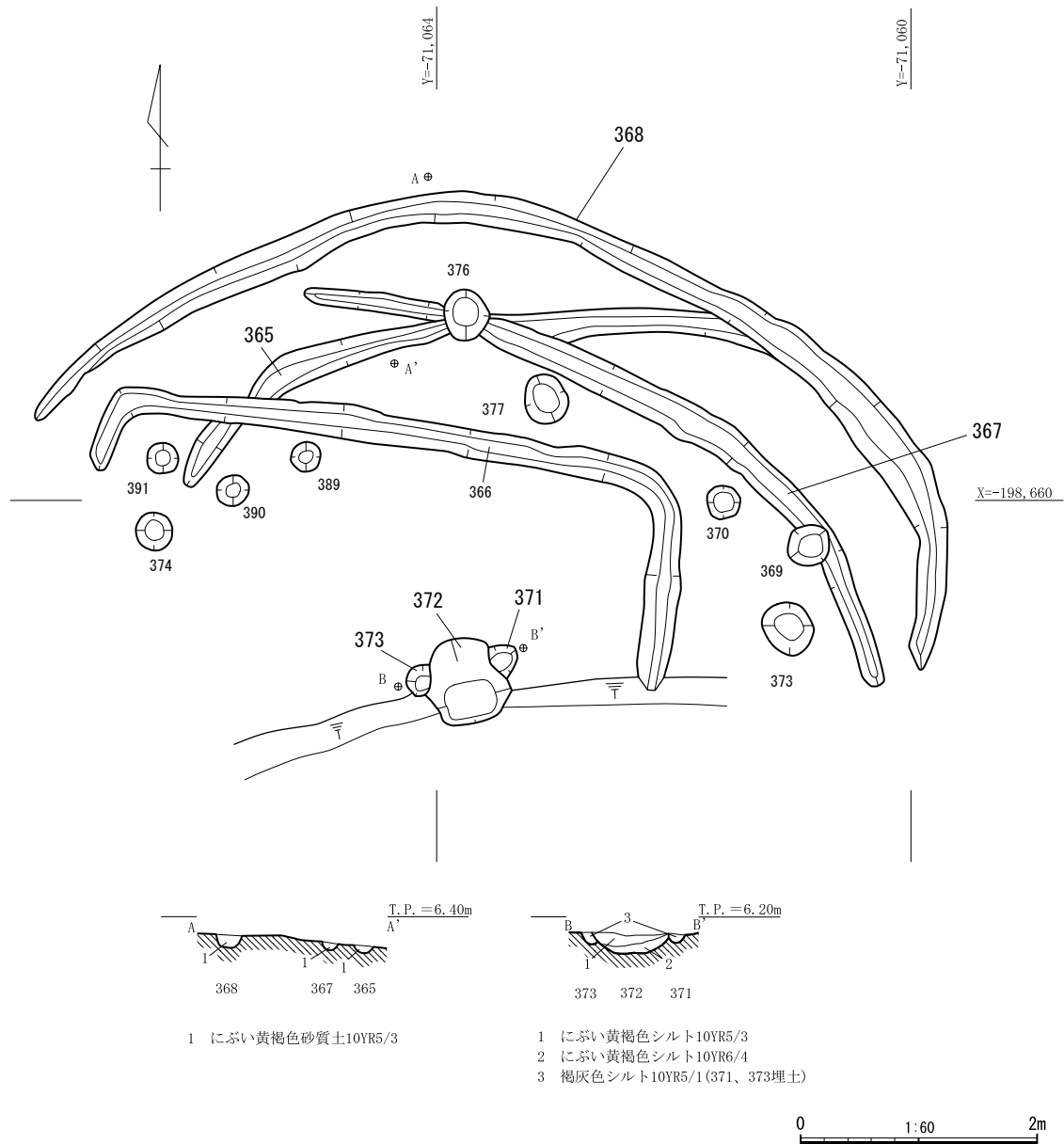


図6 3区 365・367・368 竪穴建物平面図・断面図



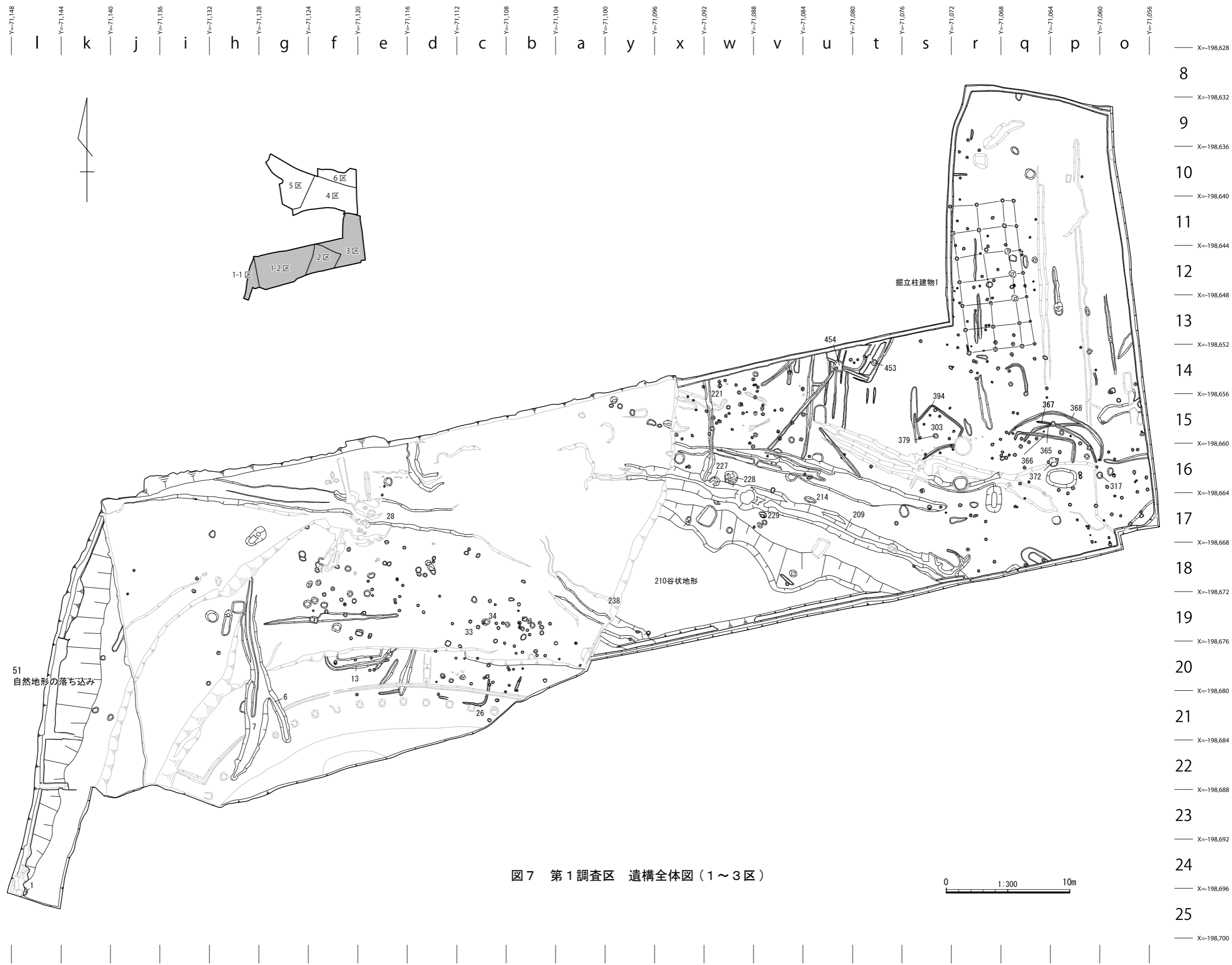


図7 第1調査区 遺構全体図(1~3区)

0 1:300 10m

えられ、長軸 0.72m、短軸 0.60m を測る。炉の断面形は緩やかな U 字形を呈し、残存の深さは 0.20m を測る。埋土には、焼土と灰が混じっており、甕（1）が出土した。372 炉の東西両端に、直径 0.20m の 371・373 小穴を検出した。小穴の断面形は、浅い U 字形を呈し、深さは 0.10m である。368 竪穴建物は、壁溝の平面形及び中央炉と、小穴の配置からいわゆる松菊里系住居と考えられる。同じ場所に建て替えを行い、円形住居は徐々に床面を拡張した後、方形竪穴住居に建て替えられ床面積を縮小したと推定される。基本的に 365 から 368 は同系列の住居で、367 と 368 の先後関係は明らかではないが、切り合い関係から 365 → 367 又は 368 → 366 の順に建て替えられたと考えられる。

### 367 竪穴建物（図 6、33、写真図版 3）

367 竪穴建物は、368 竪穴建物の内側に位置する。溝の幅は 0.15m 前後、断面形は浅い U 字形を呈し、深さは 0.05m を測る。この溝についても、竪穴建物の壁溝と考えられる。円弧の長さが短いため、その規模については判然としないが、復元径は 7.00～8.00m になると推定される。遺物は、細片ではあるが、弥生時代終末期と考えられる土器の細片が出土した。

### 365 竪穴建物（図 6、33、写真図版 3）

365 竪穴建物は、367・368 竪穴建物に重複していることから、両遺構に先行する竪穴建物の壁溝と考えられる。溝の幅は 0.15m 前後、断面形は浅い U 字形を呈し、深さは 0.05m を測る。規模については不明である。

### 366 竪穴建物（図 8、写真図版 3）

366 竪穴建物は、方形の竪穴建物の壁溝と考えられる遺構である。溝の幅は 0.20m 前後、溝の断面は浅い U 字型を呈し、深さは 0.10m を測る。南側は後世の削平により失われているが、残存する北側の長辺から一辺 5.00m の規模に復元できる。出土遺物がないため時期を明確にしがたい。

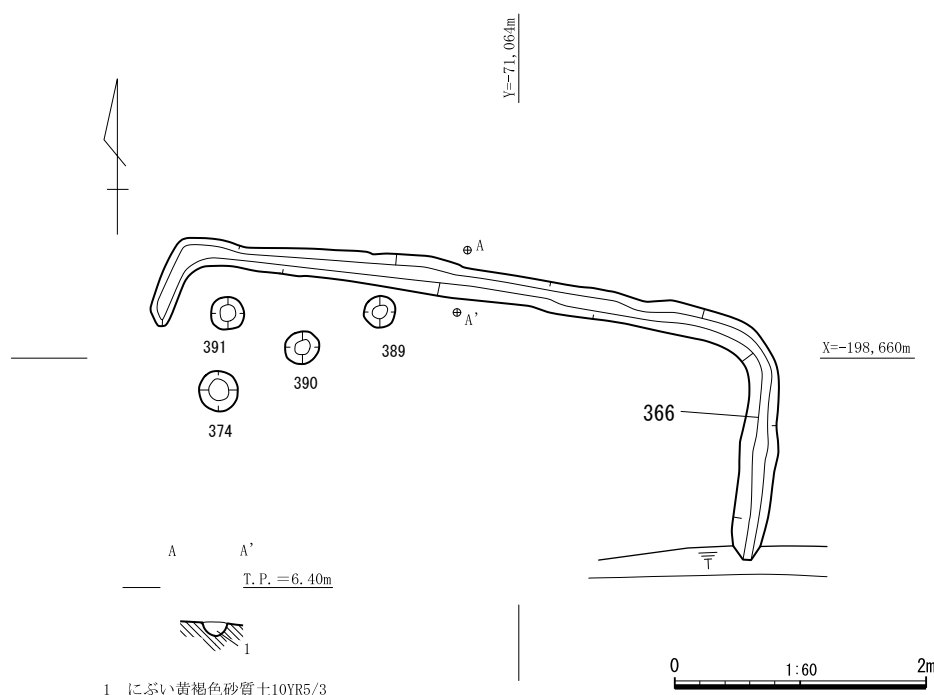


図 8 3 区 366 竪穴建物平面図・断面図



### 303 竪穴建物（図9、写真図版4）

366 竪穴建物の8 m西に位置する。壁溝である394溝と379炉で構成される。394溝の南西部分は後世の削平により失われているが、残存する北東側の長辺から一辺5.10mに復原できる。壁溝の断面は、逆台形で深さ0.15mを測る。379炉は、長軸0.60m、短軸0.50mを測り、歪

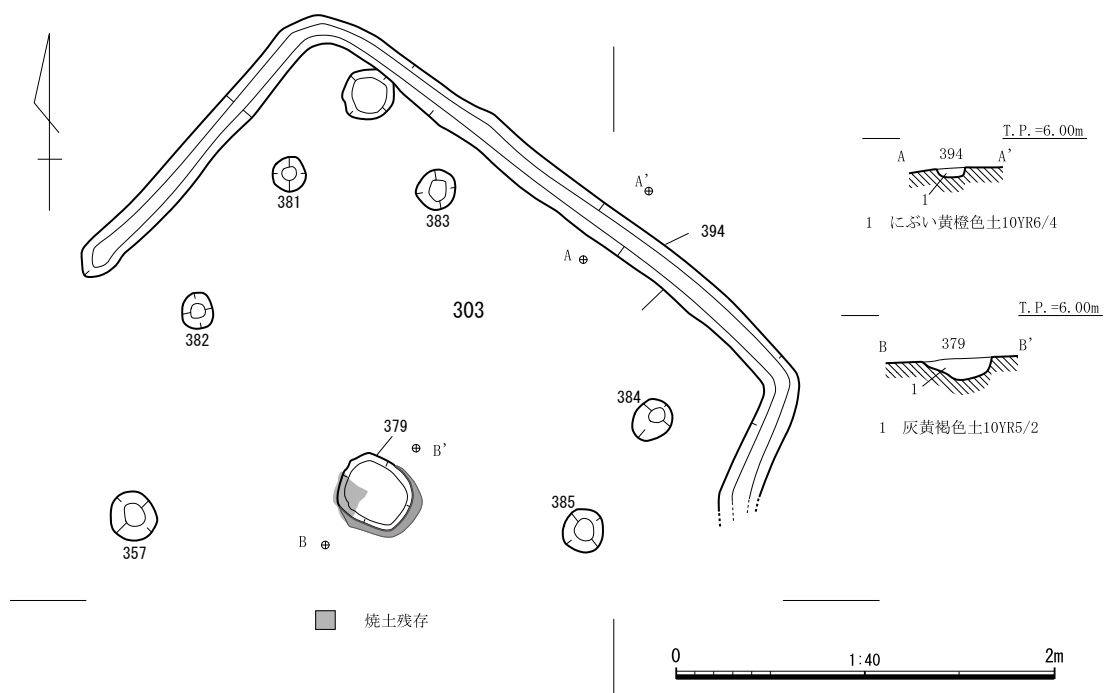


図9 3区 303 竪穴建物 平面図・断面図

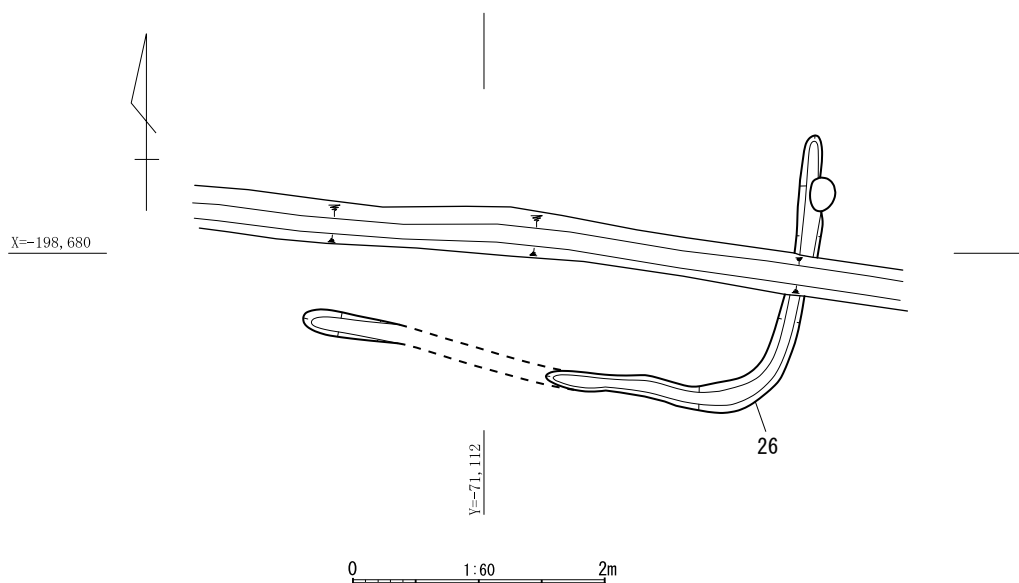


図10 1-2区 26 竪穴建物 平面図・断面図

な楕円形を呈する。断面形はやや形の崩れた皿形で、深さは 0.20m である。379 炉内部及び周囲に被熱痕を残す。出土遺物がないため時期を明確にしがたい。

## 26 竪穴建物 (図 10)

1 - 2 区中央南寄りの丘陵傾斜地に位置する。方形の竪穴建物の壁溝と考えられるが、残存率が悪く復元が困難である。壁溝の幅は約 0.30m で、断面は U 字形を呈する。出土遺物がないため時期を明確にしがたい。

## 13 竪穴建物 (図 11、写真図版 4)

調査区西側の丘陵斜面地で検出されたもので、幅 0.20m 前後、深さ 0.07m 前後の溝状の遺構である。直線的に 4.00m ほど延びたあと、両側で屈曲して、コの字状になっている。北側が後世の削平で失われているが、おそらく竪穴建物になる可能性が高いと推定される。内側で一段落ちることから、ベッド状遺構の構造であったと考えられる。出土遺物がないため時期を明確にしがたい。

## 6・7 溝 (図 12、33、写真図版 4・5・16)

1 - 2 区西半部の丘陵斜面地に位置する。6 溝は 7 溝から分岐し長さは 2.00m、幅 0.30m を測る。7 溝は長さ 8.00m、溝の幅は最大 0.70m、最小 0.30m である。断面形は皿形ないし不整形の皿形で深さは 0.25m から 0.50 m をである。南から北へ勾配がある。6 溝からは、土師器釜 (5)、東播系須恵器捏鉢 (6)、瓦器小皿 (7~10)、埴 (11) が出土した。7 溝からは、土師器皿 (12)・土師器埴 (13)、瓦器埴 (14) が出土している。出土した瓦器埴の形態から、鎌倉時代頃のものと考えられる。

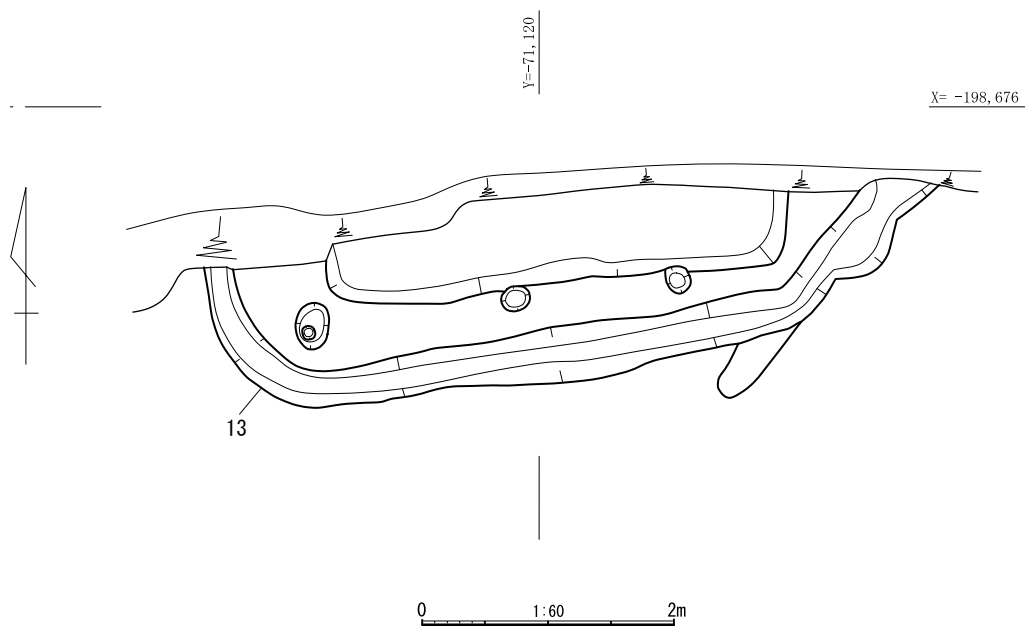
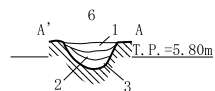
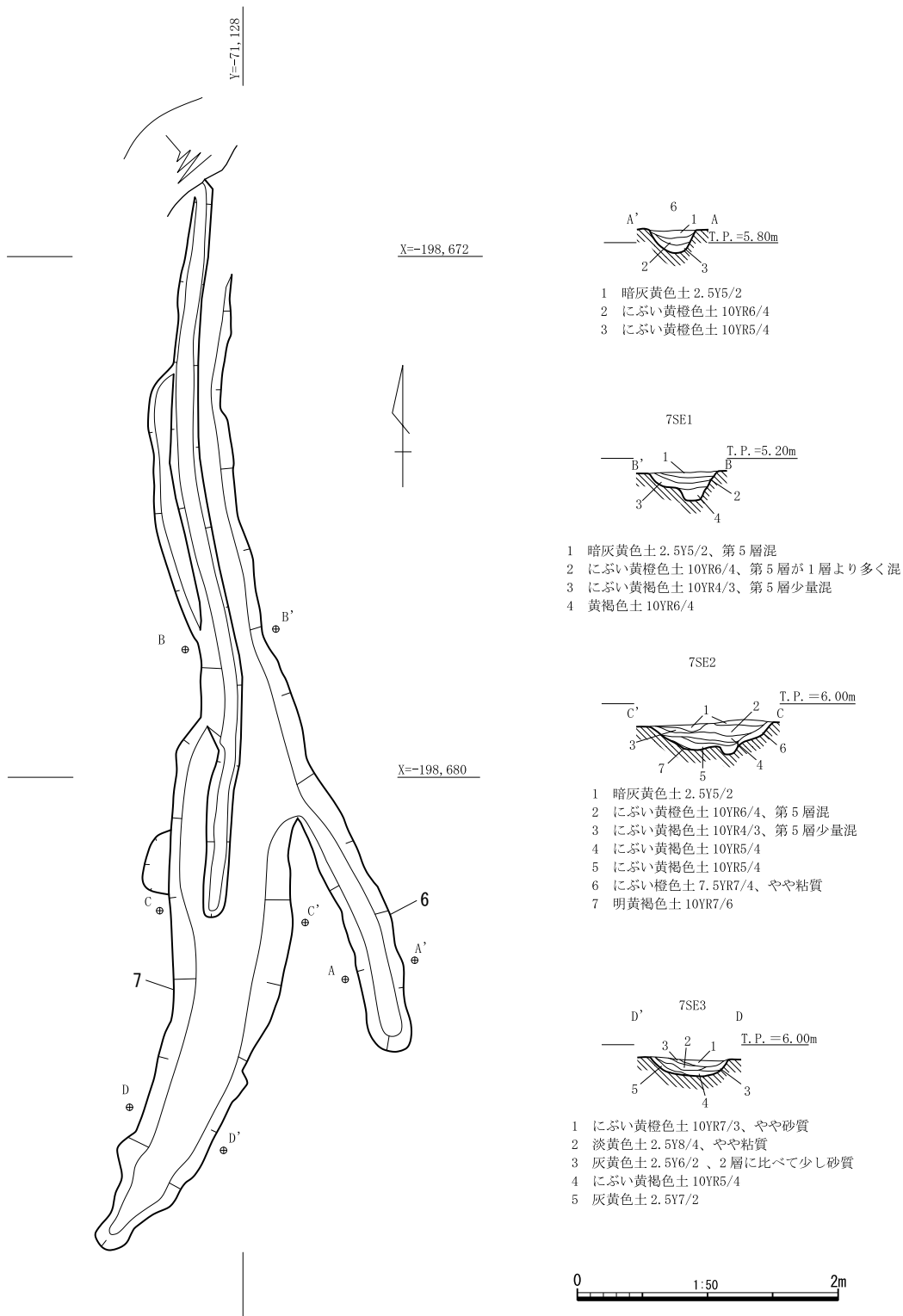
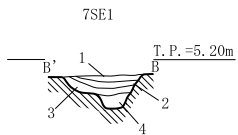


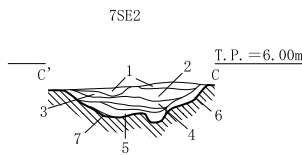
図 11 1-2 区 13 竪穴建物 平面図・断面図



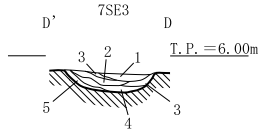
- 1 暗灰黄色土 2.5Y5/2
- 2 にぶい黄橙色土 10YR6/4
- 3 にぶい黄橙色土 10YR5/4



- 1 暗灰黄色土 2.5Y5/2、第5層混
- 2 にぶい黄橙色土 10YR6/4、第5層が1層より多く混
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3、第5層少量混
- 4 黄褐色土 10YR6/4



- 1 暗灰黄色土 2.5Y5/2
- 2 にぶい黄橙色土 10YR6/4、第5層混
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3、第5層少量混
- 4 にぶい黄褐色土 10YR5/4
- 5 にぶい黄褐色土 10YR5/4
- 6 にぶい橙色土 7.5YR7/4、やや粘質
- 7 明黄褐色土 10YR7/6



- 1 にぶい黄橙色土 10YR7/3、やや砂質
- 2 淡黄色土 2.5Y8/4、やや粘質
- 3 灰黄色土 2.5Y6/2、2層に比べて少し砂質
- 4 にぶい黄褐色土 10YR5/4
- 5 灰黄色土 2.5Y7/2

図12 1-2区 6・7溝 平面図・断面図

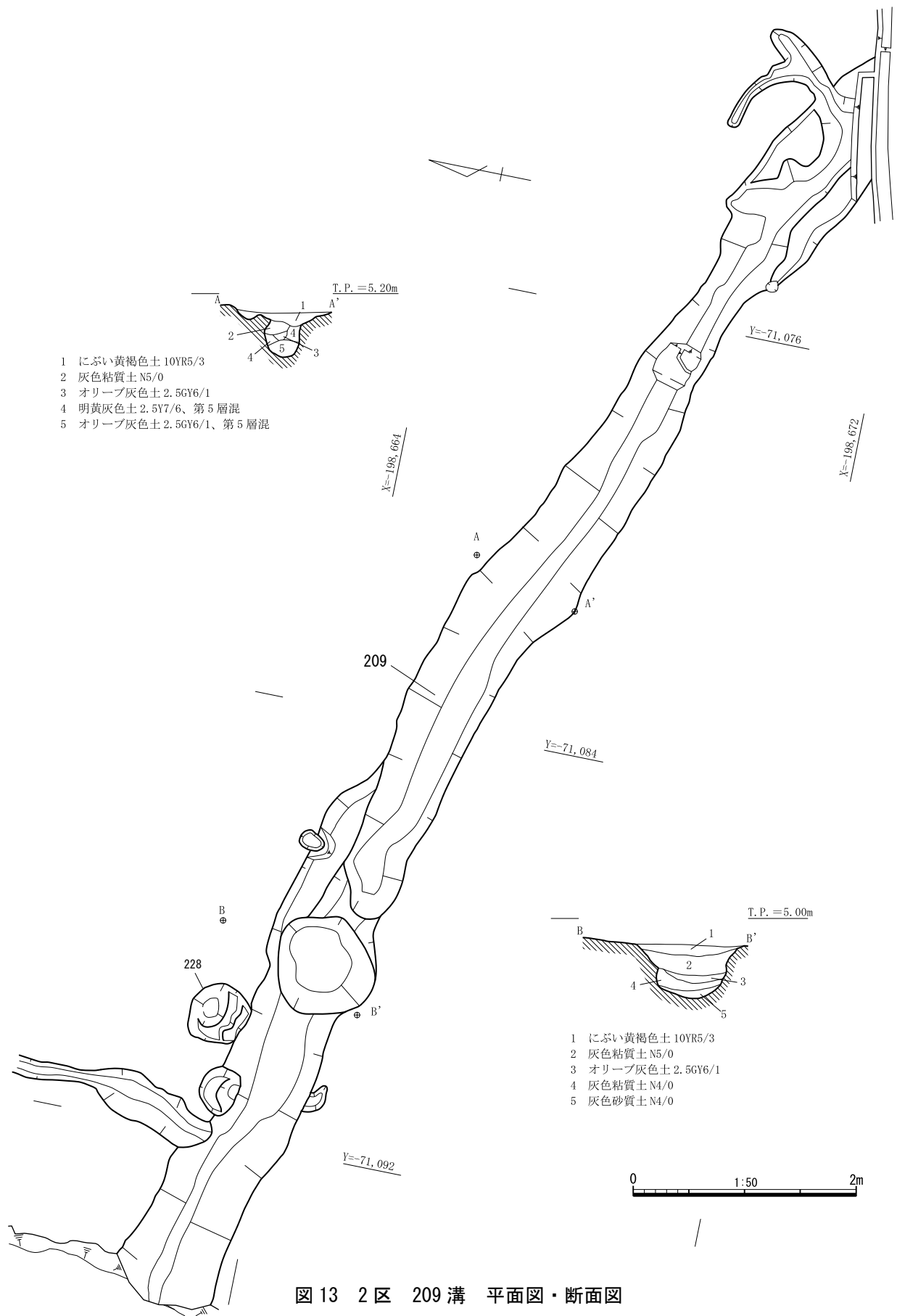


図13 2区 209溝 平面図・断面図

209 溝（図 13・33、写真図版 5・16）209 溝は、2 区中央に位置する。溝の幅は 1.50m、深さは最深部で 1.00 m を測る。埋土の下層には水の滞留による灰色粘質土 N 4 / やオリーブ灰色土 2.5GY 6 / 1 等の青みを帯びた粘土質の土、灰色砂土 N 4 / の堆積が認められた。谷部の北東肩に沿って流れるもので、出土した遺物から、谷が埋没して以降に掘削されたと考えられる。上位層には現代の溝が延び、地形的に谷筋の水を流すに最適の箇所であったとも考えられる。溝からは、土師器皿（15・16）、瓦器壺（17～20）、円筒埴輪片が出土した。出土した瓦器壺の形態から、鎌倉時代のものと考えられる。埴輪片は堆積過程での混入と考えられる。

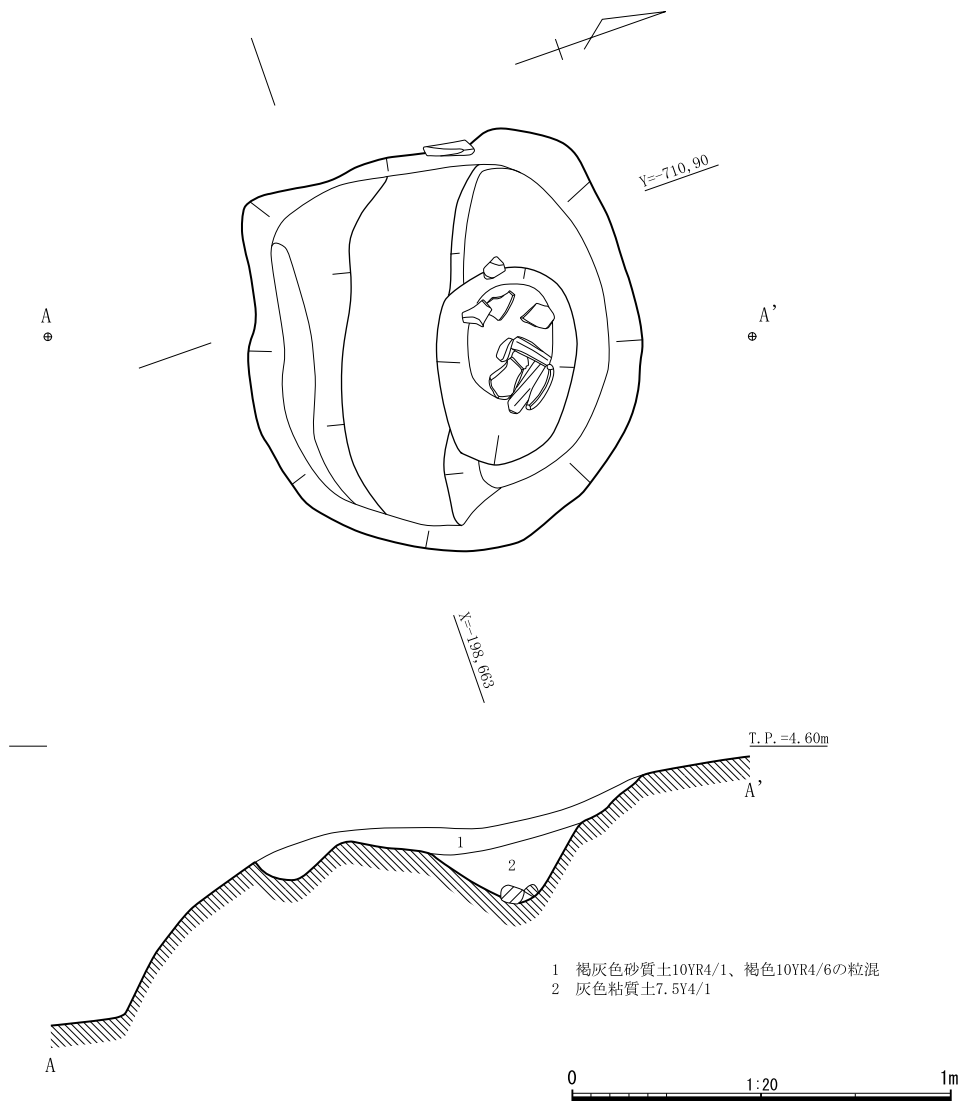


図 14 2 区 228 土坑 平面図・断面図

228 土坑（図 14・35、写真 5・18）

209 溝北側に近接して位置する。径 1.10m、深さ 0.35m ほどの土坑である。土坑内から、土師器皿（54）、瓦器壺（55・56）が出土している。

210 谷状地形 (図 15・33、写真図版 6)

210 谷状地形は 2 区から 3 区にかけて位置し、調査区中央を南東から北西にむけて横断している。谷状地形は調査区外へさらに広がると考えられる。埋土は、上層 (1 層)・中層 (2 層)・

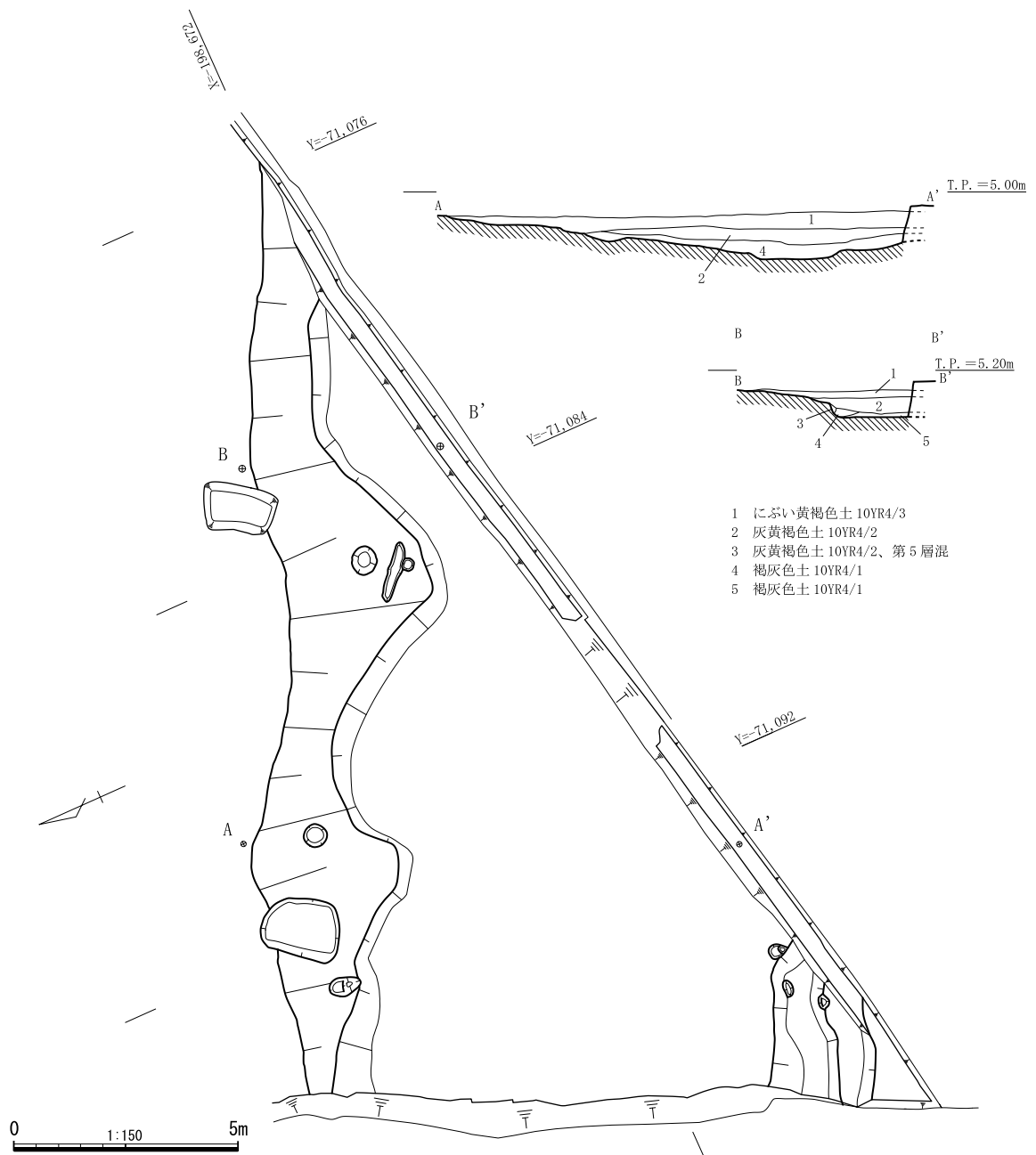


図 15 2 区 210 谷状地形 平面図・断面図

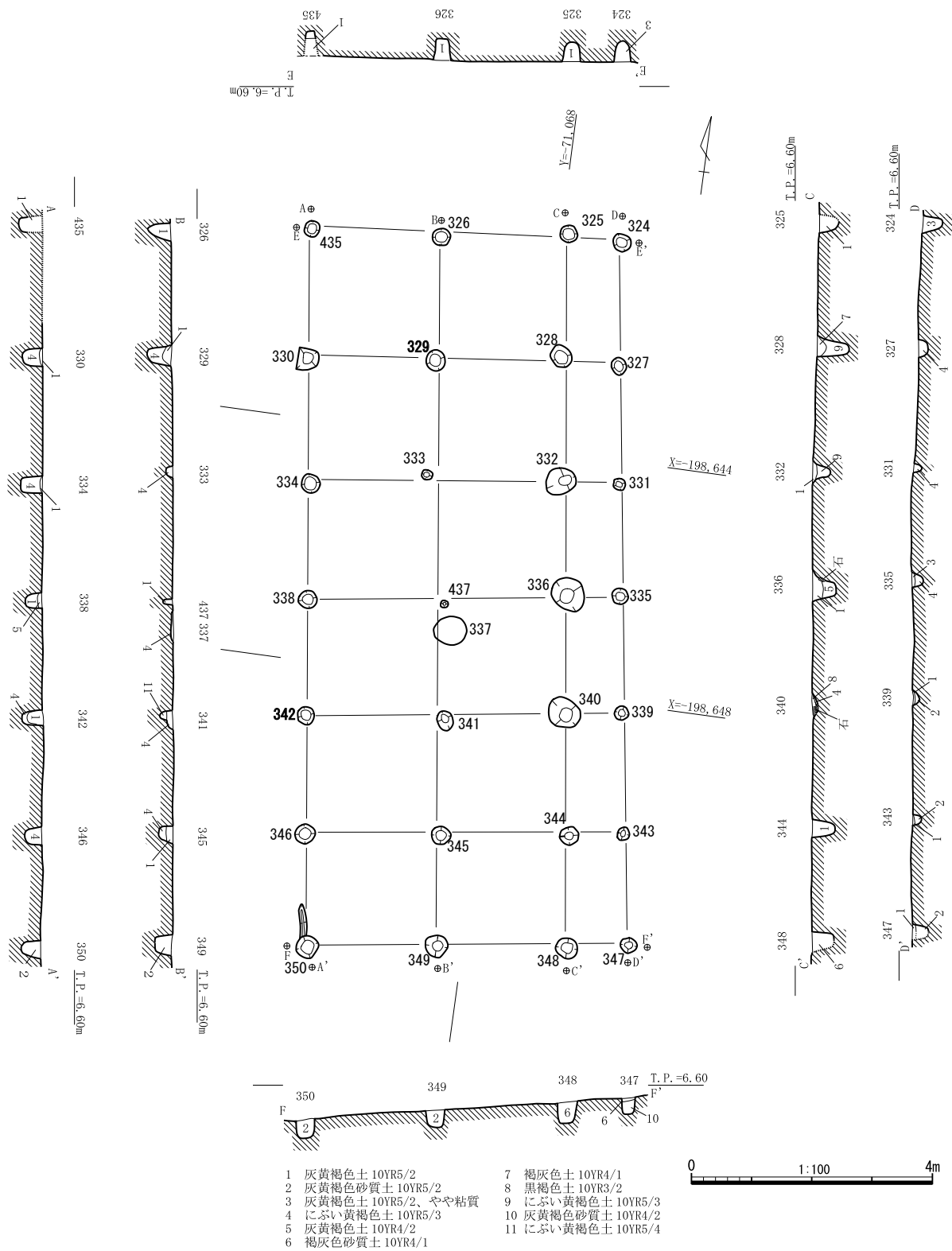


図 16 3区 掘立柱建物跡 1 平面図・断面図

下層（3・4・5層）に分かれ、中層からは庄内併行期の広口壺（22）、甕（23）、高坏（24・25）、鉢（27）や、奈良時代のものと思われる須恵器坏（28・29）が出土した。上層からは、庄内式併行期のものと思われる鉢（26）や、中世の瓦器碗（30）が出土した。中層から奈良時代の遺物が出土することから、少なくともこの時期以前に谷地形の形成がはじまり、中世の段階に埋没と推定される。

### 掘立柱建物 1（図 16、写真図版 6）

3区北端に位置する。東西2間（5.80m）、南北6間（12.00m）を測る掘立柱建物で、東側に半間の出庇がつく。柱掘形の径は0.40 m前後で、深さは0.30 m前後を測る。柱間は、東西が2.10m前後、南北が1.90 m前後を測る。南北列の柱列のうち、両側が整然とした並びであるのに対して、中央の柱列がやや不揃いである。出土遺物が極僅かなため時期は明確にしがたいが、古代ないし中世と考えられる。

### 51 自然地形の落ち込み（図 17・34・35）

調査区西端に位置する。おそらくこれが丘陵の末端部に相当する。埋土は3層に分かれ、各層に弥生時代から中世までの遺物を含み、特に奈良時代の遺物を多数含む。遺物は、弥生土器壺蓋（31）、長胴甕（32・33）・皿（35）・高坏（36）・鉄鉢（37）、須恵器甕（39）・皿（40・41）・坏（42～45）・長頸壺（46・47）、黒色土器碗（48）、石製紡錘車（64）等が出土している。

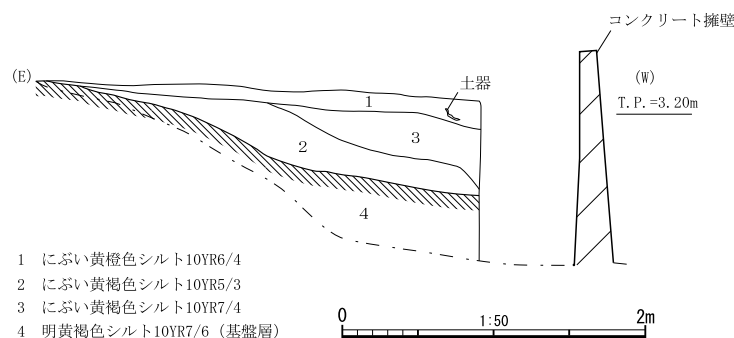


図 17 1-1 区 51 自然地形の落ち込み 断面図

### その他の検出遺構と遺物（図 7・35）

453 土坑は 3 区西端に位置し、土師質の土製円板（49）が出土した。317 土坑は 3 区東南端に位置し、黒色土器 B 類碗（50）が出土した。214 土坑は 2 区に位置し、中世の瓦器皿（51）と碗（52）が出土した。229 土坑は 2 区に位置し、土師器皿（53）が出土した。238 溝は 1 - 2 区と 2 区の境界の南端に位置し、奈良

時代のものと考えられる須恵器薬壺（57）が出土した。221 溝は 2 区北西端に位置し、中世の土師器羽釜（58）が出土した。33 土坑は 1 - 2 区に位置し、中世の瓦器皿（59）が出土した。34 土坑は 1 - 2 区に位置し、中世の瓦器皿（60）が出土した。454 土坑は 3 区西端に位置し、土玉（63）が出土した。28 溝は 1 - 2 区北側に位置し、一石五輪塔（66）が出土した。

包含層からは、土師器皿（61）、形象埴輪の破片（62）、サヌカイト製の石剣（65）が出土している。遺物包含層は中世に堆積したものと考えられる。



## 第2節 第2次調査の成果

### 1 第2次調査の概要 (図19)

調査区は、現里道をはさみ第1次調査の北側に位置する。北・東側は丘陵部の裾に当たり、西・南に開けた谷間地である。北側の最も高い箇所（6区北端の耕作土上面）ではT.P.8.00mを測る。南西側に向かって下っており、最も低い箇所（5区南端の耕作土上面）でT.P.5.00mを測る。その比高は約3.00mほどである。

調査区の中央のやや南側を、西流する自然流路が検出された。遺構検出は、基盤層である第9層及び第10層上面で行った。4・6区では旧地形の傾斜が緩やかで、竪穴建物、掘立柱建物などが検出された。それに対して、5区では旧地形の傾斜が急で検出された遺構は少なく大部分を斜面地と自然流路が占めた。

遺物は、弥生時代末～古墳時代初頭の土器・石器、古代、中世の土器が出土した。自然流路からは特に多くの遺物が出土した。

### 2 基本層序と遺構面 (図18、写真図版9)

第1層：第1層が現代の耕作土。(第1次調査の第1層に相当。)

第2層：第1層に伴う床土、黄色シルト。(第1次調査の第2層に相当。)

第3層：にぶい黄色細砂層、近代の耕作土と考えられる。

第4層：オリーブ褐色シルト、近代の耕作土と認められる。

第5層：灰黄色細砂層、近世の耕作土と考えられる。

第6層：オリーブ褐色細砂層、土器をわずかに含む。(第1次調査の第3層に相当。)

第7層：黄灰色シルト層、鉄、マンガンで着色され中世の遺物を含む遺物包含層。調査区のほぼ全面に堆積している。(第1次調査の第4-1層に相当。)

第8層：灰色シルト層、同色の細砂と黒褐色のシルトを含み全体的に暗色を呈する。中世の遺物を含む遺物包含層(第1次調査の第4-2層に相当。)

第9層：明黄褐色の風化した変成岩で構成される。基盤層で調査区の極一部にある。第10層同様基盤層と考える。

第10層：明赤褐色の岩相で、風化した変成岩で構成される。基盤層で調査区ほぼ全体に広がる。(第9及び10層は第1次調査の第5層に相当。)

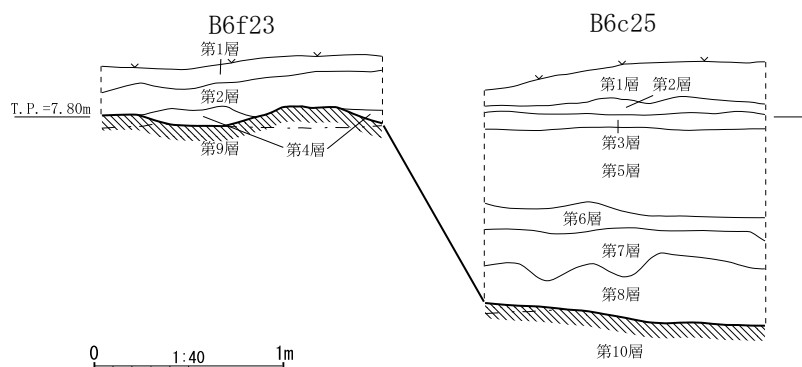


図18 第2次調査の基本層序(5区北壁)



图 19 第 2 次調査区 遺構全体図 (4 ~ 6 区)

### 3 各遺構の調査結果

以下検出した主な遺構について古い時代順に記述する。

#### 101 竪穴建物 (図 20・36、写真図版 9・18・19)

自然流路の北側 10.00 m 付近、4 区と 6 区に跨って位置する。平面形は方形で、平面規模は、長辺 6.40 m、短辺 5.20m 以上を測る。近世以降の杭列とおもわれる多数の小穴、中世の 100

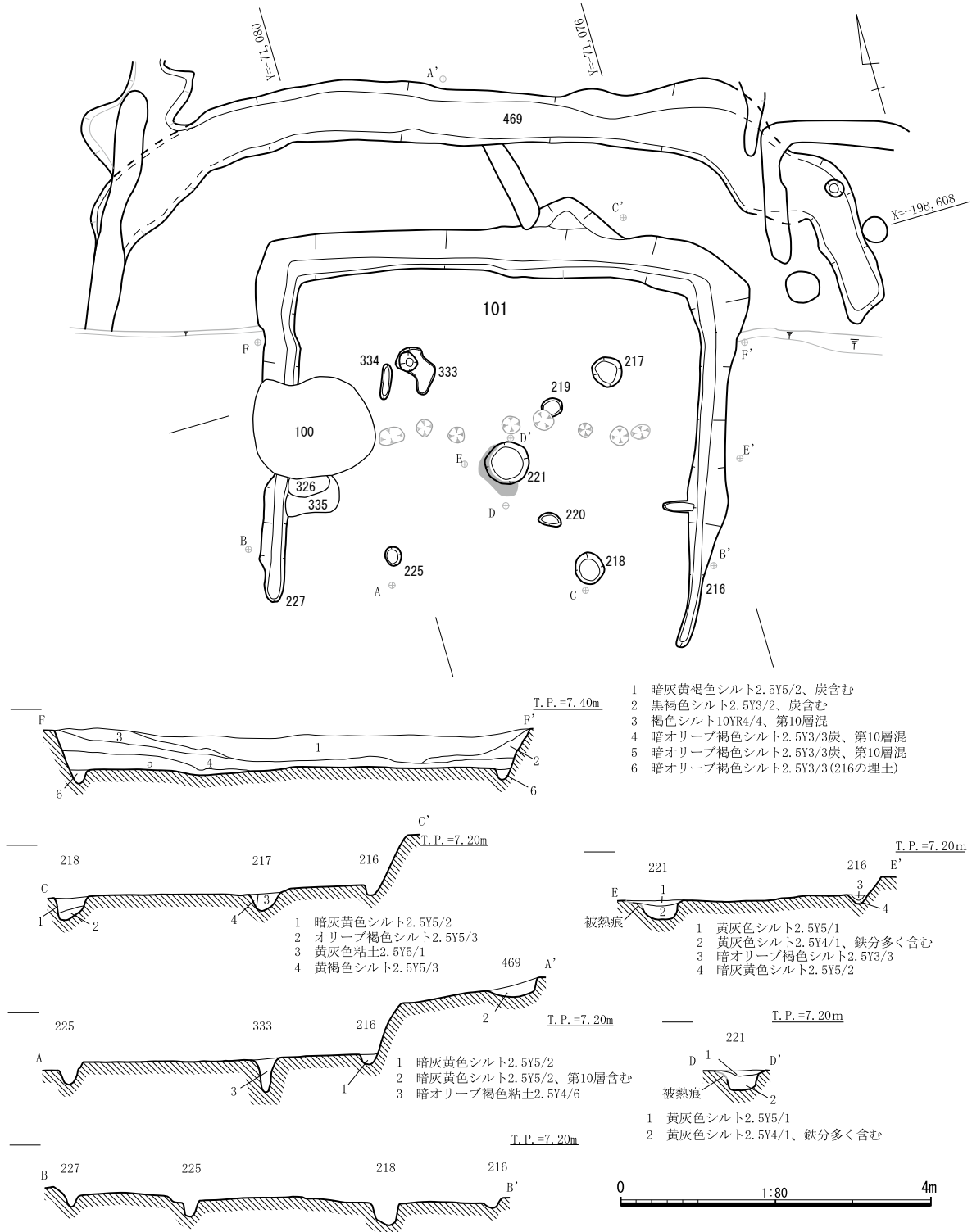


図 20 4 区 101 竪穴建物 平面図・断面図・エレベーション図

溜榭、掘立柱建物4の326柱穴、335土坑と重複関係にあり、それらよりも古い。主柱穴は、217、218、225、333である。主柱穴の掘方は、0.20～0.40mの円形ないし不整形円で、深さは0.24～0.40mを測る。壁の残存高は、北側の最も高いところで0.72mを測り、南に向かうにつれ浅くなる。壁際には幅0.16～0.24mの壁溝が巡らされ、東辺、西辺、北辺で残存しているが、南辺では削平されたものと考えられる。主柱穴のほぼ中央に径0.48mの円形で、深さ0.28mの221炉がある。炉の壁面の一部と外側に被熱の痕跡が認められる。埋土からは、弥生時代終末期の広口壺(68)、高坏(77・78)、広口壺(67)、壺(69・73)、甕(71・72・74・75・82)、小型鉢(76)、器台(79・80)が出土した。長胴甕(81)は、建物廃絶後、埋没の最終段階の時期も示すと考えられる。101 竪穴建物の時期は、これらの遺物の様相から概ね庄内式併行期最終段階～布留式併行期古段階と考えられる。

469 溝は、101 竪穴建物の北側1.30mに位置する。101 竪穴建物を囲むように位置しコの字形を呈する。幅0.60～0.80m 深さ0.16mを測る。埋土からは、布留式併行期の甕(70)、丸底土器(83)、高坏(84)が出土している。101 竪穴建物の北辺と469 溝の間に周堤帯と思しき高まりは検出できなかったが、469 溝は周堤帯の外側を巡る溝の痕跡であると考えられる。469 溝の時期も概ね、101 竪穴建物と同時期と考えられる。

#### 102 竪穴建物 (図21・36・37、写真図版10・19・20)

自然流路東端の北側4.00m付近に位置する。平面形は方形で、1辺が5.00mを測る。床面には貼床が構築されており、7箇所の小穴を検出している。うち主柱穴は299、301、322、323である。主柱穴の直径は、0.28～0.40mの円形ないし方形で、深さは、0.20～0.48mを測る。壁の残存高は最も高いところで0.30m、南に向かうに従い低くなり最も低いところで0.04mを測る。建物の壁際には0.12～0.26mの幅の壁溝が巡らされている。柱穴のほぼ中央に長軸0.52m、短軸0.49mの方形で、深さ0.03mの325炉がある。炉の中心付近には被熱の痕跡が認められる。壁溝は幅0.08mから0.16mの幅で全周している。北東隅に長軸1.80m、短軸0.90m、深さ0.10mの不定形の土坑が検出された。南壁中央からやや西に、長軸0.94m、短軸0.84m、深さ0.12mの楕円形の298土坑が検出された。両者とも浅いため、貯蔵穴とは考えにくい。また、これらの遺構を連結するように幅0.10～0.24m、長さ2.68mの324溝が検出されている。これらの土坑、溝の機能は判然としないが、屋内の排水施設の可能性がある。建物跡の南東隅からは、幅0.20m～0.25mの排水溝と考えられる243溝がのびている。後に述べるが、周堤帯が存在した可能性があるため、暗渠か溝に蓋があった可能性がある。243溝からは、庄内～布留式併行期の壺(100)、高坏(101)が出土している。

101 竪穴建物遺構埋土の最上層の黒褐色シルト層からは、二重口縁壺(86)、長頸壺(87)、小型丸底壺(89)、器台(92)、高坏(96)が出土している。これらの遺物は、建物が廃絶された後に埋没の過程で投棄されたものと考えられる。埋土からはその他に、二重口縁壺(85)、台付甕(90)、高坏(91)、甕(93、94、95、98)が出土し、1層からは韓式系土器(97)が出土している。貼床の床面で検出された土坑298からは、小型丸底土器(88)が出土している。出土遺物から建物跡の時期は布留式併行期と考えられる。

102 竪穴建物の調査の最終段階で、貼床を除去したところ、102 竪穴建物の平面プランの範囲内から、327溝、328、329、330小穴が検出された。327溝は幅0.10m、深さ0.04mを

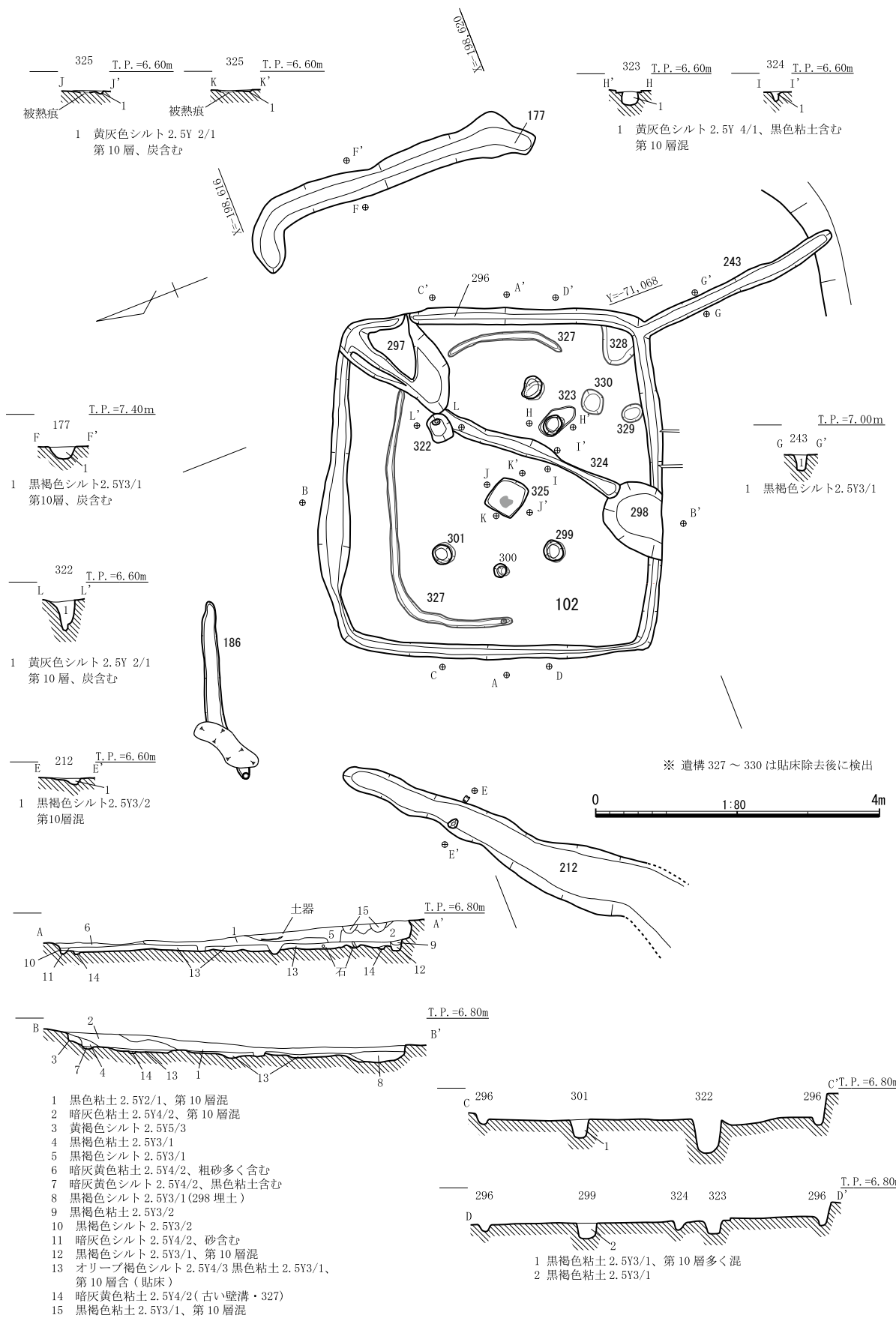


図 21 4区 102 竪穴建物 平面図・断面図・エレベーション図

測る。この溝は途中で途切れているものの、平面形は楕円形ないし隅丸方形と推定される。327 溝の長辺は、4.0 mを測る。短辺は不明である。この溝は、102 竪穴建物の前身の建物跡の壁溝とも考えられる。102 竪穴建物は、327 溝とほぼ同位置で竪穴を掘り直し、建物の規模を拡張し、貼床を構築した上で建物を構築したものと考えられる。327 溝については、壁溝から遺物が出土していないため、その時期は不明である。また、その他の小穴との関係性も不明である。

102 竪穴建物の東・西・北に溝が検出された。いずれの溝も、竪穴建物の東辺、西辺、北辺に沿うように位置しているため、竪穴建物に関連する遺構と考えた。以下にそれぞれの規模を記す。

177 溝は東側 2.20m 付近に位置し、溝の幅は 0.45m から 0.65m で、長さは 4.35m、深さは 0.17m を測り、南に向かって傾斜する。埋土から甕 (99) が出土した。時期は布留式併行期と考えられる。

186 溝は北側 2.00m 付近に位置し、溝の幅は 0.20m から 0.24m で長さは 2.60m、深さは 0.03m を測り、西に向かって傾斜する。

212 溝は西側 2.40m 付近に位置し、幅 0.30m、0.82m で長さは 4.35m、深さは 0.08m を測り、南に向かって傾斜する。南に向かって傾斜し、消失する。

今回の調査では、各溝と竪穴建物の間に周堤帯と考えられる高まりを検出することはできなかった。

### 103 竪穴建物 (図 22・37、写真図版 11・20)

調査区中央付近北側に位置する。平面形は方形で、長辺が 4.35 m、短辺が 4.20m を測る。中世の 292 溝に切られる。床面では、7 箇所的小穴が検出されているが、支柱穴は 282、283、284、285 と考えられる。支柱穴の直径は、0.28 ~ 0.40 m の楕円形で、深さは 0.20 ~ 0.24 m を測る。壁の残存高は北側の最も高いところで 0.50m を測り、南に向かうにつれ浅くなる。建物跡の壁際には 0.10m から 0.20m の幅の壁溝が巡らされており、全周している。支柱穴のほぼ中心に長軸 0.67m、短軸 0.59m の楕円形で、深さ 0.20m の 286 炉がある。炉の底面には、0.08m 前後の小穴が 3 箇所検出されている。炉の底面および壁面の一部には被熱の痕跡が認められる。建物の東壁の中央付近に 293 土坑、南壁の中央からやや西に 287 土坑、西壁の中央から 1 m 程南に 294 土坑が検出された。いずれも残存する深さは 0.08 m から 0.16 m と浅く貯蔵穴とは考えにくく、それらの機能は不明である。

遺構埋土からは、壺 (102) と、小型の鉢 (103) が出土している。出土遺物の量が少なく時期は判然としないが、概ね布留式併行期と考えられる。

### 189 竪穴建物 (図 23、写真図版 11)

竪穴建物 102 の北側に位置する。削平により北辺および西辺の壁溝の一部が残存しているに過ぎない。建物の残存率が悪く、かろうじて平面形が方形であることが推定できるほかは、平面規模、壁の高さなどは不明である。床面と推定される範囲からは、複数の小穴を検出している。その中で位置関係からこの建物の支柱穴は 184、185、204、206 であると考えられる。支柱穴の直径は 0.56 ~ 0.64 m の楕円形ないし不正円形で、深さは 0.16 ~ 0.40m を測る。4 箇所 of 支柱穴の中心には、炉と思しき痕跡は検出できなかった。支柱穴からは、土師器や須恵器の小片が出土した。時期は判然としないが、古墳時代と考えられる。

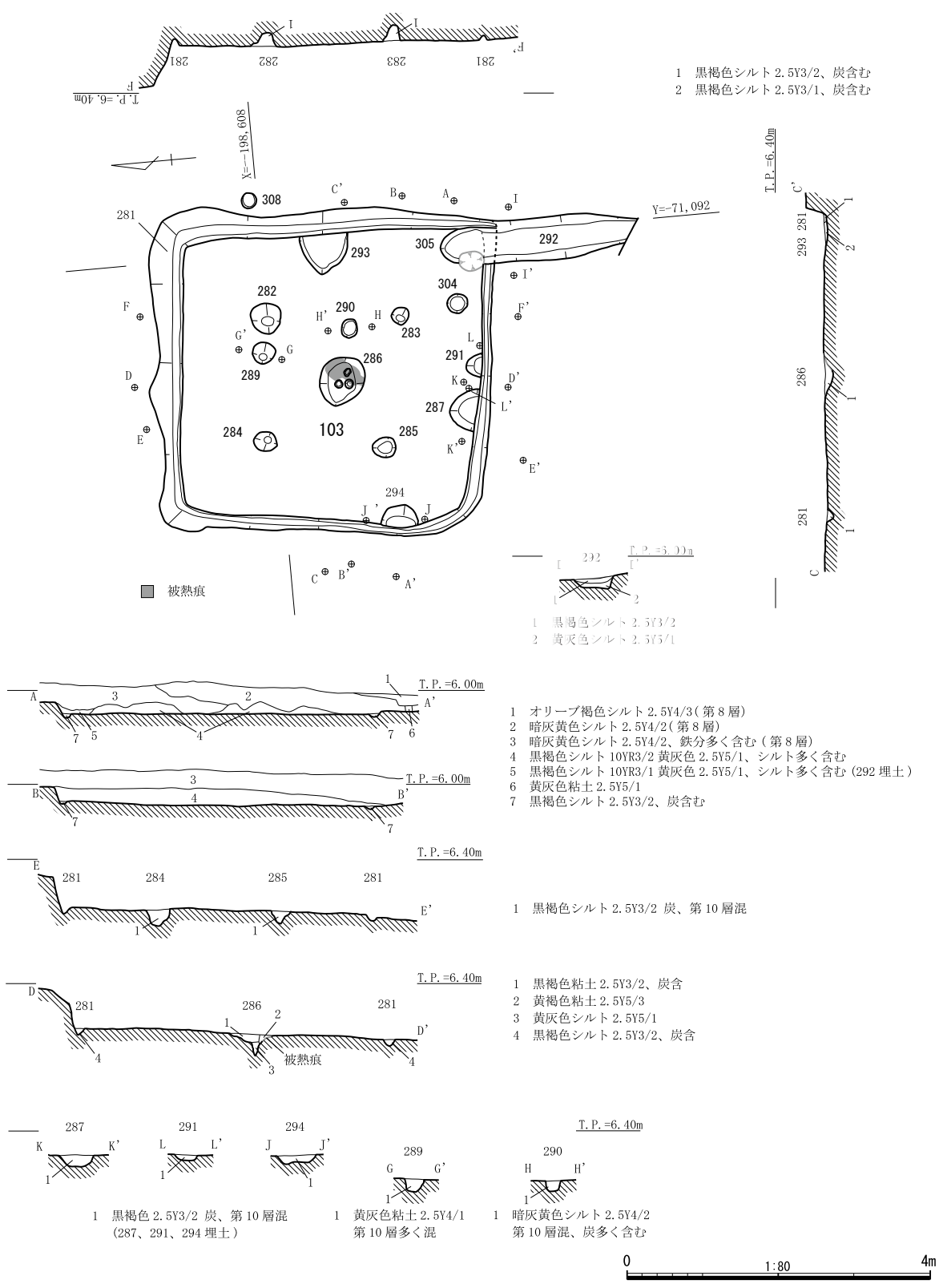


図 22 4 区 103 竪穴建物 平面図・断面図・エレベーション図

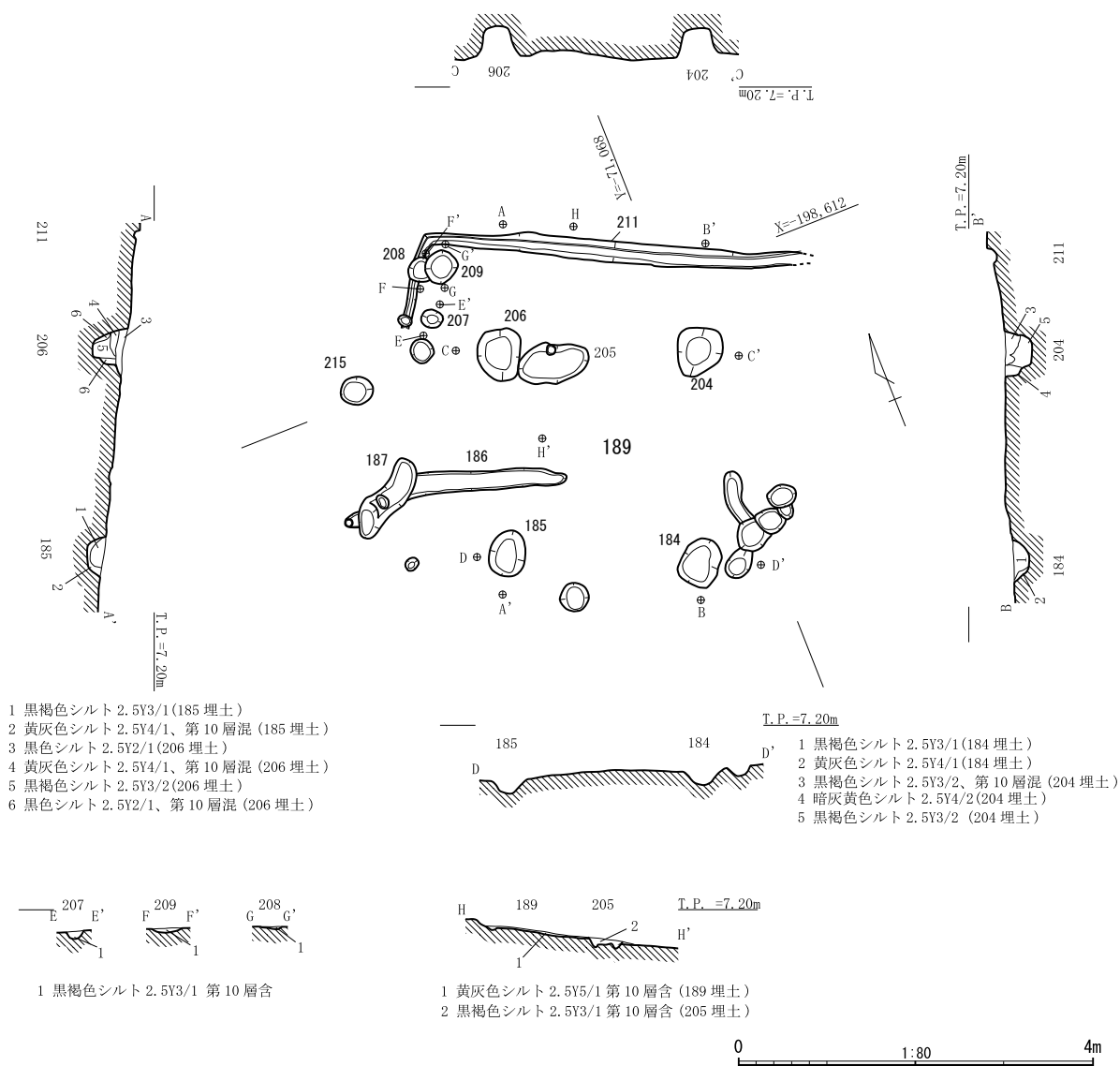


図 23 4 区 189 竪穴建物 平面図・断面図・エレベーション図

### 223 竪穴建物 (図 24・38、写真図版 13・20)

竪穴建物 101 の南に位置する。方形建物の壁溝と考えられるが、残存状況が悪く北辺は 5.80m、東辺は 3.28m 以上を測る。西辺は及び南辺は削平により消失している。壁溝の幅は 0.32 ~ 0.40 m で、断面は U 字形を呈する。壁溝内には、小穴 228、237、238、239、295 がある。228 及び 295 が柱穴の可能性はあるが、判然としない。壁溝の埋土からは、土師器の二重口縁壺 (104)、甕 (105、106)、高坏 (107、108)、小型の鉢 (109) が出土している。時期は布留式併行期と考えられる。

### 277・278 竪穴建物 (図 25・38、写真図版 13・20)

223 竪穴建物の西側に位置する。方形の竪穴建物の壁構が残存したものである。北、北東部分の傾向のみが残存しており、規模は 6.0m 前後の方形と考えられる。中央付近に小穴 279、303 が南北に並ぶ。これらの小穴が柱穴であるかは不明である。壁溝からは、土師器二重口縁壺 (110)、高坏 (111)、器台 (109)、甕 (113)、鉢 (114) が出土している。時期は庄内式併行期と考えられる。



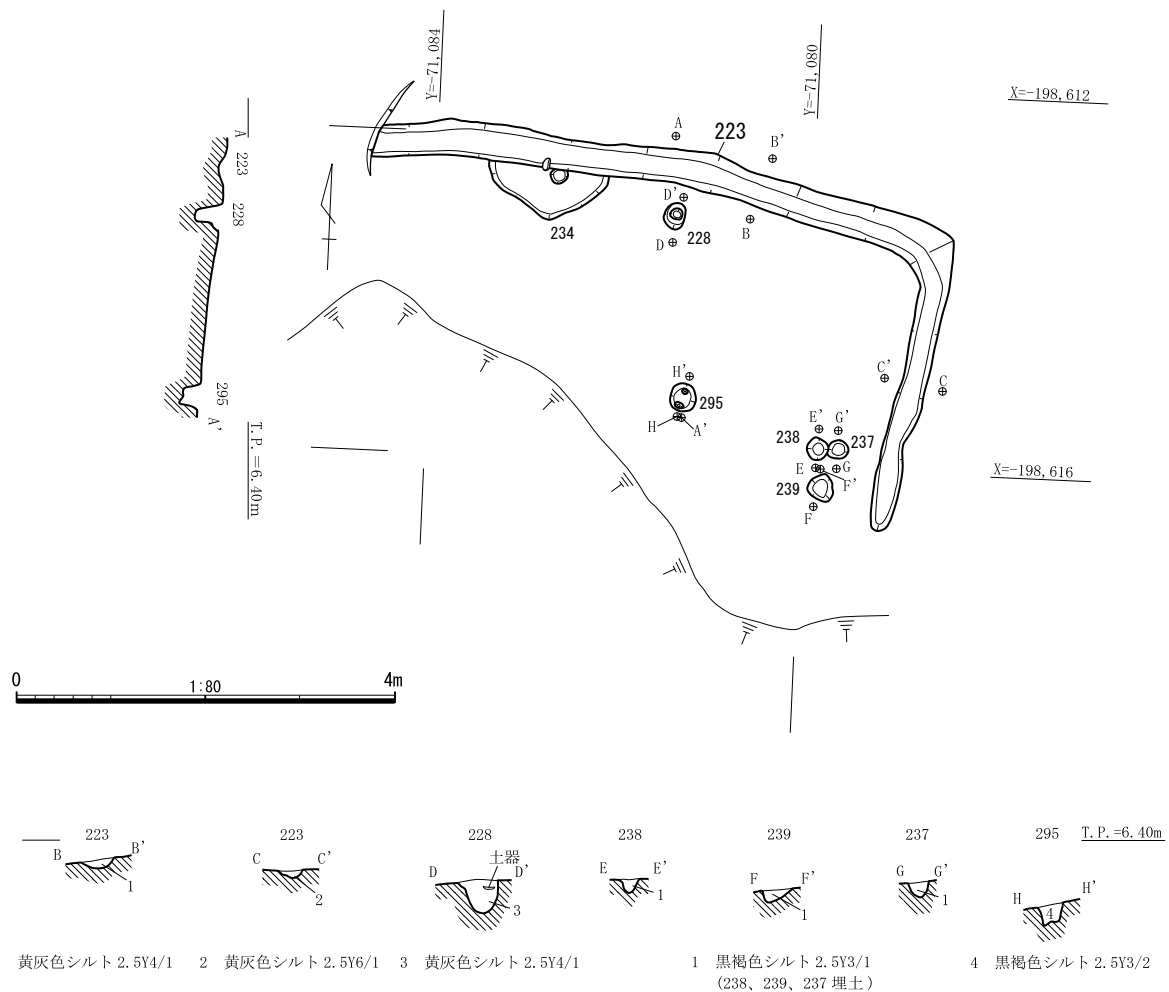


図 24 4区 223 竪穴建物 平面図・断面図

#### 457 竪穴建物 (図 24・38、写真図版 12・20)

101 竪穴建物の北に位置する。456 竪穴建物に切られることから、456 竪穴建物に先行すると思われる。建物の東半分は、456 竪穴建物に切れ大半が失われ壁付近を巡る壁溝と支柱穴と炉が残存していた。対して西側は壁が残存していた。残存する西側の壁、東側の壁溝から平面形は長方形で、長辺は 5.44 m、短辺は 5.28m を測る。457 竪穴建物の支柱穴は、503、511、512、517 と考えられる。支柱穴の直径は、0.32m 前後の楕円形で、深さは 0.32m ~ 0.48m を測る。東側の壁は失われているものの、西側の壁の残存高は、最も高いところで 0.70m を測り、南に向かうにつれ浅くなり消失する。建物の壁際には壁溝が巡らされている。516・498 溝が壁溝と考えられ、溝の幅は 0.22 ~ 0.48m、深さは 0.16m を測る。中央付近に、長軸 0.52m、短軸 0.44m、深さ 0.10m の楕円形の 509 炉がある。炉に被熱痕は認められない。496 溝は途中で途切れるものの、排水溝の可能性はある。埋土からは、庄内~布留式併行期の広口壺 (123)、高坏 (124)、甕 (125)、弥生土器の壺 (126)、須恵器坏蓋 (127)、須恵器甕 (128)、器種不明の土師器 (129) が出土している。時期は庄内式併行期と考えられる。須恵器片は埋土上層から出土しているため、埋没の最終段階の時期を示していると考えられる。

456 竪穴建物（図 26・38、写真図版 12・20）

平面形は方形で、長軸が 5.07 m、短軸が 3.87m を測る。支柱穴は、505、506、508、515 と考えられる。支柱穴の直径は 0.32 ～ 0.64m の楕円形で、深さは、0.08 ～ 0.44 m を測る。壁の残存高は、最も高いところで 0.42m を測り、南に向かうにつれ浅くなり消失する。壁周辺には壁溝は認められない。建物の中心付近に炉も確認できなかった。埋土からは、壺（115）、甕（116）、高坏（117・119）、ミニチュア小型丸底土器（118）、須恵器坏蓋（120）、甕（121）、甕（122）が出土している。時期は、庄内併行期と考えられる。須恵器片は埋土上層から出土しているため、埋没の最終段階の時期を示していると考えられる。

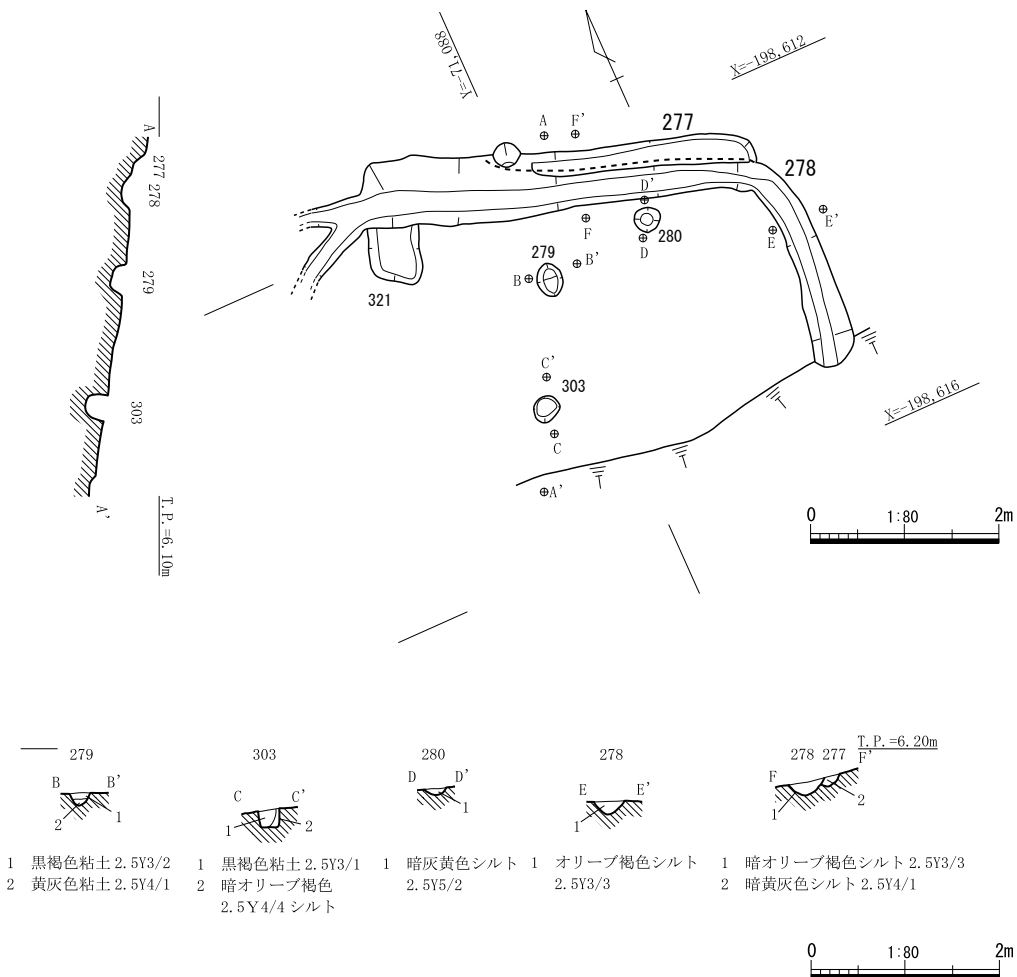


図 25 4 区 277・278 竪穴建物 平面図・断面図・エレベーション図

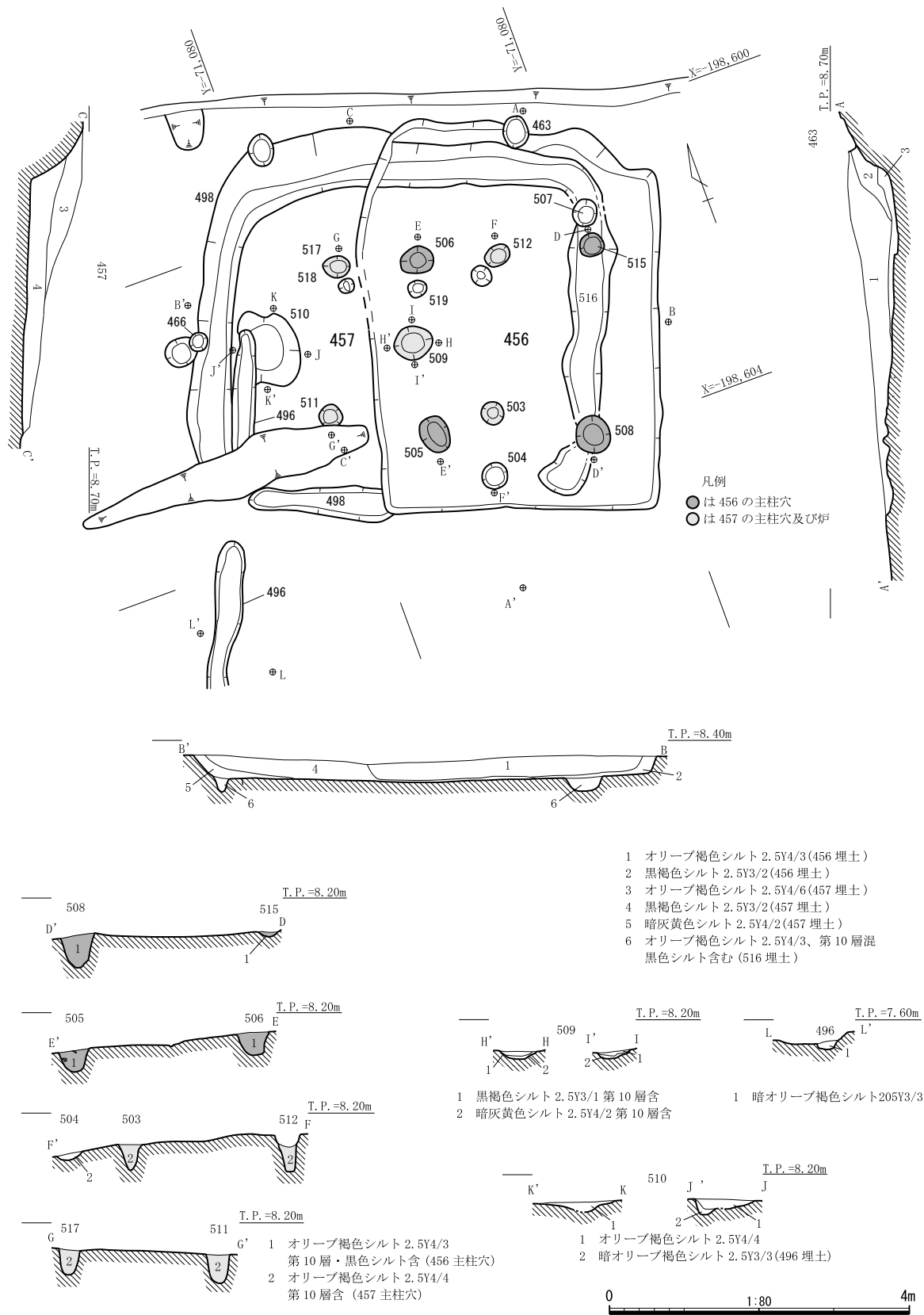


図 26 6 区 456・457 竪穴建物 平面図・断面図・エレベーション図

### 掘立柱建物 2 (図 27・39、写真図版 13)

調査区中央やや西の北端に位置する。東西 2 間 (5.44m)、南北 2 間 (5.44m) を測る掘立柱建物で、柱掘形の平面形は楕円ないし方形で、大きさは 0.56 ~ 0.72m で、深さは最も浅いもので 0.16m、最も深いもので 1.04m を測る。柱間は、東西が 2.8m 前後、南北が 2.8 m 前後を測る。柱穴 20、21、27、28 には結晶片岩の据え石が置かれている。それ以外の柱穴には据え石は認められなかった。柱穴 20、27 には直径 0.20m 前後の柱根が残存していた。据え石、柱が残存していない柱穴については抜き取られた可能性もある。現状では、据え石の役割は不等沈下を防止するためなのか、柱の高さを調整するために据えられたのかは不明である。

48 溝は、掘立柱建物に近接し、建物の北辺と東辺に沿うように L 字形になっている。このみぞは、雨落ち溝や建物を囲む排水溝と思われるが、その機能は不明である。

時期は、20 柱穴埋土から瓦器碗の破片が出土していることから中世と考えられる。

### 掘立柱建物 3 (図 28)

掘立柱建物 1 の東 15m 付近に位置する。東西 2 間 (4.56m)、南北 1 間 (4.64m) を測る掘立柱建物で、柱掘方の平面形は不整形の楕円形で、径は 0.25 ~ 0.40m で、深さは、最も浅いもので 0.10m、最も深いもので 0.50m を測る。柱間は、東西が 1.50m 前後、南北が 2.80m を測る。出土遺物が僅かなため時期は明確にしがたい。

### 掘立柱建物 4 (図 29)

掘立柱建物 1 の東に位置する。東西 2 間 (4.32m)、南北 2 間 (4.24m) を測る総柱建物で、柱穴掘形の平面形は、不正円形で、大きさは 0.32 ~ 0.64m を測る。深さは 0.06 m から 0.14 m を測る。出土遺物が僅かなため時期は明確にしがたい。

### 100 溜枿 (図 30・39、写真図版 14・20・21)

101 竪穴建物を切る。掘方の平面形は楕円形で、上端の長軸は 1.96m、短軸は 1.36m を測り、底に向かうにつれすばまり下端の長軸は 1.04m、短軸は 0.76m を測り、断面は逆台形を呈する。深さは 0.92m を測る。掘方の内壁に沿うように大小の緑色の結晶片岩の割り石を積み上げている。石組の内法の平面形は長方形に近い。底付近には長さ 0.30m、幅 0.20m、厚さ 0.05 ~ 0.10m 前後の小型の石を積み上げ、上にいくに従い大型の石を用いる傾向がある。上端付近では、長さ 0.90m、幅 0.30m、厚さ 0.08m 前後の大型の石を積んでいる。溜枿の埋土から、石材が出土したことから廃絶後、上端付近のいくつかの石は内側に崩れて落ち込んだものと思われる。溜枿の内側には、灰色を基調とした粘土が堆積しており、廃絶後も長期間滞水していたことが窺える。底については、石などを敷き詰めることなく、基盤層が露出している。石積み除去後掘方壁面を精査した結果、101 竪穴建物の埋土と基盤層である第 10 層が認められ、砂層などの透水槽は確認できなかった。また完掘後も湧水が湧き出ることなかったことから、井戸とは考えにくく雨水等を溜める溜枿と考えた。溜枿を検出した面では導水、排水のための溝は確認できなかった。遺構埋土からは、瓦器碗 (130、131)・皿 (135)、須恵質の鉢 (134) が出土している。また、溜枿に近接した位置からも瓦器碗 (132、133) が出土している。時期は、出土した瓦器碗の形態から鎌倉時代と考えられる。

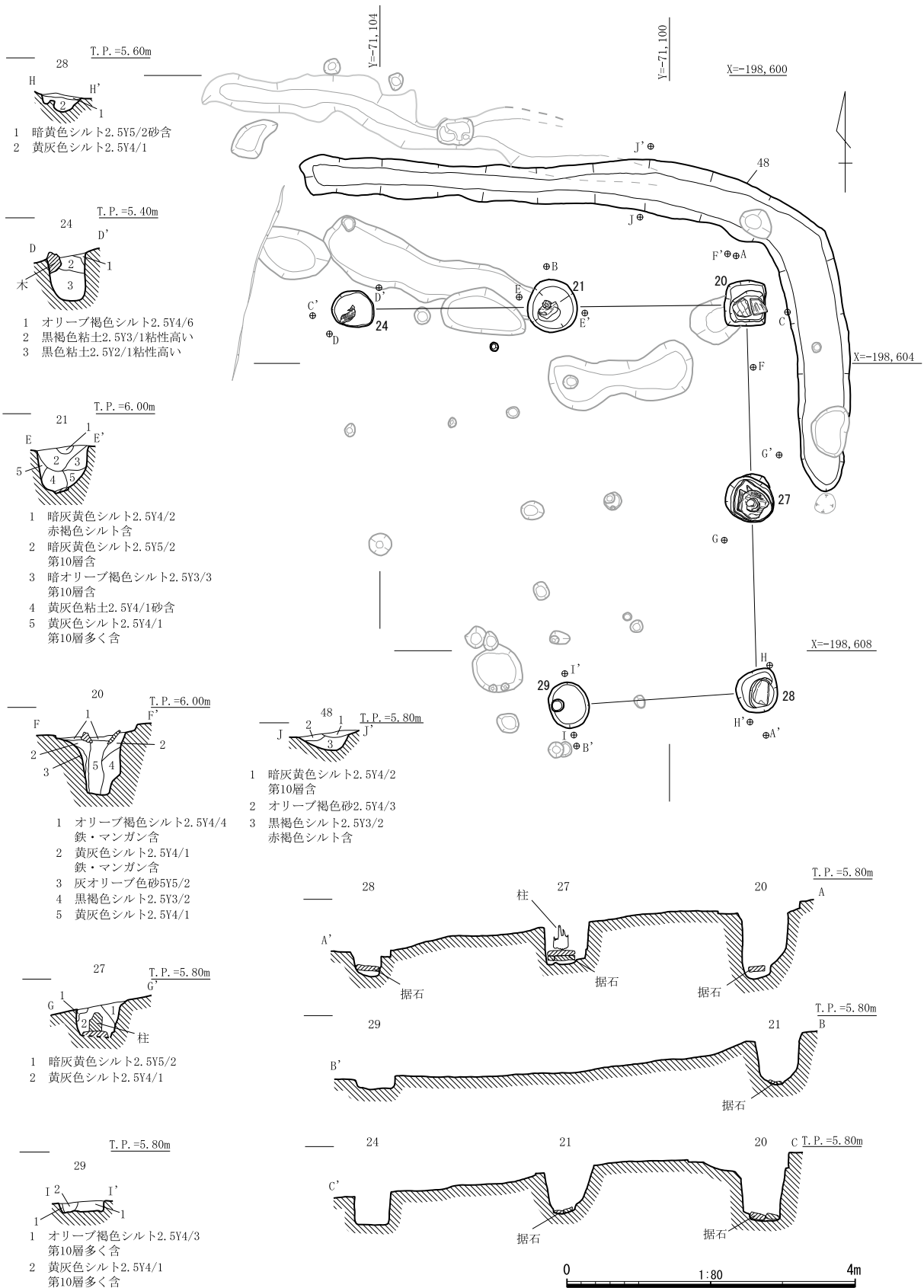


図 27 5区 掘立柱建物 2 平面図・断面図・エレベーション図

66 段状遺構 (図 31・39、写真図版 15)

調査区西端の斜面地に位置する。平面形は不定形で長軸 4.70m、短軸は中心付近で 1.10m、深さ 0.15m を測る。遺構の底面に、長さ 2.90m、幅 0.50m、深さ 0.15m の 75 溝、径 0.15 ~ 0.30 m の 72・73・74 小穴がある。埋土からは瓦器塚 (138) が出土していることから、時期は鎌倉時代と考えられる。遺構の性格等は不明である。

153 自然流路 (図 19・32・39・40・41・42・43、写真図版 15・21・22・23)

4区から5区にかけて、調査区中央からやや南寄りを西方向に延びる。下流にいくに従い広がり、4区でやや蛇行するものの直線的に延び、4区と5区の境界付近で大きく広がり調査区外へとさらに延びている。深さは4区の最上流部で0.40m、5区に設定したサブトレンチ ST1 では

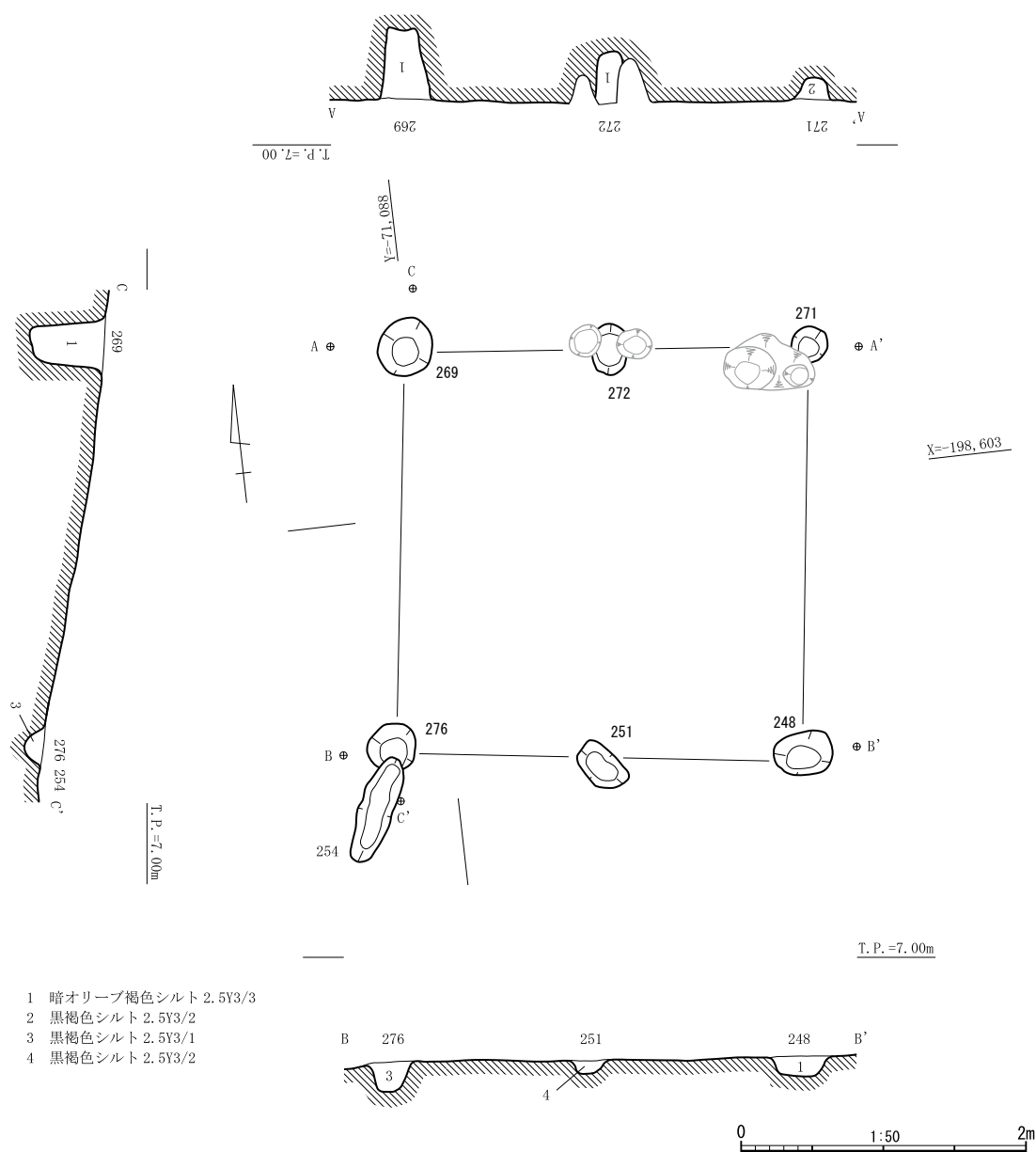


図 28 4区 掘立柱建物 3 平面図・断面図

1.00m以上を測る。153自然流路は、中世の遺物を含む包含層（第8層）で被覆される。堆積土は大きく3層に分かれ、上層には主として、3：暗オリーブ灰色のシルト 2.5YR 3/3、4：暗オリーブ灰色粘土 5GY 4/1 砂含、5：暗オリーブ灰色粘土 5GY 3/1、6：暗オリーブ灰色シルト 5GY 4/1 砂多く含、7：暗オリーブ灰色粘土 2.5GY 4/1 等の、暗オリーブ灰色を基調とした粘土ないしシルトや砂が堆積している。中層は、8：黒色粘土 1.5N/0 に砂礫多く含、9：黒色粘土 1.5N/0 等の黒色粘土を基調とした層が堆積している。下層は、10：灰色砂 5N/0 が堆積している。上流部についても、若干の色調や、堆積状況に差はあるものの類似した堆積が認められた。

堆積土の上層から、弥生時代の広口壺（139・179）・二重口縁壺（140・180）・高坏（174）、脚台付鉢（141）、古墳時代の須恵器器台（142）、奈良時代～平安時代の壺（143）・坏（144）・

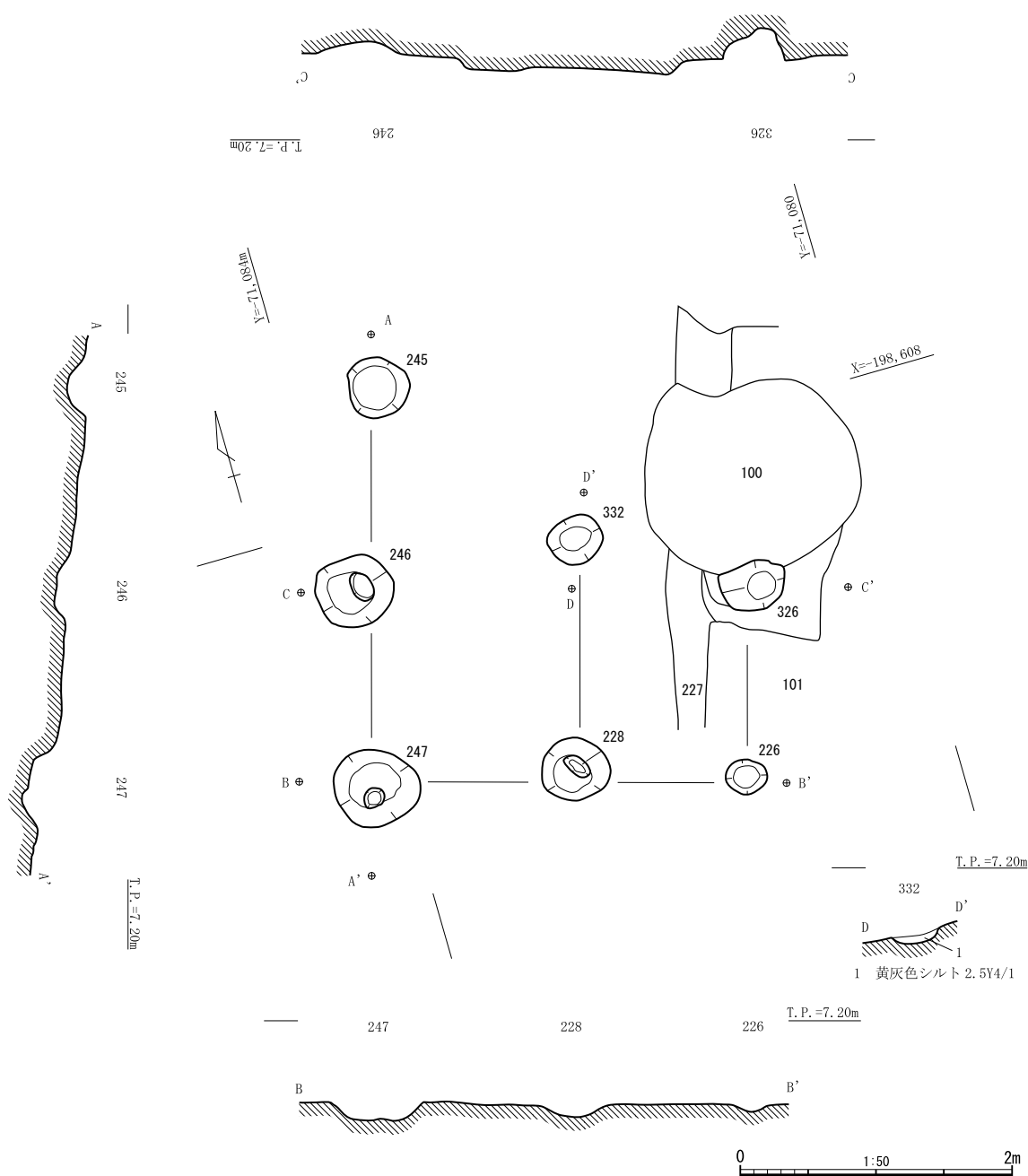


図 29 4区 掘立柱建物4 平面図・断面図・エレベーション図

土師器坏（145・191）が出土した。145 については、底面に「大二」と墨書されている。その他、土師器甑の把手（146）・羽釜（147）・鍋（148）・移動式竈（149）が出土した。

中・下層からは、庄内から布留式併行期の二重口縁壺（150）、広口壺（151）、壺（152）・複合口縁壺（153）・二重口縁壺（154）、脚台付鉢（155）、甕（156・157・173）、高坏（158）、器台（159・160）、鉢（161）、把手付鉢（162）、形象埴輪片（163）、形象埴輪円筒部片（164）、須恵器坏（165）、甗（166）、土師器皿（166・167）、瓦器埴（169、170）・皿（171）が出土している。

中・下層から弥生時代後期、庄内式併行期の土器、布留式並行期の遺物の他に中世の遺物が出土する。このことからこの 153 自然流路は、幅員が拡幅して規模が大きくなる過程で、既存の遺跡群を破壊していったと推定され、その損壊された遺跡群に含まれていた土器群が中世段階に再堆積したとみられる。鎌倉時代には完全に埋没し、中世の遺物を含む包含層（第 8 層）に被覆されたと考えられる。

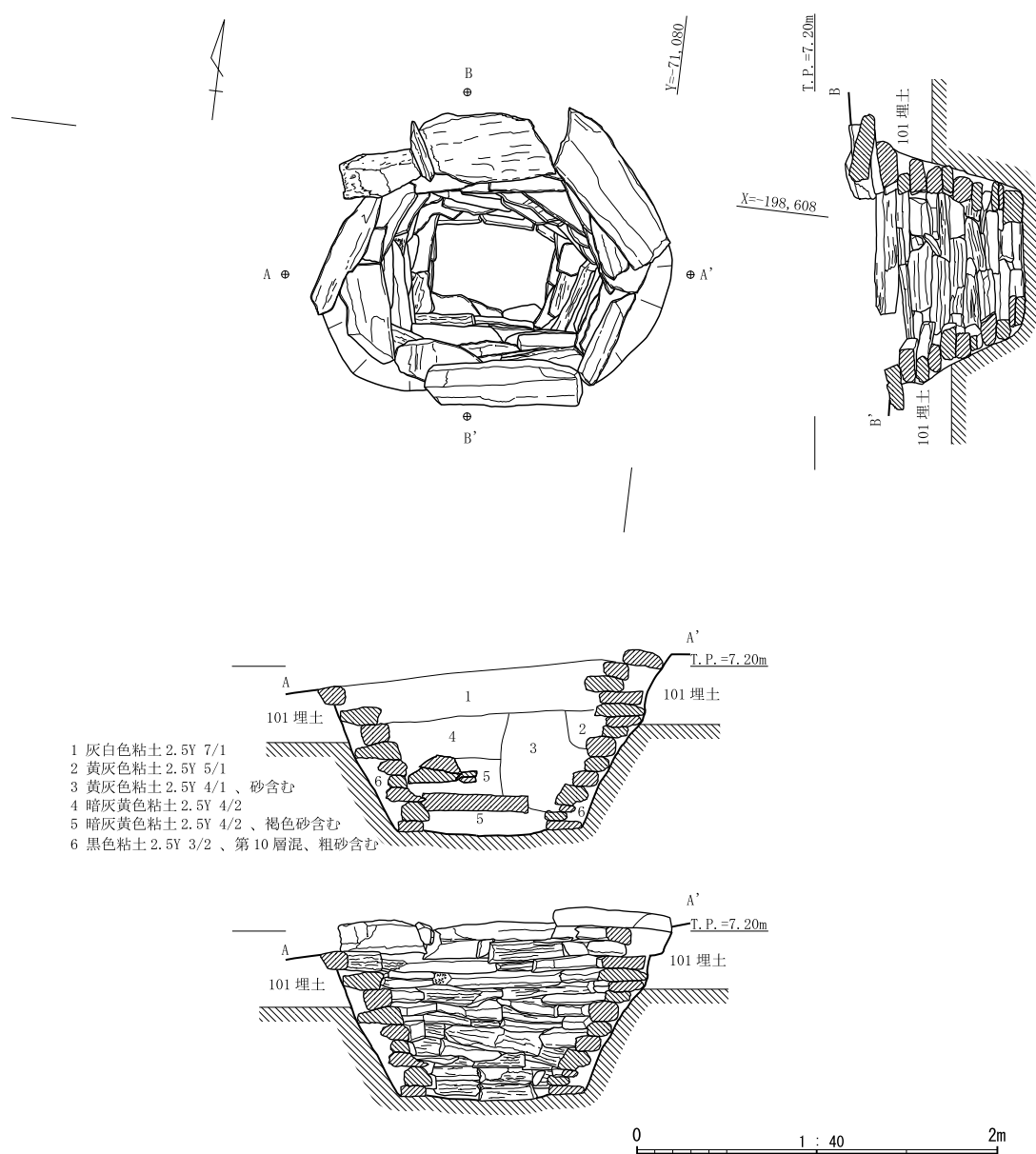


図 30 4 区 100 溜樹 平面図・断面図・立面図



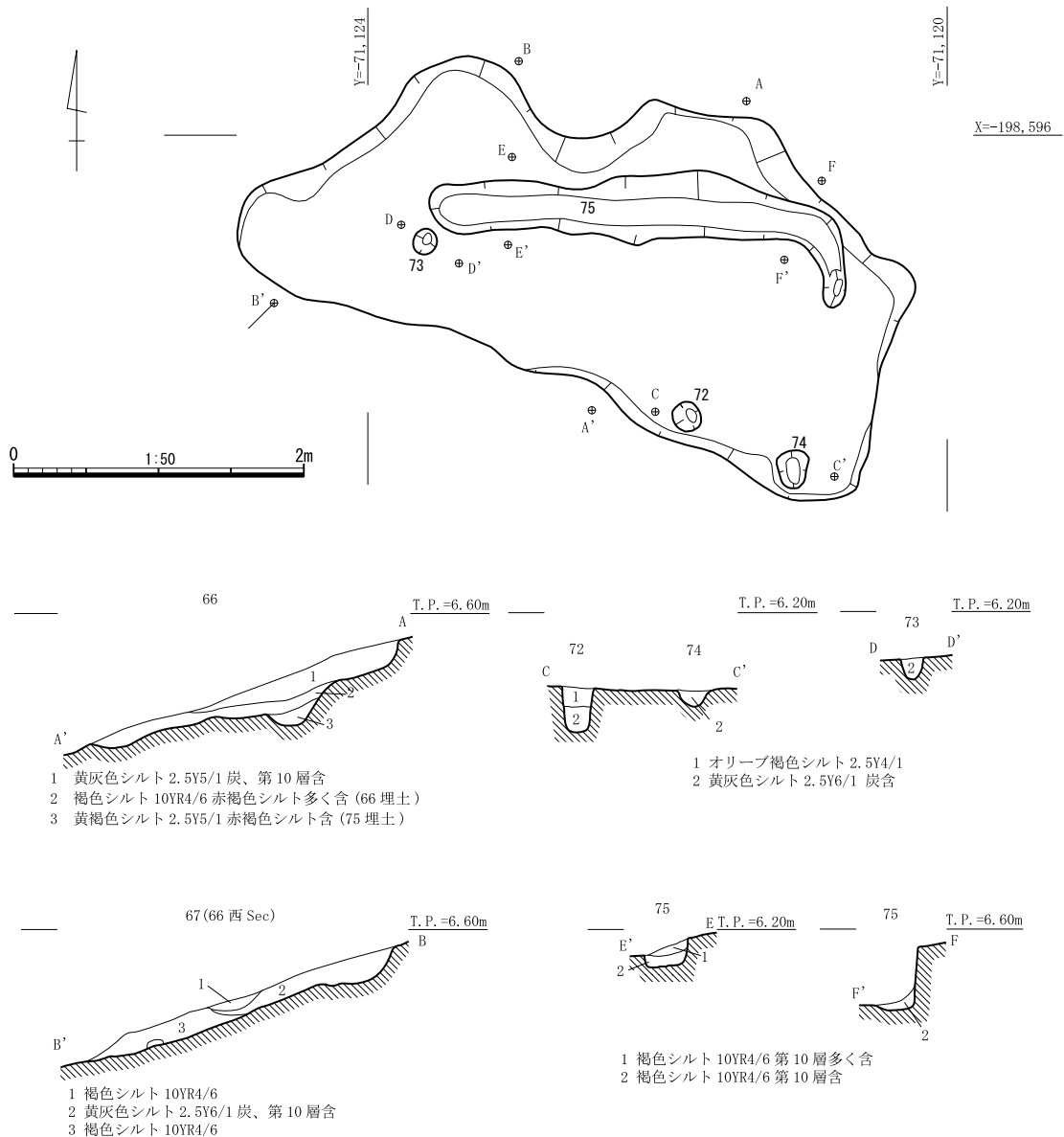


図 31 5区 66 階段状遺構 平面図・断面図

包含層出土遺物 (図 41・42・43、写真図版 22・23)

遺物包含層である第7層及び第8層は、層厚の差こそあれ調査区のほぼ全面に広がり、様々な遺物が出土した。

第7層からは、土師器碗 (187)・須恵器坏身 (189)・土師器皿 (201)・瓦器椀 (208～210) が出土した。

第8層からは、庄内から布留式併行期の高坏 (175)・小型丸底土器 (176・177)・高坏 (178)、直口壺 (181)、古墳時代の須恵器横瓶 (184)・鉢 (183)・形象埴輪円筒部片 (185)、形象

埴輪片 (186)、奈良時代の土師器鉢 (188)、鎌倉時代の土師器小皿 (199)、瓦器埴 (202・204・205)・皿 (200)・片口鉢 (211)、土師器釜 (196)、青磁皿 (206)、東播系須恵器捏鉢 (212)、備前焼播鉢 (213)、土師器移動式竈 (207)、平瓦 (190)、片岩製温石 (215・216)、銅鍬 (220) が出土した。

その他に出土層位が明確ではないが、遺物包含層出土遺物として広口壺 (172)、形象埴輪 (184)、土錘 (182)、土師器坏 (192)、見込に『大』とヘラ描きされた土師器埴 (193)、土師器皿 (197・198)、黒色土器埴 (195)、瓦器埴 (203) が出土している。

遺物包含層第7層からは、瓦器埴、皿が、第8層からは東播系須恵器捏鉢、備前焼鉢が出土していることから、中世において形成されたものと考えて大過ない。

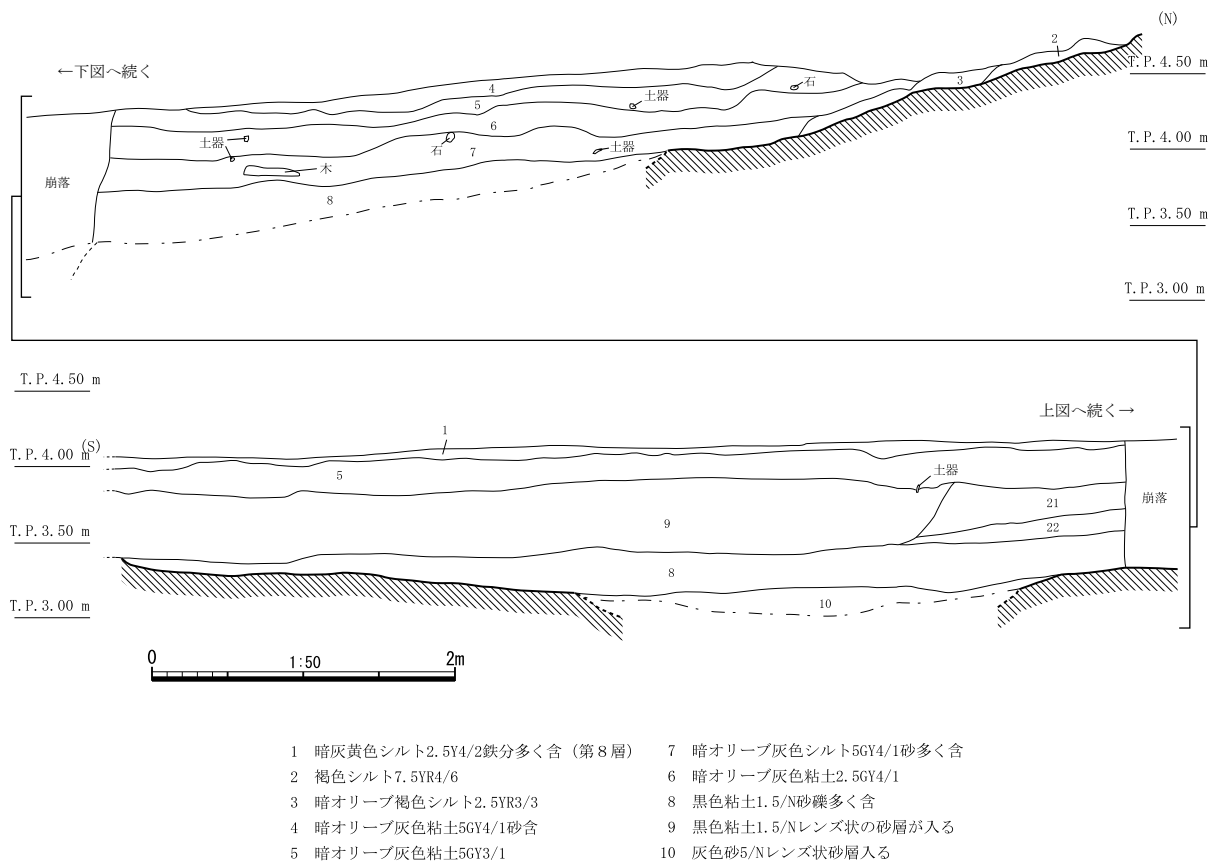


図 32 4・5区 153 自然流路 断面図

## 第V章 まとめ

今回の調査地は、第1次調査、第2次調査共に寺内古墳群の範囲内に所在しつつも古墳が所在する丘陵尾根部ではなく、丘陵裾部の変化点から広がる斜面地となっている範囲から谷部にかけての箇所であり、事実上、新規に発見され登録された相方遺跡に帰属するものと言える。この相方遺跡については、古墳時代から中世にかけての遺物散布地という認識であったが、今回の調査成果によって時代の幅が広がり、弥生時代後期から鎌倉時代まで断続的に続く集落跡となることが判明した。

第1次調査、第2次調査を併せて、主要な遺構は、竪穴建物15棟、掘立柱建物4棟、溜榭1基、溝多数、土坑多数、段状遺構1基を確認した。竪穴建物の多くは、緩斜面地に位置している。まず、弥生時代から古墳時代の遺構・遺物についてみると、今次の調査の中で最も古い弥生時代後期と考えられる竪穴建物は、第1次調査の3区南端で検出した円形の竪穴建物で、後世の削平を受けて壁溝の一部しか残存していなかった。そのうち、368竪穴建物については、372炉が設けられており、372炉の東西に小穴が配置されている。建物跡の平面形と炉に近接して1対の小穴が存在する特徴から松菊里系の住居と考えられる。

その後、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて竪穴建物が増加する。第2次調査では4区及び5区で検出した8棟で、平面形はいずれも方形である。101、102、103、457竪穴建物には建物の中心付近に炉が設けられている。第1次調査で確認された303竪穴建物も中心に炉を設けている。第1次調査で確認された、366、303、26、13竪穴建物については出土遺物がないため時期は明確でないが、平面形態からおそらくは古墳時代のもと考えられる。第1次調査で検出された掘立柱建物1は、時期は明確ではないもののおそらく、古代から中世にかけてのもと考えられる。第1次調査の調査区内、最も標高の高い東側を占地して建てられている。桁行6間、梁行き2間で、東側に約半間分の庇が付く大型建物である。鎌倉時代に入ってから遺構は、第1次調査で検出された6・7・209溝、229土坑、第2次調査で検出された掘立柱建物2、100溜榭、66段状遺構等がある。いずれの遺構からも瓦器が出土していることから、鎌倉時代に帰属すると考えられる。掘立柱建物2は、床面積はそれほど広くはないが、柱穴の掘形が大きく深いことや、据石を置くなど丁寧な造りをしていることから、何らかの重要な役割を担っていた可能性が考えられる。

最後に開析谷と自然流路の形成と埋没過程についてみると、第1次調査の2・3区で検出された201谷状地形は、調査区の南東から北西にむけて延び、調査区外の低湿地へ流れ込んでいたと考えられる。谷状地形の堆積土の上層から中層にかけて、弥生時代後期末から終末期の遺物が出土し、中層からは奈良時代から平安時代の遺物、上層からは鎌倉時代の遺物が出土した。断定はできないものの、中層に奈良時代から平安時代の遺物が出土したことから、古代には谷の開析が始まり、緩斜面にあった弥生時代から古墳時代の遺構を浸食し、堆積土に含まれる遺物を押し流しつつ下刻して行ったと考えられる。その後、再堆積を繰り返し徐々に埋まっていき、鎌倉時代には完全に埋没し、中世の遺物を含む堆積層（遺物包含層第4層）に覆われたようである。第2次調査の4・5区で検出された153自然流路も調査区内を西流し調査区外へと延びており、調査区西側の低湿地へ流れ込んでいたと考えられる。自然流路の埋土の上・中・下層にかけて弥

生時代の遺物、庄内式併行期～布留式併行期の遺物が出土し、中層からは、瓦器や土師皿等鎌倉時代の遺物が出土している。この153自然流路も、流れ始めた時期は明確でないが、緩斜面地にあった弥生時代から古墳時代の遺構を浸食し、堆積土に含まれる遺物を押し流しつつ流れていたと考えられる。153自然流路も、再堆積を繰り返し徐々に埋没し鎌倉時代の段階には完全に埋没したようである。その後、中世の遺物を含む堆積層（遺物包含層第8層および第7層）に覆われる。これらの堆積層に含まれる遺物の量は多く、層の厚さも場所によっては1m近く堆積している。これらの堆積層の形成過程については今回の調査では明らかにできなかった。その後、近世、近代に入り遺物包含層で覆われた斜面地を耕作地として利用するために切土や盛土を行い造成し、里道や排水路を設けて現在の景観が形成されたものと考えられる。また、第2次調査の調査区のうち、西側の平坦地については表土直下に遺構面である第10層が存在した。そのため、上記のような造成で地形が大きく削平され遺構等が失われた可能性が高い。

出土した遺物・遺構の傾向から、谷頭の緩斜面地に長期にわたって継続的に集落が営まれたというよりは、弥生時代後期ないし、弥生時代末から古墳時代初頭、鎌倉時代というように断続的に集落が出現し衰退を繰り返したものと思われる。中でも、弥生時代終末期から古墳時代初頭に帰属すると考えられる竪穴建物が、比較的多く見つかったことから、この時期は人々の活動が活発であったとも考えられる。第1次調査での201谷状地形や、第2次調査での153自然流路については、中・下層から出土する遺物の年代が新しいことから、この時期にはまだその流れはなかったか小さかったものと思われる。また、平安時代末から鎌倉時代にかけては、当該地の所領領主であった日前宮が、東側に所在していた根来寺領である山東荘の開発に対抗するため宮井新溝を開削するなどの時期に相当する。今回見つかった掘立柱建物や溜樹・溝等の施設が、荘園の開発、維持・管理にどのような役割を担ったものかは不明だが、時期的なものを考慮すれば、こうした一連の動きと当該期の遺構の増加が連動していた可能性も考えられる。

「大二」の墨書、「大」のへら描きを施した土器について 今回の調査で出土した「大二」の墨書は土師器坏（145）の底面中央付近に、「大」のへら描きを施した土師器碗（193）については見込部分の中央付近に刻まれている。墨書土器については153自然流路埋土上層から、へら描きの土器については遺物包含層からの出土である。墨書土器はその器形から平安時代後期のものと推定される。大の墨書の類例については、寺内古墳群、相方遺跡から北北東約2.5kmに位置する和歌山市鳴神V遺跡からの出土例がある。須恵器坏蓋の天井部に「大」と墨書されているものである。中世の遺物を含む方形土壇の盛土中から出土したものである。器形から平城IV段階の坏蓋と考えられる。現時点では「大」自体の意味するところは不明であるが、鳴神V遺跡自体は日前宮からも近く、日前宮に何らかの関係がある可能性がある。結論については、今後の類例の蓄積を持ちたい。

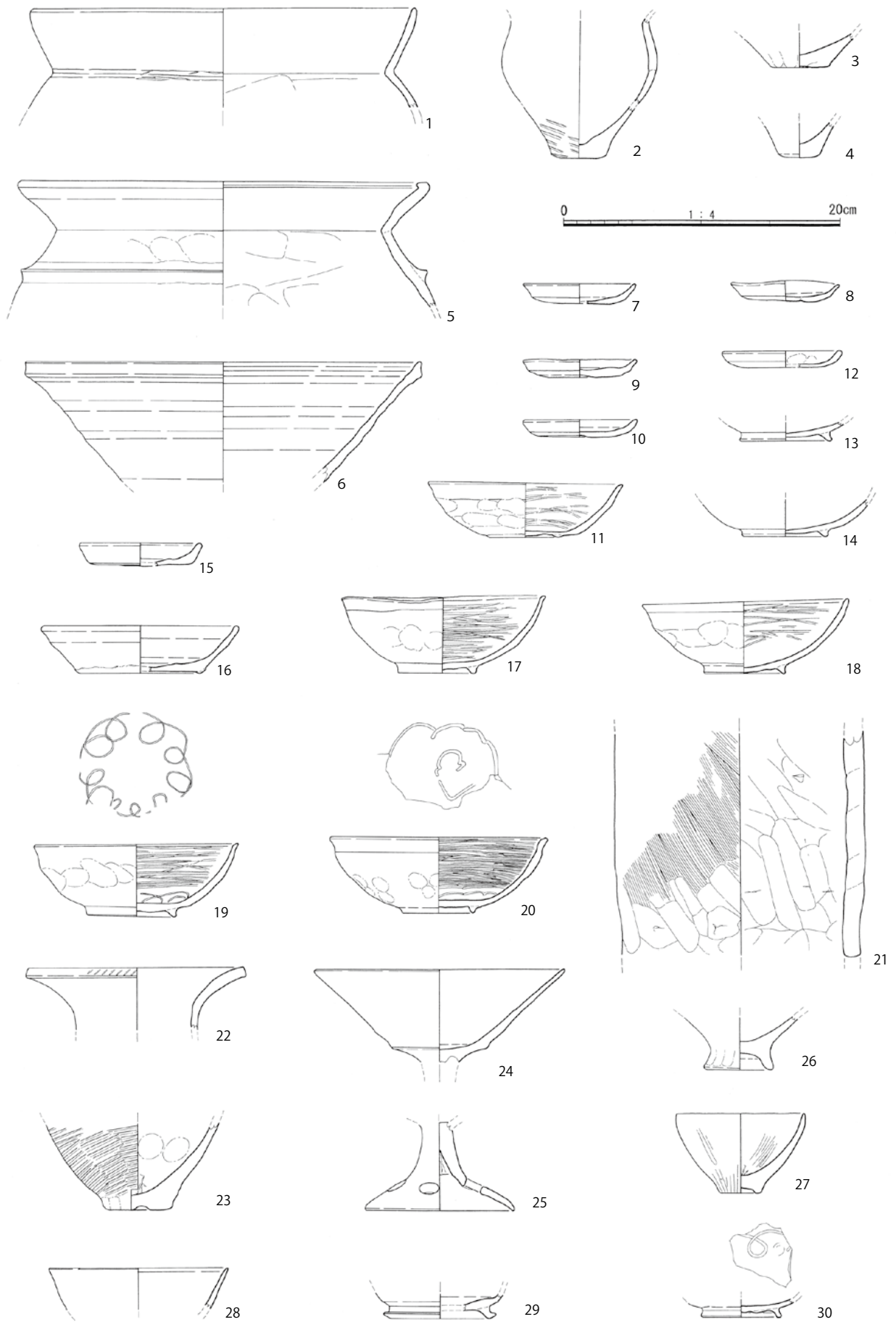
#### 【参考文献】

和歌山県教育委員会・社団法人和歌山県文化財研究会 1979 『鳴神地区遺跡発掘調査概報Ⅰ・Ⅱ』

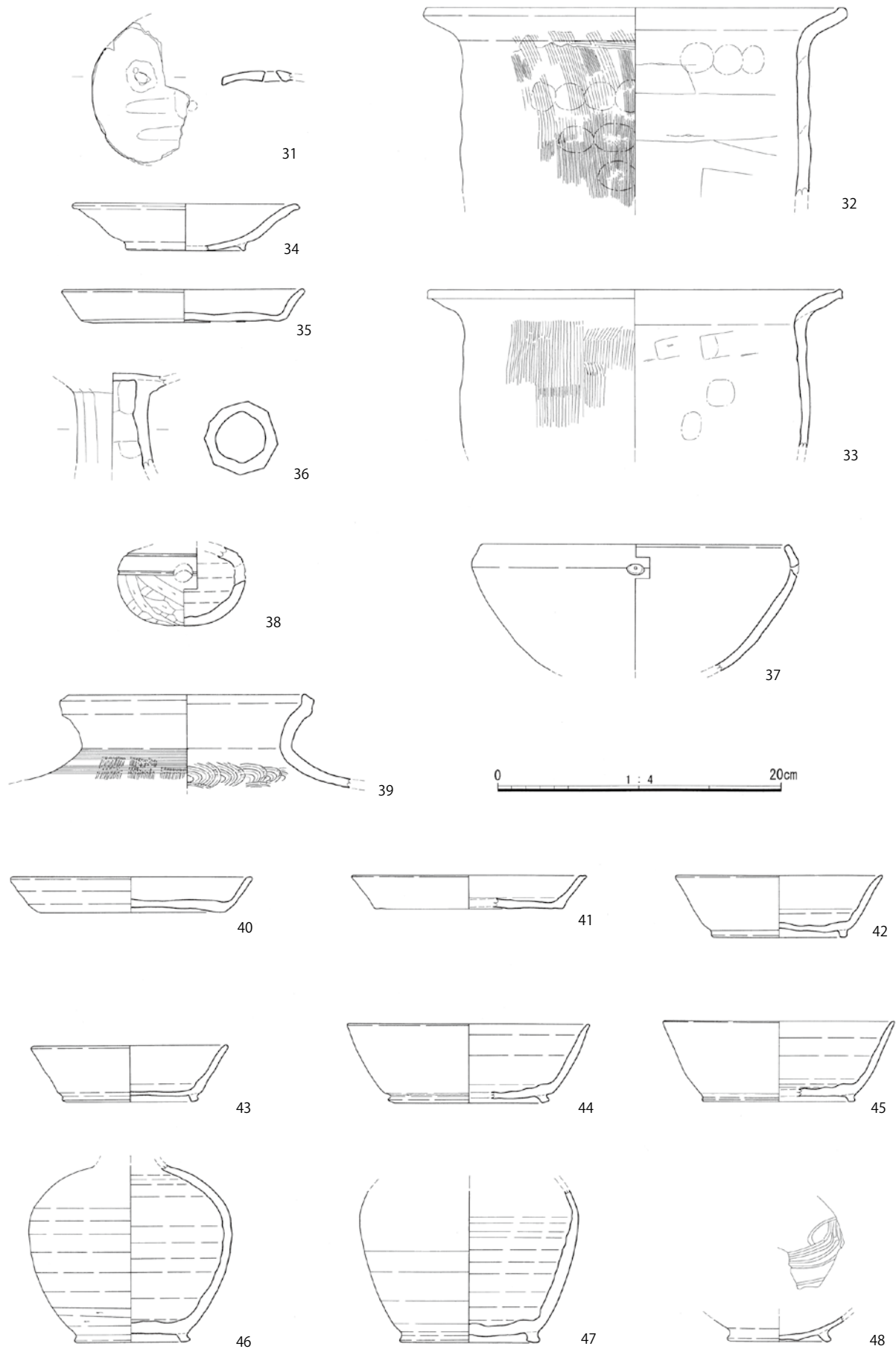
和歌山市史編纂委員会 1992 『和歌山市史』第1巻

海津一郎 2006 『和歌山平野における荘園遺跡の復元研究—中世日前宮領の研究—』

前田敬彦 2006 「紀伊地域」『古式土師器の編年学』財団法人 大阪府文化財センター

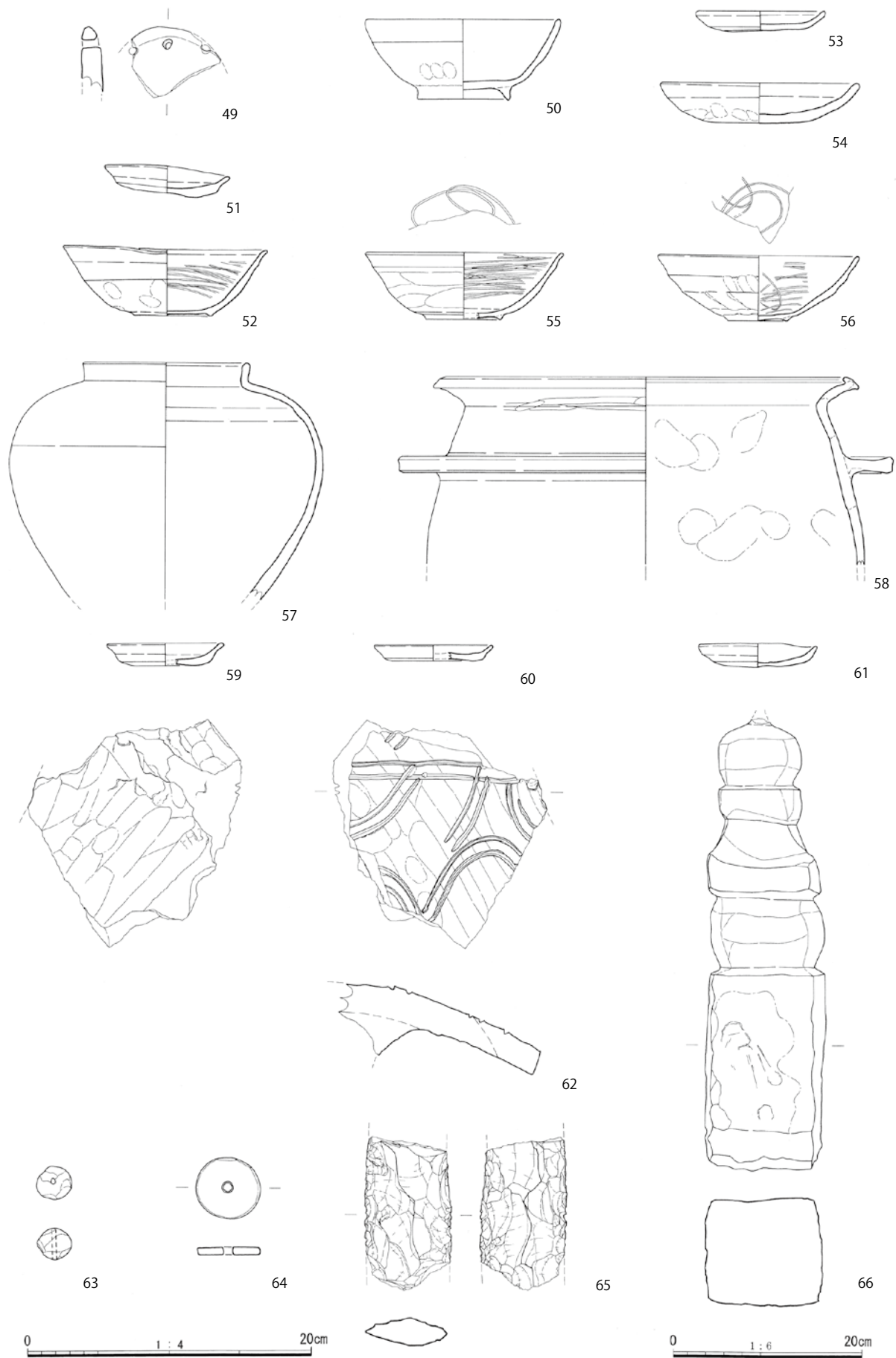


1 : 368 豎穴建物, 2・3 : 367 豎穴建物, 4 : 365 豎穴建物, 5~11 : 6 溝, 12~14 : 7 溝, 15~21 : 209 溝, 22~30 : 210 谷状地形  
 图 33 第 1 次調査 出土遺物実測図①



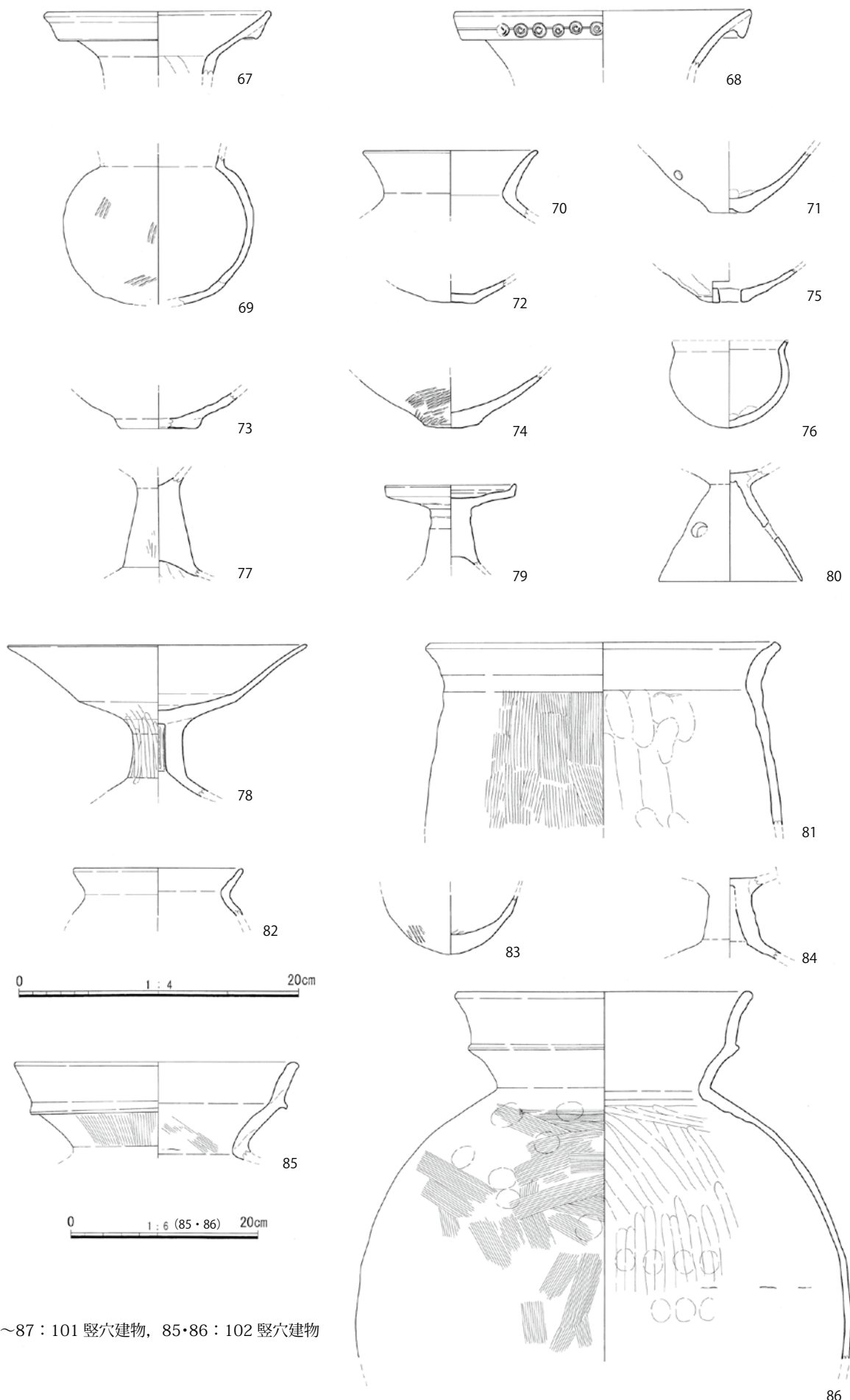
31~48 : 51 自然地形の落込み

図34 第1次調査 出土遺物実測図②



49 : 453 土坑, 50 : 317 土坑, 51・52 : 214 土坑, 53 : 229 土坑, 54~56 : 228 土坑, 57 : 238 溝, 58 : 221 土坑, 59 : 33 土坑, 60 : 34 土坑, 61・62・65 : 包含層 (第4層)、63 : 454 土坑, 64 : 51 自然地形の落込み, 66 : 28 溝

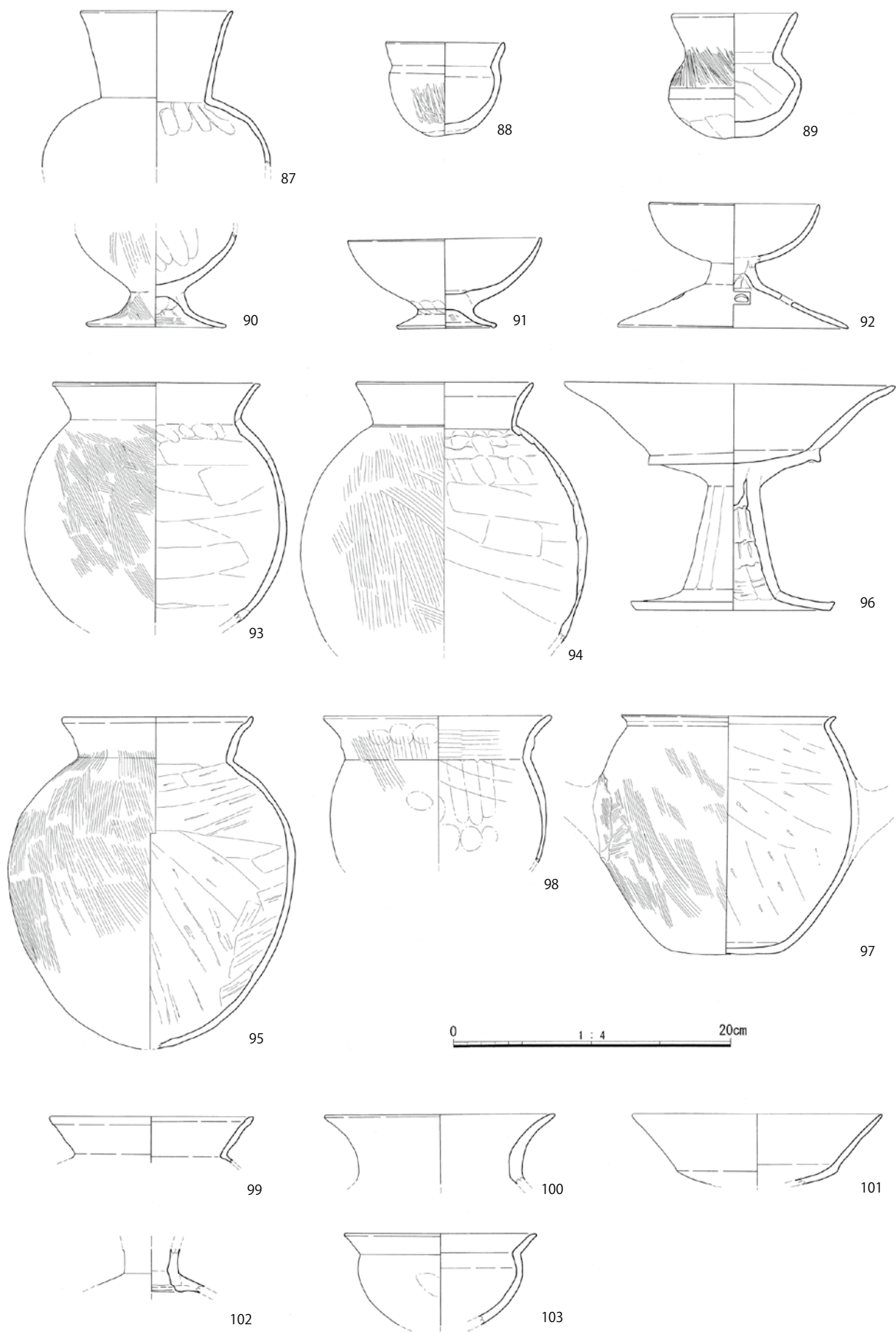
图 35 第 1 次調査 出土遺物実測図③



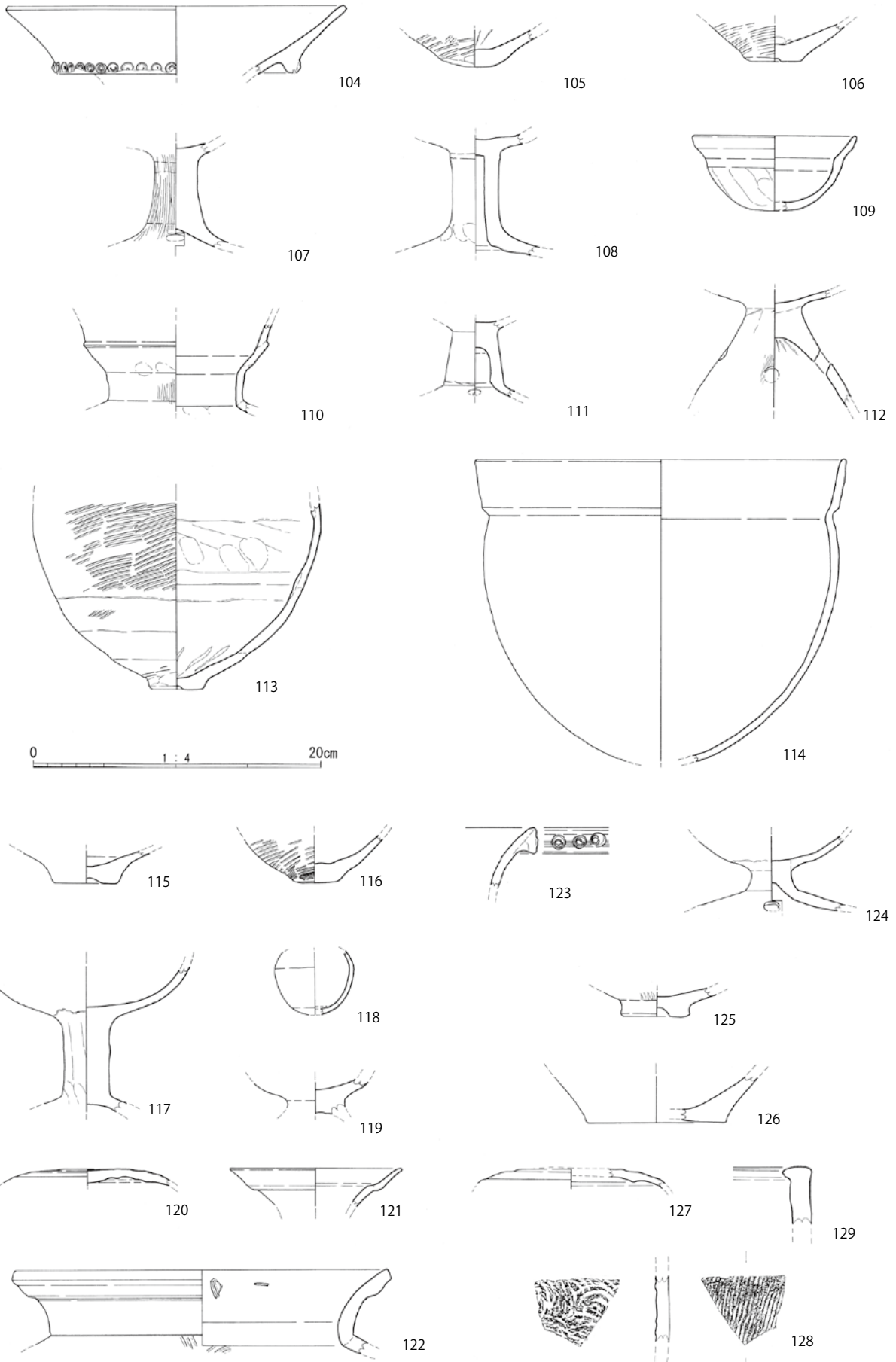
67~87 : 101 竖穴建物, 85・86 : 102 竖穴建物

图 36 第 2 次調査 出土遺物実測図①



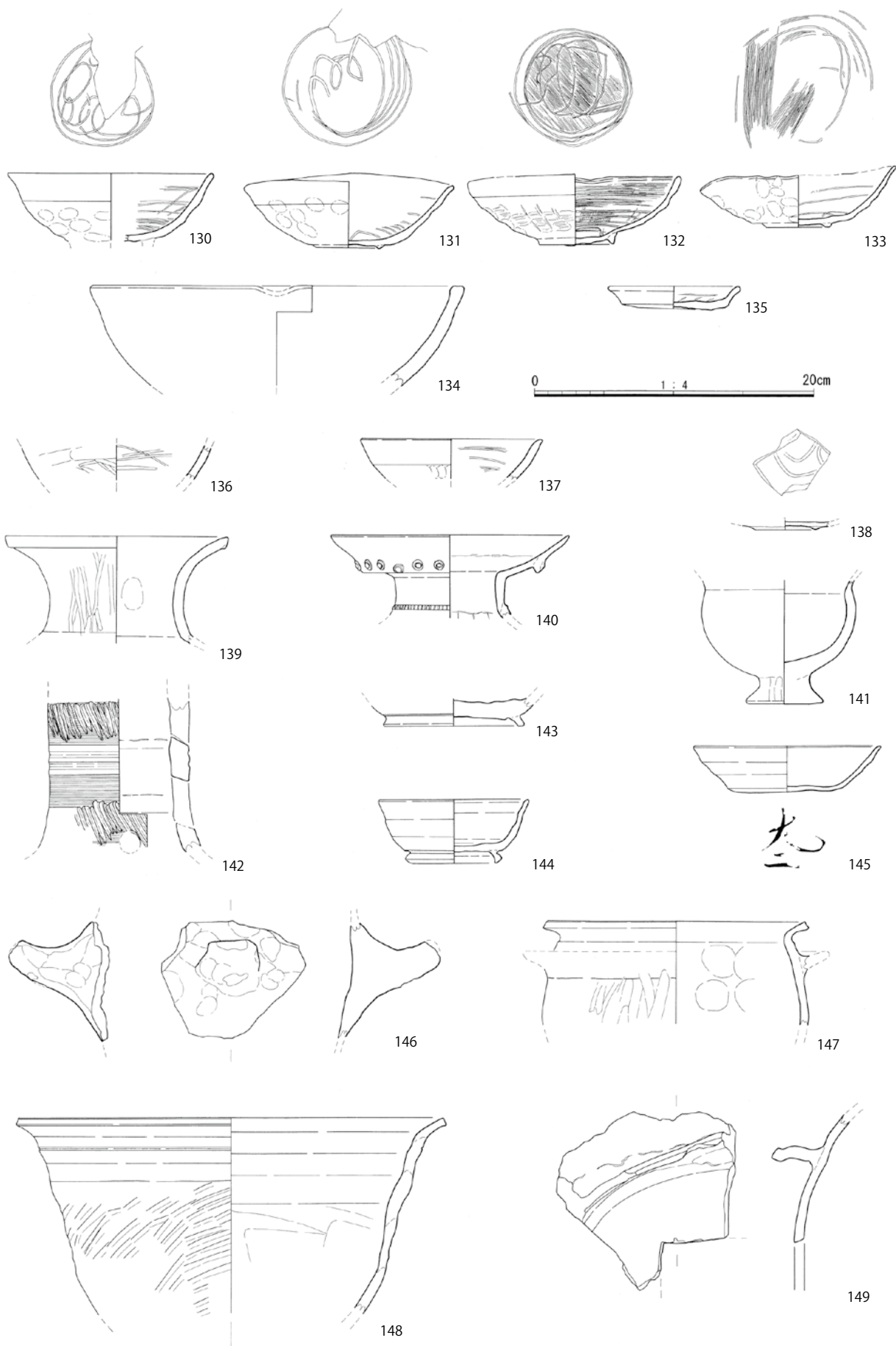


87~98 : 102 豎穴建物, 99 : 177 溝, 100・101 : 243 溝, 102・103 : 103 豎穴建物  
 图 37 第 2 次調査 出土遺物実測図②

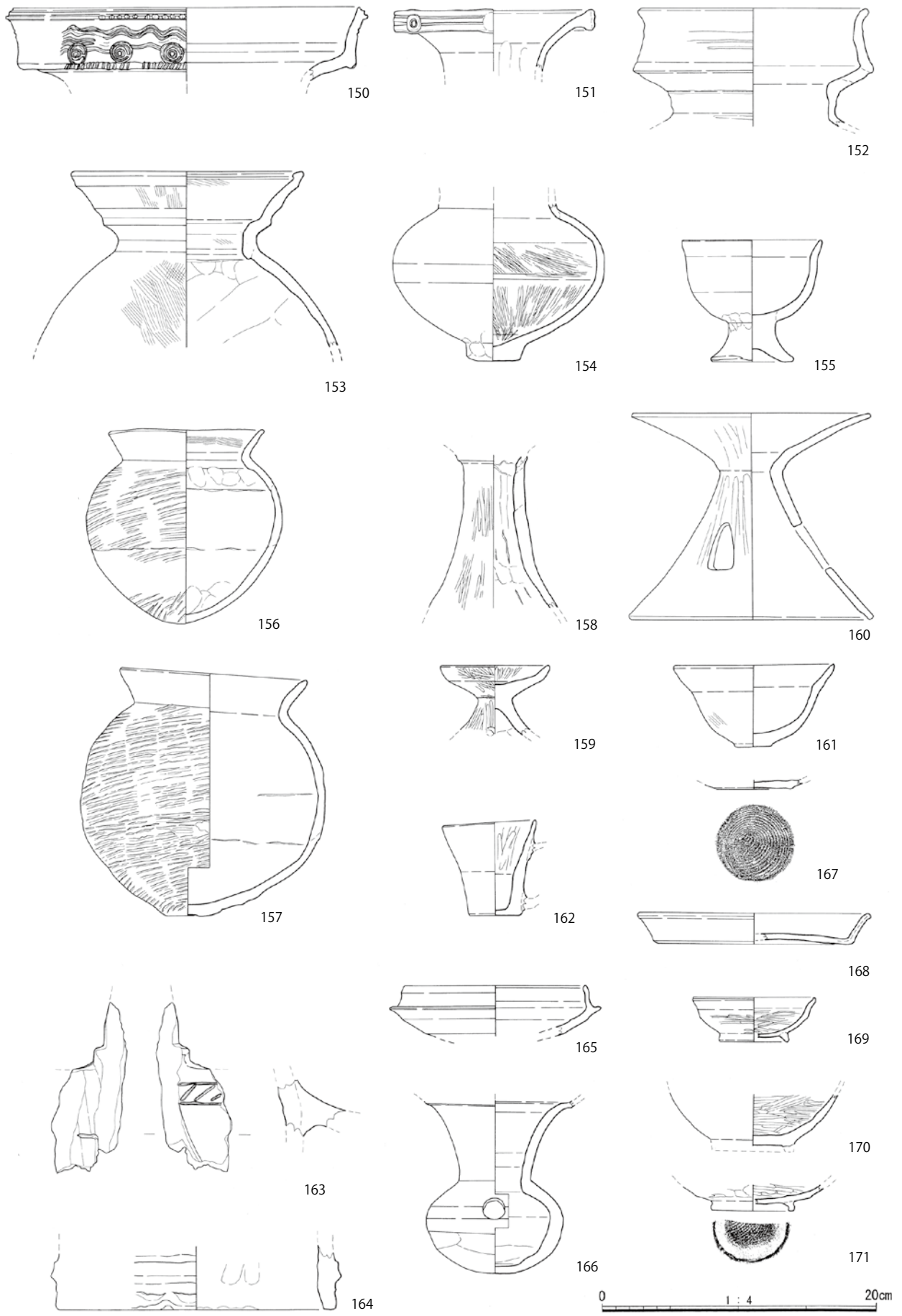


104~109：223 豎穴建物，110~114：277・278 豎穴建物，115~122：456 豎穴建物，123~129：457 豎穴建物

图 38 第 2 次調査 出土遺物実測図③

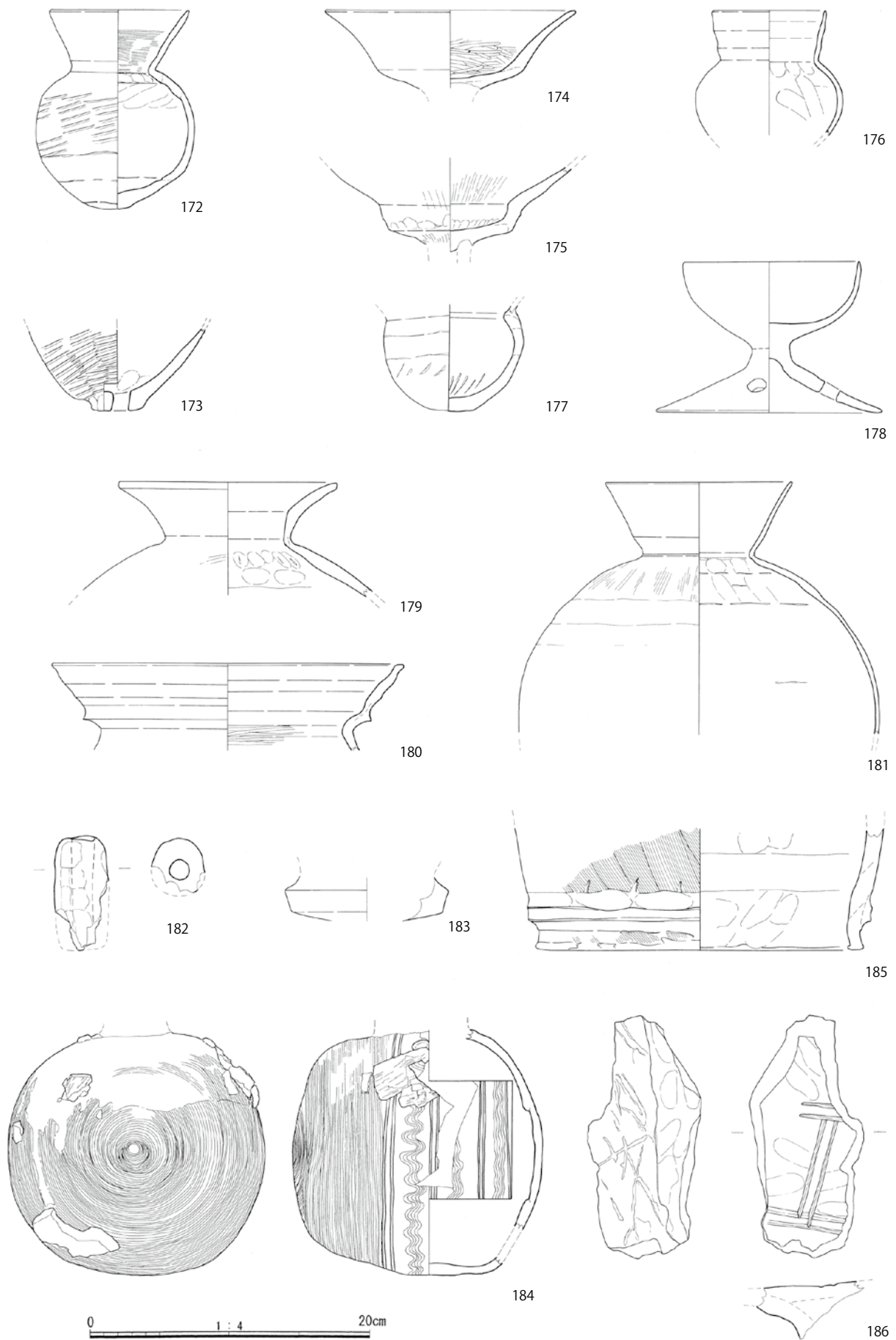


130~135：100 溜栴，136：堀立柱建物2，137・138：66 段状遺構，139~149：153 自然流路  
 图 39 第 2 次調査 出土遺物実測图④



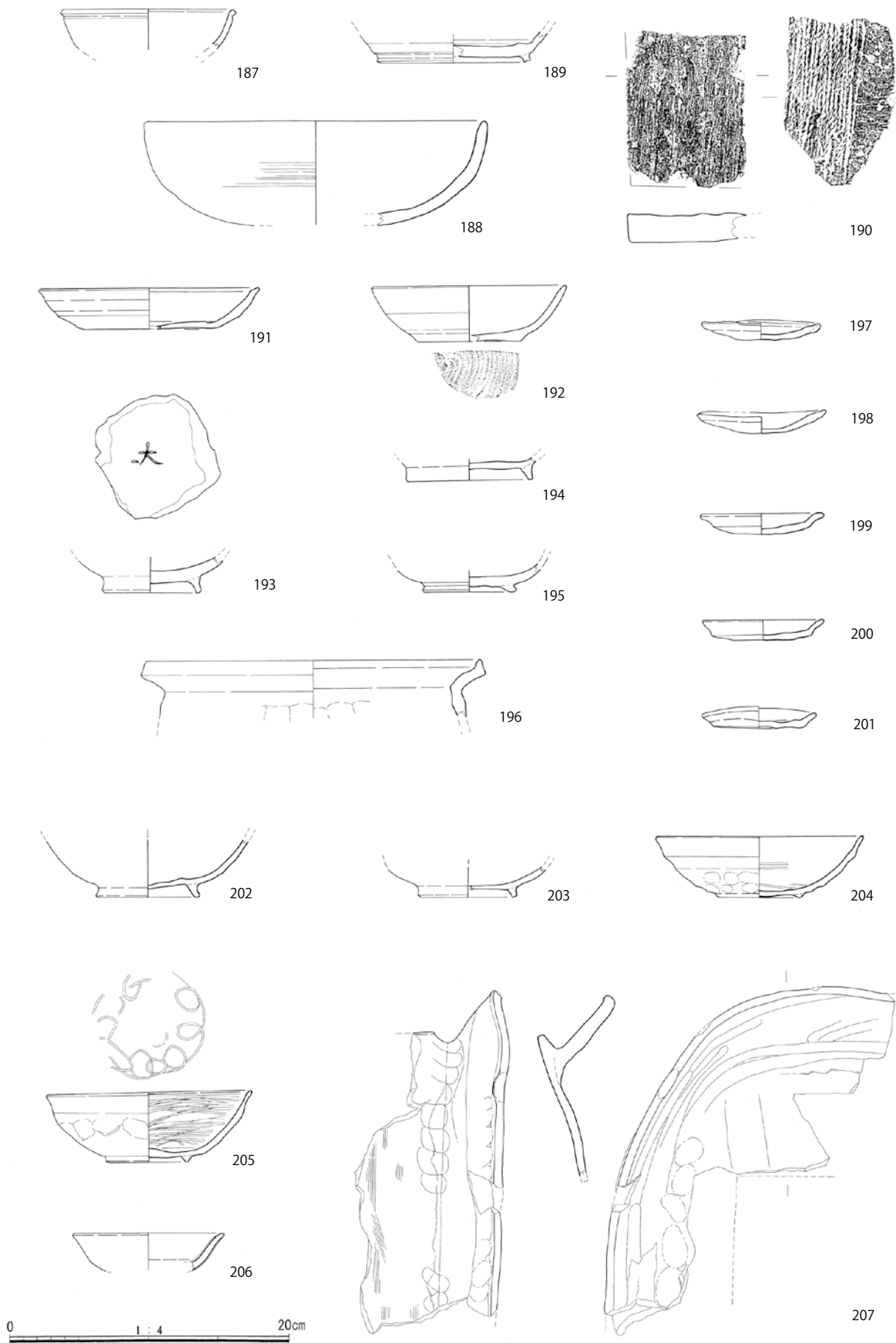
150~171 : 153 自然流路

图 40 第 2 次調査 出土遺物実測図⑤



173·174·180 : 153 自然流路, 172·175~179·181~186 : 包含層

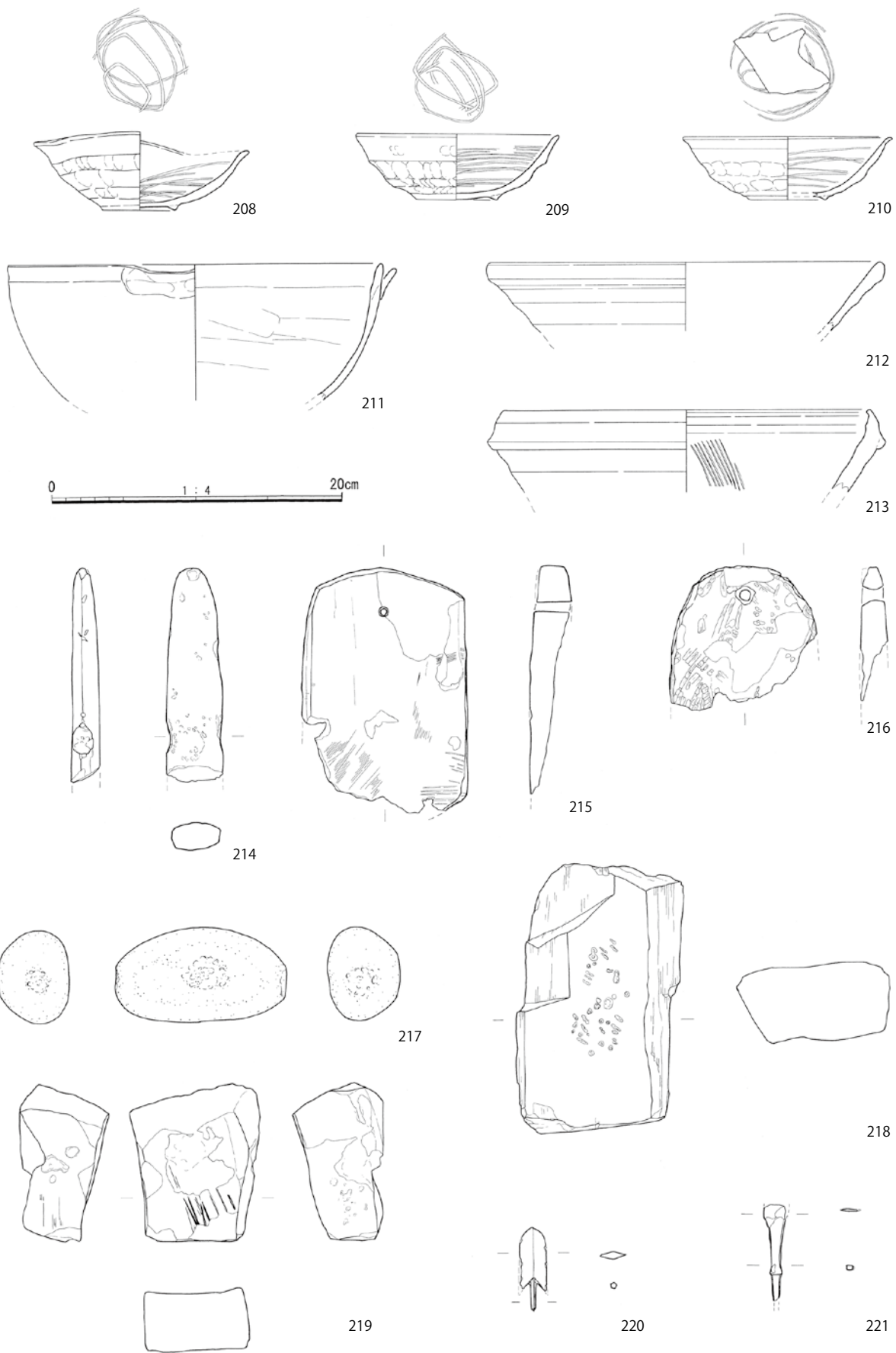
图 41 第 2 次調查 出土遺物実測図⑥



191・194：153 自然流路，187～190・192・193・195～207：包含層

图 42 第 2 次調査 出土遺物実測図⑦





214・217・221 : 153 自然流路, 219 : 100 溜桝, 208~213・215・216・218・220 : 包含層

図43 第2次調査 出土遺物実測図⑧

表3-1 出土遺物観察表(土器)

( )は復元値

報告書番号	地区			遺構層位	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	残存率	胎土	焼成	色調	備考
	年度	区画	グリッド												
1	1	3区	A7・p16	372 炉	弥生土器	甕	(27.6)	(7.2)	(28.2)		10%	粗(1~5mm大の石英・片岩・長石、赤色斑粒含む)	やや軟	灰白色(2.5Y8/2)~橙色(5YR6/8)	反転復元、胴部片にタタキあり
2	1	3区	A7・p15	367 竪穴建物	弥生土器	甕	-	(10.0)	(11.2)	4.0	40%	やや粗1~2mm大の石英・長石・チャート粒含む	軟	橙色(7.5YR6/8)	反転復元、内・外面とも磨減著しい、後期
3	1	3区	A7・p16	367 竪穴建物	弥生土器	甕		(2.5)	-	4.3	75%	密1~5mm位の石英多量	良好	褐色(5YR7/6)~浅黄褐色(10YR8/3)	一部反転復元、内・外面とも磨減著しい
4	1	3区	A7・q15	365 竪穴建物	弥生土器	甕		(2.5)		(3.0)	50%	密1~2mm位の石英中量	良好	浅黄褐色(7.5YR8/4)~にぶい黄褐色10YR7/4、断面:オリブ黒色(7.5Y3/1)	反転復元、内・外面とも磨減著しい
5	1	1-2区	B7・g21	6 溝	土師器	鍋	(29.6)	(9.0)	(31.0)	-	-	やや粗1~2mm石・長石・チャート・石英粒含む	良好	にぶい褐色(7.5YR5/3)	反転復元、表面の磨減激しい
6	1	1-2区	B7・g21	6 溝	東播系須恵器	こね鉢	(28.8)	(8.7)	-	-	30%	密器面やや粗い	良好	灰色(N6/)	反転復元、内・外面とも口クロナデ
7	1	1-2区	B7・g21	6 溝	瓦器	皿	8.0	1.5	-	-	70%	密	軟	灰色(5Y7/1)	表面の磨減激しい
8	1	1-2区	B7・g21	6 溝	瓦器	皿	7.8	1.6	-	-	90%	密 黒色斑粒多く含む	軟	灰色(10Y4/1)	歪み著しい
9	1	1-2区	B7・g21	6 溝	瓦器	皿	(8.0)	1.3	-	-	45%	密	軟	灰色(5Y4/1)	反転復元、表面の磨減激しい
10	1	1-2区	B7・g21	6 溝	瓦器	皿	8.7~8.0	1.3	-	-	100%	密 黒色斑粒含む	軟	オリブ灰色(2.5GY6/1)	表面の磨減激しい
11	1	1-2区	B7・g21	6 溝	瓦器	碗	14.0	4.0	-	5.0	85%	密	軟	灰白色(N7/1)~灰白色(5Y7/1)	内面に暗文残る内外面とも磨減著しい
12	1	1-2区	B7・h21.22	7 溝	土師器	皿	(8.5)	1.2	-	5.0	-	密1mm以下の赤色酸化粒微量1mm位の石英微量	良好	明褐色(7.5YR5/6)~明赤褐色(2.5YR5/6)	反転復元
13	1	1-2区	B7・h21.22	7 溝	土師器	高台付皿?	-	(1.3)	-	(6.5)	50%	密1~5mm位の石英少量	良好	にぶい黄褐色(10YR6/4)	反転復元、磨減のため調整不明瞭、貼付け高台
14	1	1-2区	B7・h21.22	7 溝	瓦器	碗	-	(2.7)	-	(5.8)	30%	密	良好	灰色(N4/0)断面:褐色(10YR4/4)	反転復元、磨減のため調整不明瞭、貼付け高台
15	1	2区	A7・v17	209 溝	土師器	皿	8.6	1.6	-	7.4	45%	密 赤色斑粒含む	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	反転復元内面ヨコナデ、底部へラ削り
16	1	2区	A7・v16	209 溝	土師器	碗	14.0	3.4	-	8.8	40%	密 赤色斑粒多く含む	良好	褐色(5YR7/6)~明褐色(7.5YR7/2)	反転復元、底部回転糸きり
17	1	3区	A7・s18	209 溝	瓦器	碗	14.8	5.7	-	5.6	80%	密	軟	灰色(N4/)	内面へラミガキ、外面指オサエとナデ
18	1	3区	A7・s18	209 溝 集石直上	瓦器	碗	14.9	5.4	-	6.0	98%	密	軟	灰白色(10YR8/2)~褐灰色(10YR6/1)	内面暗文、外面指オサエとナデ、付け高台
19	1	2区	A7・x16	209 溝	瓦器	碗	14.8	5.3	-	6.2	70%	密	やや軟	灰白色(5Y7/1)~灰色(N4/)	内面暗文、外面指オサエとナデ、付け高台
20	1	2区	A7・x16	209 溝	瓦器	碗	(15.6)	5.5	-	(5.1)	33%	密0.5mm以下の黒色粒を微量含む	良好	内外面:暗灰色(N3/3)断面:灰白色(N8/)	反転復元、内面暗文、外面指オサエとナデ、付け高台
21	1	2区	A7・x16	209 溝	埴輪	形象	-	(16.1)	(18.2)	-	-	やや粗2~4mm大の石英・長石・赤色斑粒含む	やや軟	褐色(7.5YR7/6)~にぶい黄褐色(10YR7/4)	外面斜めハケとナデ、指オサエ、内面ナデ、透かし穴あり
22	1	2区	A7・u18	210 谷状地形サプトレ①	弥生土器	広口壺	(15.6)	(4.6)	-	-	25%	密1mm位の赤色酸化粒少量	良好	褐色(5YR7/6~6/6)	反転復元、磨減のため調整不明瞭、口端部に列点文
23	1	2区	A7・u18	210 谷状地形サプトレ②	弥生土器	甕	-	(6.3)	-	5.0	30%	密1~3mm位の石英中量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/4~7/2)	一部反転復元、外面タタキ、内面板状工具のナデ
24	1	2区	A7・t18	210 谷状地形中層	土師器	高杯	(18.0)	6.2	-	-	40%	やや粗1~2mm大の石英・長石・チャート・片岩含む	やや軟	にぶい黄褐色(10YR6/3)	反転復元、外面一部ハケ目残る、内面ナデ
25	1	2区	A7・x17	210 谷状地形上層	弥生土器	高杯	-	(6.5)	-	10.8	脚部のみ100%	やや粗1~3mm大の石英・長石・片岩・赤色斑粒含む	軟	明赤褐色(5YR5/6)~灰色(10YR7/1)	外面ヨコナデ、円形透かし穴が4箇所、V様式
26	1	2区	A7・x17	210 谷状地形上層	弥生土器	鉢	ツマミ部4.7	(3.8)	-	-	100%	密1~5mm位の片岩中量2~3mm位の石英少量	良好	黄灰色(2.5Y6/1)~暗黄灰色(2.5Y4/2)	一部反転復元磨減のため調整不明瞭
27	1	2区	A7・t18	210 谷状地形中層	弥生土器	鉢	(9.3)	5.8	-	3.1	40%	密	良好	灰白色(2.5Y8/2)~褐色(7.5YR7/6)断面:にぶい黄褐色(10YR5/4)	反転復元、内外面へラミガキ
28	1	2区	A7・w18	210 谷状地形サプトレ②	須恵器	坏	(13.0)	(4.0)			5%	密	軟	灰白(N7/)	反転復元、付け高台、8c
29	1	2区	A7・t18	210 谷状地形中層	須恵器	長頸壺		(1.8)		(8.0)	5%	密	やや軟	灰(N4/)	反転復元TK-48?
30	1	2区	A7・x17	210 谷状地形上層	瓦器	碗		(1.3)		(5.8)	10%	密	良好	内面:灰(7.5Y6/1)外面:灰(N4/)	反転復元、付け高台
31	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	弥生土器	壺蓋	11.0	0.9	-	-	45%	やや粗1~2mm大の石英・長石・チャート・片岩粒含む	良好	褐色(5YR6/8)~明黄褐色(10YR7/6)	磨減のため調整不明瞭
32	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	土師器	長胴甕	(29.7)	(13.3)	-	-	10%	密1~4mm位の片岩・石英中量含む	良好	灰色(10YR8/3)~にぶい黄褐色(10YR7/4)	反転復元、外面ハケ、内面は板状工具によるナデと指オサエ
33	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	土師器	長胴甕	(24.0)	11.2	-	-	10%以下	粗6x2mm大の片岩、2mm以下の赤色酸化粒白色・灰色粒を多量を含む	良好	外面:褐色(5YR6/6)内面:浅黄褐色(10YR8/3)断面:淡黄色(2.5Y8/4)	反転復元、外面ハケ内面磨減のため不明瞭
34	1	1-1区	B7・k22	51 自然地形の落ち込み	土師器	坏	(15.4)	3.3	-	(8.4)	25%	密1~2mmの赤色酸化粒少量	良好	浅黄褐色(10YR8/3)断面:褐色(5YR6/6)	反転復元、内外面指オサエとナデ、付け高台
35	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	土師器	皿	(16.8)	2.3	-	13.0	70%	密1~2mm位の赤色酸化粒少量	良好	外面:淡黄色(2.5Y8/3)内面:褐色(5YR6/6)断面:褐色(5YR6/6)	一部反転復元、内面指オサエとナデ外面ヨコナデ、底部は未調整面
36	1	1-1区	B7・j20	51 自然地形の落ち込み	土師器	高杯	-	6.9	-	-	15%	密1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	内外面:にぶい黄褐色(10YR7/4)断面:明赤褐色(5YR5/6)	外面取り、内面ナデ、奈良時代
37	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	土師器	鉄鉢	(21.5)	8.9	-	-	35%	密1mm以下の白色赤色酸化粒を微量含む	良好	内外面:明赤褐色(5YR5/6)浅黄褐色(10YR8/4)断面:明赤褐色(5YR5/6)	内外面磨減のため調整不明瞭
38	1	1-1区	B7・j20	51 自然地形の落ち込み	須恵器	ハソウ	-	(5.5)	(9.0)	-	40%	密1~2mm位の石英少量	良好	灰白色(N6/0)	一部反転復元、陶器Ⅱ型式第4段階?(田辺TK43型式)
39	1	1-1区	B7・j18	51 自然地形の落ち込み	須恵器	甕	(16.7)	(6.5)	-	-	5%	密1~4mm位の長石(?)多量	良好	灰色(5Y6/1)自然釉:灰色(7.5Y4/1)	反転復元、外面不定方向のへラ削り、陶器Ⅳ型式第1段階(田辺MT-21型式)
40	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	須恵器	皿	(16.8)	2.5	-	(13.2)	50%	密1~3mm位の石英中量	軟	灰色(7.5Y7/1)	反転復元、外面タタキ後力キ目、陶器Ⅳ型式第4段階?(田辺TK7型式)
41	1	1-1区	B7・g20	51 自然地形の落ち込み	須恵器	皿	(16.4)	2.3	-	(13.3)	30%	密2mm位の石英微量	やや軟	灰色(7.5Y6/1)	反転復元、内外面ヨコナデ、底部回転へら切、陶器Ⅳ型式第3段階?(田辺TK53型式)
42	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	須恵器	坏	(14.4)	4.4	-	(9.5)	50%	密	軟	灰色(5Y6/1)	反転復元、陶器Ⅳ型式第4段階?(田辺TK7型式)
43	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	須恵器	坏	(13.8)	4.0	-	(8.6)	50%	密1~2mmの石英中量	やや軟	灰白色(N7/0)	反転復元、回転ナデ、付け高台Ⅳ型式第4段階?(田辺TK7型式)
44	1	1-1区	B7・j20	51 自然地形の落ち込み	須恵器	坏	(16.9)	5.6	-	(10.5)	40%	密1~2mm位の石英少量	軟	灰白色(5Y8/1)	反転復元、回転ナデ、付け高台Ⅳ型式第4段階?(田辺TK7型式)
45	1	1-1区	B7・j22	51 自然地形の落ち込み	須恵器	坏	(16.2)	5.7	-	(10.7)	30%	密1mm以下の黒色粒少量3mm位の石英微量	軟	灰白色(5Y8/1)断面:灰白色(5Y7/1)	反転復元、回転ナデ、付け高台Ⅳ型式第4段階?(田辺TK7型式)
46	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	須恵器	長頸壺	-	(12.5)	(14.3)	7.8	-	密1mm位の石英中量	良好	外面:灰色(N4/0)内面:灰色(N6/0)断面:灰色(N6/0)	一部反転復元、回転ナデ、へラ削り、付け高台、回転糸きり陶器Ⅴ型式14段階(田辺TK112型式)



表3-2 出土遺物観察表(土器)

( )は還元値

報告書番号	地区			遺構層位	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	残存率	胎土	焼成	色調	備考
	年度	区画	グリッド												
47	1	1-1区	B7・j21	51 自然地形の落ち込み	須恵器	長頸壺	-	(10.8)	15.4	9.7	40%	密 1~4mm位の石英中量 2~3mmの方岩少量	やや軟	灰色(7.5Y5/1) 断面: 褐色(7.5YR6/6)	反転還元、回転ナデ、付け高台
48	1	1-2区	B7・b18	51 自然地形の落ち込み	黒色土器	碗	-	1.8	-	(6.8)	5%	密 5mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	外面: 明赤褐色(2.5YR5/6) 内面: 黒色(N1.5/)	反転還元、内面暗門、外面横ナデ、付け高台平安時代
49	1	3区	A7・t14	453 土坑	土師器?	不明	(5.6)	1.6	-	-	-	密 1~2mm大の石英粒を含む	やや軟	内面: 褐色(7.5YR7/6)~ 外面: 浅黄褐色(10YR8/3)	
50	1	3区	A7・o16	317 土坑	黒色土器B	碗	(13.6)	5.6	-	6.5	60%	密 細かい赤色酸化粒多量	良好	暗灰色(N3/0)	一部反転還元、内外面指オサエとナデ、付け高台、平安後期11c初
51	1	2区	A7・u17	214 土坑	瓦器	皿	8.2~ 14.6 14.9	2.0	-	-	80%	密	やや軟	灰色(7.5Y 4/1)	内外面横ナデ
52	1	2区	A7・u17	214 土坑	瓦器	碗	8.2~ 14.6 14.9	4.9	-	5.0~ 5.4	-	密	軟	灰色(N3/)~灰白色(N7/)	内面暗文、外面指オサエとナデ、歪み著しい
53	1	2区	A7・v17	229 土坑	土師器	皿	9.0	1.6	-	-	95%	密 赤色班粒・雲母粒 1~2mm大の石英・長石粒を含む	良好	褐色(7.5YR6/6)	横ナデ、底部未調整
54	1	2区	A7・w16	228 土坑	土師器	皿	14.0	2.9	-	-	80%	密 赤色班粒多く含む マーブル状胎土	やや軟	褐色(7.5YR6/6)~にぶい黄褐色(10YR6/4)	内外面ともに磨滅著しい 外面横ナデ、指オサエ
55	1	2区	A7・w16	228 土坑	瓦器	碗	(14.0)	4.8	-	(5.3)	40%	密	良好	灰色(N4/)	内面暗文、外面横ナデ
56	1	2区	A7・w16	228 土坑	瓦器	碗	(14.2)	4.6	-	(4.0)	20%	密	良好	灰色(N4/)	反転還元、内面暗文、外面指オサエとナデ、13~14c
57	1	2区	A7・y19	238 溝 中層	須恵器	薬壺	(11.6)	(16.7)	(22.2)	-	20%	やや粗 1~2mm大の長石粒を含む	良好	灰色(N6/)~(N4/)	反転還元、内外面口クロナデ、肩部灰カブリ、8c(奈良)
58	1	2区	A7・W14-16	221 溝	土師器	羽釜	(28.2)	(13.2)	(35.0)	-	-	密 1mm大の石英・長石・チャート・赤色班粒を含む	良好	灰白色(10YR8/2)	反転還元、内面指オサエとナデ、外面横ナデ外面炭化物付着
59	1	1-2区	B7・c19	33 土坑	瓦器	皿	(8.2)	1.6	-	-	40%	密	軟	灰色(7.5Y6/1)	反転還元、内外面横ナデ、底部未調整
60	1	1-2区	B7・c19	34 土坑	瓦器	皿	(8.2)	1.1	-	(7.0)	40%	密	良	褐灰色(10YR6/1)	反転還元、内外面横ナデ、底部未調整
61	1	1-2区	B7・f20	遺物包含層第4層	瓦器	皿	8.3	1.7	-	-	90%	密	軟	灰色(7.5Y5/1)	内外面横ナデ、底部ナデ
62	1	1-2区	B7・e16	遺物包含層第4層 暗褐色の砂質土	須恵器	形象埴輪	縦×横 (15.0×15.2)	幅 13.8	-	-	5%	粗 5mm以下の片岩6mm以下の白色黒色粒を多量含む	良好	内・外面: 灰色(N4/) 断面: 灰色(N6/)	表・裏面ナデ、表面ナデ後、二条沈着
63	1	2区	A7・u14	454 土坑	土師質	土玉	2.5× 2.3	-	-	-	98%	やや粗 1~2mm大の長石・石英粒を含む	軟	暗灰褐色(2.5Y5/2)~灰白色(10YR8/1)	10.97 g
67	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	土師器	二重口縁壺	(15.7)	(4.5)	-	-	口縁のみ45%	密 1~3mm大の石英・長石・片岩粒を含む	軟	浅黄褐色(10YR8/4)	内外面ナデ、指オサエ、庄内期
68	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 南北1層	弥生土器	壺	(21.0)	(4.1)	-	-	10%以下	密 1~2mm大の長石・石英・チャート・赤色班粒を含む	軟	褐色(5YR7/6)	反転還元、口縁部貼付浮文と沈線 内面横ナデ、弥生後期
69	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	土師器	壺	-	(10.8)	13.5	-	70%	粗 4mm以下の片岩 白色粒を多量に含む	良好	外面: 淡黄色(2.5Y8/3) 内面: 褐色(7.5YR7/4)	一部反転還元、外面タタキ、内面ナデか? 庄内
70	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	弥生土器	甕	(12.4)	(4.8)	-	-	口縁のみ20%	密 2~3mm大の長石・片岩・石英粒を含む	軟	明赤褐色(2.5YR5/8)	反転還元、剥離のため調整不明、庄内期?
71	2	4区	A7・t3, 4	101 竪穴建物 1層	-	甕	-	(4.4)	-	2.8	10%	やや粗 2.5mm以下の片岩 白色・褐色粒を多量に含む	良好	外面: 浅黄褐色(10YR8/3) 内面: にぶい褐色(7.5YR6/3) 断面: 灰オリーブ色(5Y5/2)	一部反転還元、内外面ナデ
72	2	4区	A7・t, u3	101 竪穴建物 1層	土師器	壺	-	1.6	-	3.3	5%	密 1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	外面: にぶい黄褐色(10YR7/3) 内面: 浅黄褐色(10YR8/3) 断面: 灰色(N4/)	一部反転還元、内外面ナデ、庄内
73	2	4区	A7・t, u3	101 竪穴建物 1層	土師器	壺	-	(2.6)	-	(5.2)	5%	密 2×6mm大の片岩 白色粒を少量含む	良好	外面: にぶい黄褐色(7.5YR6/4) 内面: 明赤褐色(5YR5/6) 断面: 灰色(N4/)	反転還元、内外面ナデ、庄内
74	2	4区	A7・t, u3	101 竪穴建物 1層	土師器	甕	-	(3.6)	-	3.9	5%	密 5mm以下の白色粒を微量含む	良好	外面: にぶい黄褐色(10YR7/4) 内面・断面: 灰色(N4/)	一部反転還元、外面タタキ、庄内
75	2	4区	A7・t3, 4	101 竪穴建物 3層	土師器	-	-	2.3	-	2.9	10%	密 1.5mm以下の白色赤色酸化粒を少量含む	良好	外面・内面: 淡黄色(2.5Y8/3) 断面: 浅黄褐色(10YR8/4)	一部反転還元、外面縦方向のナデ、庄内
76	2	4区	A7・u3	335(101に伴う)1層	土師器	小型丸底壺	-	(6.3)	-	-	50%	粗 4mm以下の片岩を多量に含む	良好	外面: 浅黄褐色(10YR8/3) 内面: にぶい黄褐色(10YR6/3) 断面: にぶい黄褐色(10YR7/3)	一部反転還元、内外面ナデ、内面底部指オサエ、庄内
77	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 南北1層	弥生土器	高坏	-	(7.1)	(6.2)	-	15%?	密 2mm大の石英粒を含む	軟	褐色(7.5YR6/6)	一部反転還元、外面に一部ミガキが残る弥生後期?
78	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	土師器	高坏	(21.4)	(10.4)	-	-	-	密 1~2mm大の長石・片岩・赤色班粒を含む	軟	浅黄褐色(10YR8/4)	反転還元、脚部外面ヘラミガキ、他は剥離のため調整不明、庄内期
79	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	土師器	器台	(9.2)	(5.7)	-	-	40%	密 2mm大の長石粒を含む	軟	褐色(7.5YR6/6)	反転還元、外面は縦横のナデ、布留
80	2	6区-2	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	土師器	器台	-	8.0	-	(10.1)	40%	粗 3mm以下の片岩多量 白色・赤色酸化粒少量含む	良好	外面: 浅黄褐色(7.5YR8/6) 内・断面: 黄褐色(10YR8/6)	一部反転還元、内外面とも剥離のため調整、不明、庄内か
81	2	6区	A7・t2	101 竪穴建物 1・2層	土師器	長胴甕	(24.6)	(13.1)	-	-	-	密 1~2mm大の長石・石英粒を含む	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)~ 褐色(2.5YR7/6)	反転還元、外面縦ナデ、内面は指オサエとナデ、5c
82	2	6区-2	A7・s2, 3	469 溝 1層	土師器	甕	(11.9)	(3.5)	-	-	5%	やや粗 2.5mm以下の白色・褐色粒を少量含む	良好	内外面: にぶい褐色(7.5YR7/4) 断面: にぶい黄褐色(10YR7/4)	反転還元、磨滅のため調整不明 布留
83	2	6区-2	A7・s2, 3 A7・t, u2	469 溝 1層	土師器	小型丸底壺	-	(4.3)	-	-	10%	粗 4mm以下の白色褐色粒を多量に含む	良好	外面: にぶい黄褐色(10YR7/4) 内面: 灰白色(10YR8/2) 断面: にぶい黄褐色(10YR7/4)	一部反転還元、外面タタキ、布留か
84	2	6区-2	A7・s2, 3 A7・t, u2	469 溝 1層	土師器	高坏	-	(4.9)	-	-	10%	粗 2.5mm以下の淡褐色粒を多量に含む	良好	外面: にぶい黄褐色(10YR4/3) 内面: 黒褐色(2.5Y3/1) 断面: 黒色(N2/)	一部反転還元、磨滅のため調整不明、布留か
85	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物 黒色粘土	土師器	二重口縁壺	30.3	(10.0)	-	-	100%	密 1~5mm位の石英多量 1~6mm位の片岩中量	良好	灰白色(2.5Y8/2)~褐色(5YR7/6)	一部反転還元、内外面ハゲ、口縁横ナデ、布留新 4c 後?
86	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物 黒色粘土	土師器	甕	(31.6)	(39.5)	-	-	30%	密 1~5mmくらいの片岩・石英中量含む	良好	褐色(5YR7/6)~にぶい褐色(5YR7/4)	反転還元、4世紀末 布留新
87	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物 黒色粘土	土師器	長頸壺	(11.0)	(11.4)	(16.6)	-	15%	密 1mm大の長石・石英・片岩粒を含む	良好	浅黄色(2.5Y8/3)	反転還元、外面横ナデ、内面強い縦ナデ、5c 前
88	2	4区	A7・r5	298 (102に伴う)	土師器	小型丸底壺	8.4	6.8	-	2.7	-	密 1~2mm大の石英・長石・雲母粒を含む	良好	にぶい褐色(7.5YR7/4)	外面ヘラミガキと黒斑、内面不定方向のナデ、4c 末(布留並行)
89	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物 黒色粘土	土師器	小型丸底壺	(8.9)	9.1	9.6	-	85%	密 1~3mm大の石英・長石・片岩粒を含む	良好	明赤褐色(5Y5/6)	反転還元、外面ヘラミガキ、ヘラケズリ、内面強いナデ、4c 後
90	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物	土師器	台付甕(壺?)	-	(7.0)	-	10.0	60%	密 1~4mm位の石英少量 1mm位の赤色酸化粒少量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2) 断面: 明赤褐色(5YR5/6)	一部反転還元、外面はハゲ、内面は強いナデ庄内~布留?
91	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物	土師器	高坏	13.9	6.5	-	7.2	70%	密 1mm大の石英・長石・雲母粒を含む	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	外面横ナデ
92	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物 黒色粘土	土師器	器台	(12.2)	9.0	-	(16.7)	60%	粗 1~3mm大の石英・長石・片岩・赤色班粒を含む	やや軟	にぶい黄褐色(10YR 6/4) ~にぶい黄褐色(10YR7/3)	反転還元、内外面とも剥離のため調整不明
93	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物	土師器	甕	(15.0)	(17.4)	(19.0)	-	40%	密 1~2mm大の長石・石英粒を含む	良好	にぶい褐色(7.5Y7/3)~灰白色(2.5Y8/2)	反転還元、外面ハゲ、内面ヘラケズリ、口縁横ナデ、布留式古段甕
94	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物	土師器	甕	(12.6)	(18.9)	(20.8)	-	30%	密 1~4mm大の石英・長石粒を含む	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	反転還元、外面ハゲ、内面指オサエ、ヘラケズリ、口縁横ナデ、庄内?
95	2	4区	A7・r5	102 竪穴建物 黒色粘土	土師器	甕	(13.6)	24.1	20.6	-	60%	粗 5mm以下の片岩・白色、灰色粒を多量に含む	良好	外面: 淡黄色(2.5Y8/3)~にぶい褐色(7.5YR6/3) 内面: 灰白色(5Y7/1)~灰色(N5/) 断面: 灰色(5Y5/1)	一部反転還元、外面ハゲ、内面指オサエヘラケズリ、口縁横ナデ、布留式新(4c 末)

表3-3 出土遺物観察表(土器)

( )は復元値

報告書番号	地区			遺構層位	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	残存率	胎土	焼成	色調	備考
	年度	区画	グリッド												
96	2	4区	A7・r5	102 竪穴 黒色粘土	土師器	高坏	23.9	16.4	-	14.1	-	粗 6mm以下の片岩・石英・灰色粒を多量 5×17mmの片岩 1コ含む	良好	外面: 褐色(5YR6/6) 内面: 淡褐色(5YR8/3) 灰白色(10YR7/1)、断面: 灰白色(10YR7/1)	一部反転復元、内外面横ナデ、脚部面取り、布留古い様相
97	2	4区	A7・r5	102 竪穴	土師器	鍋	(15.4)	17.3	-	(8.0)	-	やや粗 2～5mm大の石英・長石・片岩粒含む	-	褐色(7.5YR7/6)	反転復元、外面粗いハケス、内面指オサエとナデ、口縁粗いハケ、4c未?
98	2	4区	A7・r5	102 竪穴 黒色粘土	土師器	甕	(16.4)	(10.7)	-	-	30%	密 3～5mm位の片岩少量 2～3mm位の石英少量	良好	灰黄色(2.5Y7/2)～浅黄色(2.5Y7/3)	外面ハケス、内面ヘラケズリ、口縁横ナデ外面に煤付着、6c前半?
99	2	4区	A7・q5	177 溝	土師器	甕	(14.6)	(3.3)	-	-	5%	やや密 1.5mm以下の灰色粒を少量含む	良好	外面: 灰黄色(2.5Y7/2) 内面: 灰白色(2.5Y8/2) 断面: 黄灰色(2.5Y6/1)	反転復元、横ナデ布留
100	2	4区	A7・r6	243 溝	弥生土器	壺	(16.5)	(5.1)	-	-	5%	粗 3mm以下の片岩・白色・灰色粒を多量に含む	良好	外面: にぶい褐色(7.5YR7/4) 内面: 灰白色(10YR8/2) 断面: 浅黄褐色(10YR8/3)	反転復元、内外面磨滅のため調整不明、庄内か? 弥生か?
101	2	4区	A7・r6	243 溝	土師器	高坏	(18.0)	5.2	-	-	5%	密 1.5mm以下の白色粒を少量含む	良好	外面: 浅黄褐色(10YR8/3) 内面: 浅黄褐色(7.5YR8/3) 断面: 浅黄褐色(10YR8/3)	内外面磨滅のため調整不明、布留
102	2	4区	A7・x3	103 竪穴建物 4層	土師器	長頸 壺?	-	(2.7)	(7.8)	-	-	密	良好	褐色(7.5YR7/6)	口クロナデ、8c
103	2	4区	A7・x3	103 竪穴 柱穴 282	弥生土器	鉢	(13.8)	(6.7)	-	-	-	密 1～2mm大の長石・石英・片岩粒含む	良好	にぶい褐色(7.5YR6/4)	反転復元、内外面ナデ、口縁横ナデ、3c 庄内並行
104	2	4区	A7・u4	223 竪穴建物	土師器	二重口 縁壺	(23.6)	(3.8)	-	-	-	やや粗 1～4mm大の石英・片岩・長石・赤色斑粒含む	軟	褐色(7.5YR7/6)	反転復元、剥離のため調整不明 布留(古) 4c前
105	2	4区	A7・t4	223 竪穴建物	弥生土器	甕	-	(2.2)	(9.0)	-	-	やや粗 1～2mm大の片岩・石英・長石・赤色斑粒含む	良好	褐色(5YR6/6)	外面タタキ、内面ヘラ状工具の圧痕、底部ナデ、3c末 庄内
106	2	4区	A7・u4	228 223に伴う	弥生土器	甕	-	(3.1)	(9.7)	3.5	-	密	やや軟	にぶい褐色(10YR7/2)～褐色(7.5YR7/6)	外面タタキ、内面と底部ナデ
107	2	4区	A7・v4	223 竪穴建物	土師器	高坏	-	(7.0)	脚部 (7.5)	-	-	密 1～2mm大の長石・石英・赤色斑粒含む	やや軟	褐色(5YR6/6)	反転復元、外面ヘラミガキ、布留並行、4c前?
108	2	4区	A7・t4	223 竪穴建物	土師器	高坏	-	(8.5)	脚部 (9.0)	-	-	やや粗 2mm大の石英・長石・やや多く含む	やや軟	淡黄色(2.5Y8/3)～明赤褐色(5YR5/6)	一部反転復元、内外面ナデ、棒状工具引き抜き痕
109	2	4区	A7・v4	223 竪穴建物	土師器	鉢	(11.2)	(5.2)	-	-	25%	やや粗 1～2mm大の長石・片岩・石英粒含む	やや軟	灰褐色(7.5YR5/2)～褐色(7.5YR6/6)	反転復元、口縁横ナデ 4c前
110	2	4区	A7・v4	277・278 竪穴建物	弥生土器	二重口 縁壺	-	(5.6)	(13.4)	-	口縁のみ 50%	密 3～4mm大の片岩含む	やや軟	にぶい褐色(7.5YR6/3)	反転復元、内外面指オサエとナデ 床内 2段階?
111	2	4区	A7・v4	278 竪穴建物	弥生土器	高坏	-	(5.3)	脚部 (5.1)	-	-	やや粗 1～2mm大の長石・石英・赤色斑粒含む	軟	褐色(5YR6/8)	一部反転復元、内外面とも剥離のため調整不明、3c? 庄内並行?
112	2	4区	A7・v4	277・278 竪穴建物	土師器	器台	-	(8.2)	脚 (11.0)	-	-	やや粗 1～3mm大の長石・石英・赤色斑粒含む	軟	浅黄褐色(10YR8/3)	一部反転復元、外面ハケ、ヘラ状工具の圧痕、内面ナデ、ヘラ状工具の圧痕、4c
113	2	4区	A7・v4	277・278 竪穴建物	弥生土器	甕	-	(13.0)	(20.2)	3.4	-	密 1～2mm大の長石・石英・片岩含む	良好	浅黄褐色(10YR8/3)	反転復元、外面タタキ、ナデ、内面指オサエ、ナデ、3c 庄内並行
114	2	4区	A7・v4	277・278 竪穴建物	土師器	鉢	(25.8)	(21.1)	-	-	40%	粗 5mm以下の片岩・白色粒を多量含む	良好	外面: 浅黄褐色(7.5YR8/4) 内面: にぶい褐色(7.5YR7/4) 断面: 灰色(N6/)	外面磨滅、内面ナデ、口縁横ナデ、庄内か
115	2	6区-2	A7・s, t-1	456 竪穴建物 1・2層	土師器	壺	-	2.1	(8.8)	4.3	-	密	軟	明黄褐色(10YR7/6)	一部反転復元、剥離のため内外面調整不明、3c末
116	2	6区-2	A7・t1, 2	456 竪穴建物 1層	弥生土器	甕	-	(2.6)	(9.5)	(4.0)	-	やや粗 1～3mm大の石英・長石・チャート・雲母含む	良好	明赤褐色(5YR5/6)	一部反転復元、外面タタキ、内面と底部ナデ 3c、庄内並行
117	2	6区-2	A7・t1	456 竪穴建物 1・2層	土師器	高坏	-	(9.6)	(14.5)	-	-	密	軟	褐色(5YR6/8)	一部反転復元、剥離のため内外面調整不明、5c?
118	2	6区-2	A7・s,t1	456 竪穴建物 ①、1・2層	土師器	壺	(4.5)	(5.6)	-	-	40%	密 1～2mmの片岩・長石含む	軟	黄褐色(7.5YR6/8)	反転復元、剥離のため内外面調整不明
119	2	6区	A7・t1	456 竪穴建物 4層	土師器	高坏	-	(2.5)	(8.0)	-	-	やや粗 1mm大の石英・片岩・長石・チャート粒をやや多く含む	やや軟	明褐色(7.5YR5/6)	3c末?、内外面ナデ
120	2	6区-2	A7・t1,2	456 竪穴建物 ③	須恵器	坏蓋	(1.2)	(11.6)	-	-	60%	密 1～2mmの石英少量含む	良好	灰色(N6/)	一部反転復元、回転ナデ、ヘラケスクロ口は石まわり 陶器Ⅱ-4～5(田辺 TK43～209)
121	2	6区-2	A7・s,t1	456 竪穴建物 ①、1・2層	須恵器	壺	(12.0)	(2.7)	-	-	10%	密	良好	灰白色(5Y7/1)	反転復元、回転ナデ、自然釉付着
122	2	6区-2	A7・t1, 2	456 竪穴建物	須恵器	甕	(26.0)	(5.9)	-	-	10%以下	密 2～3mm大の長石や多く含む	良好	灰色(5Y5/1)	反転復元、外面平行タタキ、口縁横ナデ
123	2	6区-2	A7・t, u1	457 竪穴建物 1層	弥生土器	壺	-	(4.2)	-	-	10%以下	やや粗 2～4mm大の長石・石英粒含む	やや軟	褐色(5YR6/6)	円形浮文、二条沈線、I様式
124	2	6区-2	A7・t, u2 A7・t, u1	457 竪穴建物 1層	土師器	高坏	-	(5.0)	脚部 (10.3)	-	40%	密	軟	褐色(5YR7/8)	反転復元、内外面ナデ、庄内?
125	2	6区-2	A7・t, u2 A7・t, u1	457 竪穴建物 1層	弥生土器	甕	-	(1.7)	(7.3)	4.6	-	やや粗 2～5mm大の片岩・石英・長石・チャート粒・赤色斑粒含む	良好	明赤褐色(5YR5/6)	弥生後期、外面ヘラミガキ、横ナデ
126	2	6区	A7・t1	457 竪穴建物 1層	弥生土器	壺	-	(3.2)	(14.2)	(8.8)	-	やや粗 2～6mm大の片岩・長石・チャート・石英・赤色斑粒含む	軟	褐色(7.5YR7/6)	反転復元、剥離のため内外面調整不明
127	2	6区	A7・t1	457 竪穴建物	須恵器	坏蓋	-	(1.3)	(13.0)	-	-	密	良好	灰色(N4/)	II型式?、外面ヘラケズリ、内面横ナデ、6～7c
128	2	6区-2	A7・t, u2 A7・t, u1	457 竪穴建物 1層	須恵器	甕	-	(4.8)	-	-	-	密	良好	暗灰色(N3/)	拓本・断面のみ、外面平行タタキ、内面同心円文
129	2	6区-2	A7・t, u2 A7・t, u1	457 竪穴建物 1層	土師器	不明	-	(4.1)	-	-	10%以下	粗 1～3mm大の片岩・長石・石英粒含む	軟	にぶい黄褐色(10YR7/4)	断面のみ、口縁横ナデ
130	2	4区	A7・u2, 3	100 溜罎 4層	瓦器	罎	14.6	4.8	-	-	60%	密 2mm以下の白色・黒色粒を少量含む	良好	内外面: 黒色(N2/) 内面: 灰色(N4/) 断面: 灰白色(N7/)	内面ミガキ、外面指オサエ、ナデ
131	2	4区	A7・u2, 3	100 溜罎 3層	瓦器	罎	14.8	5.3	-	4.5	90%	密 5mm以下の灰色粒を微量含む	良好	外面: 暗灰色(N3/) 内面: 灰色(N4/) 断面: オリーブ灰色(5GY6/1)	一部反転復元、内面ミガキ、外面指オサエナデ、13c中頃
132	2	4区	A7・u2, 3	100 溜罎	瓦器	罎	(15.1)	5.0	-	5.2	98%	密 1.5mm以下の白色・灰色粒を微量含む	良好	外面: 暗灰色(N3/)・灰白色(N7/) 内面: 灰色(N4/) 断面: 灰色(N7/)	内面ミガキ、外面指オサエ、横ナデ、12c後半～13c初
133	2	4区	A7・u2, 3	100 溜罎	瓦器	罎	14.1	4.3	-	4.5	90%	密 1.5mm以下の灰色粒を少量含む	良好	内外面: 暗灰色(N3/) 断面: 灰色(N6/)	内面ミガキ、外面指オサエ、ナデ、13c中頃
134	2	4区	A7・u2, 3	100 溜罎	-	鉢	(26.4)	(7.2)	-	-	15%	粗 1.5mm以下の褐色粒を多量に含む	良好	外面: 灰白色(N7/) 内面: 褐灰色(10YR5/1) 断面: 灰白色(2.5Y7/1)	口クロナデ、自然釉 備前?の古い時期か 12cか
135	2	4区	A7・u2, 3	100 溜罎 5層 灰色粘土	瓦器	皿	9.1	1.7	-	7.1	70%	密	良好	内外面: 暗灰色(N3/) 断面: 灰色(N6/)	内面板状工具のナデ、外面ナデ 中世、他の瓦器壺と同時期、13c初
136	2	5区	A7・y1	20 掘方上層	瓦器	罎	(2.5)	(3.6)	-	-	10%	密	良好	灰色(N5/)	反転復元、内外面ミガキ
137	2	5区	B6・f25	66 段状遺構 東土	瓦器	罎	(12.7)	(2.9)	-	-	10%	密	良好	灰色(N6/)	反転復元、内外面ミガキ、外面指オサエ、ナデ
138	2	5区	B6・f25	66 段状遺構 西土	瓦器	罎	-	0.7	-	(4.4)	50%	密	良好	灰色(N4/)～灰白色(7.5Y7/1)	反転復元、ヘラミガキ、付け高台
139	2	4区	A7・q7	153 自然流路 上層	弥生土器	広口壺	15.8	(7.7)	-	-	50%	密 1～3mmの石英少量 2～4mmの片岩少量	良好	褐色(5YR6/6)～灰白(2.5Y8/1)	反転復元、内外面ともヘラミガキか? 庄内?
140	2	4区	A7・u6	153 自然流路 上層	土師器	二重口 縁壺	(17.0)	(6.0)	-	-	25%	密 1～4mm位の石英少量 2～4mm位の片岩微量	良好	にぶい褐色(5YR7/4)～浅黄褐色(10YR8/3)	反転復元、待穴のため調整不明
141	2	4区	A7・r6	153 自然流路 上層	土師器	台付鉢	-	(8.9)	-	-	60%	密 1～最大1.2mm位の石英少量 4mm位の片岩少量	良好	浅黄褐色(7.5YR7/4) 断面: にぶい褐色(7.5YR6/4)	部分反転復元、磨滅のため調整不明、6c前半?

表3-4 出土遺物観察表(土器)

( )は復元値

報告書番号	地区			遺構層位	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	残存率	胎土	焼成	色調	備考
	年度	区画	グリッド												
142	2	5区	B7・d3	153自然流路 青灰色粘土	須恵器	筒形器台	-	(10.4)	(11.6)	-	10%以下	密	良好	灰色(N4/)	反転復元、外面カキ後、櫛描文、内面口コロナデ、円形・方形透かし
143	2	5区	B7・d3	153自然流路 トレンチ1青灰色砂層	須恵器	壺?	-	(2.0)	-	9.8	95%	密5mm位の石英微量	良好	灰色(N4/0) 断面:褐色(7.5YR4/4)	回転ナデ、付け高台、底外目中央付近に凹曲部 第IV型式?
144	2	5区	B7・d3	153自然流路 1層青灰色粘土	須恵器	坏	10.5	4.6	-	6.1	-	やや粗1~2mm大の長石粒多く含む	良好	灰色(N4/)	口コロナデ、付け高台、8~9c?
145	2	5区	B6・b2	153自然流路 22層	土師器	坏	13.3	3.4	-	8.2	95%	密	良好	にぶい赤褐色(5YR5/4)	外面口コロナデ、内面、底部不定方向のナデ、底面裏面墨書「大二」
146	2	4区	A7・q7	153自然流路 上層	土師器	(把手)	-	(8.5)	(10.2)	-	5%	粗2.5mm以下の赤色酸化粒、灰色粒を多量に含む	良好	外面:灰黄色(2.5YR7/2) 内面:明赤褐色(5YR5/6) 断面:灰黄色(2.5Y7/2)	把手、内外面ともナデ
147	2	5区	B7・c3, 4	153自然流路 トレンチ14層青灰色細砂	土師器	羽釜	(18.4)	(7.4)	-	-	10%	密1~8mm位の石英少量 5mm位の片岩微量	良好	灰色(5Y6/1) 断面:灰黄色(2.5Y7/2)	反転復元、外面ヘラナデ、内面は当具痕?口縁横ナデ、11c~12c?
148	2	5区	B7・e3	153自然流路 1層青灰色粘土	土師器	鍋?	(30.3)	(14.0)	-	-	-	密2~4mm大の石英・長石・片岩粒含む	良好	黒褐色(10YR2/2)~灰黄褐色(10YR4/2)	反転復元、外面粗いたタキ、内面横ナデとケズリ後ナデ
149	2	5区	B7・b, c3	153自然流路 1層青灰色粘土	土師器	カマド	-	-	-	-	10%以下	やや粗1~3mm大長石・チャート・雲母・赤色斑粒含む	良好	にぶい褐色(7.5YR7/3)	内外面ナデ、底は貼付け
150	2	4区	A7・s6	153自然流路 中・下層	土師器	壺	(23.3)	(5.4)	-	-	10%	密1~2mm大の長石・雲母・赤色斑粒含む	良好	明赤褐色(5YR5/6)	反転復元、内外面ナデ、円形浮文と波状文、口縁直下に刻み、布留
151	2	5区	B7・b, c3	153自然流路 黒色砂層	弥生土器	壺	(14.3)	(4.5)	(15.0)	-	-	密1mm大の長石・雲母・赤色斑粒含む	やや軟	にぶい黄褐色(10YR6/3)	反転復元、内外面はナデ、円形浮文、二条沈線、V様式
152	2	5区	B7・c, d6	153自然流路 黒色粘土の下層部分	土師器	壺	(16.3)	(8.7)	-	-	20%	粗6mm以下の石英 灰色粒を多量に含む	良好	内外面:灰黄色(2.5Y7/2) 断面:暗灰色(N3/)	反転復元、ヘラミガキかミガキ、布留、5c前か
153	2	4区	A7・x5-6,y5-6	153自然流路 中層	土師器	甕	(17.0)	(12.8)	(22.0)	-	10%以下	密1~3mm大の長石・雲母粒含む	軟	褐色(5YR6/8) 灰褐色(7.5YR4/2)	反転復元、外面ハケメ、内面ケズリと指オサエ、口縁ハケメと横ナデ
154	2	4区	A7・q6	153自然流路 中・下層	弥生土器	壺	-	(11.5)	15.5	4.0	80%	やや粗1~3mm大の長石、石英、片岩粒含む	軟	灰白色(2.5Y8/2)	部分反転復元、外面は剥離で調整不明、内面はヘラミガキとナデ、弥生後期 長頸甕
155	2	4区	A7・x5-6,y5-6	153自然流路 中層	弥生土器	台付鉢	(10.2)	8.9	6.0	6.0	60%	密2~4mm大の石英、片岩粒、赤色斑粒含む	軟	浅黄褐色(10YR8/4)	部分反転復元、脚部指オサエ、ナデ、弥生後期?
156	2	4区	A7・s5	153自然流路 8層	弥生土器	甕	11.4	14.2	14.3	-	90%	密1~3mm大の長石・石英・雲母、赤色斑粒含む	やや軟	褐色(5YR6/6)	外面タタキ、内面指オサエ、ナデ、口縁、脚部端は横ナデ
157	2	4区	A7・x6	153自然流路 中層	弥生土器	甕	(13.5)	18.1	18.0	2.9	90%	粗6mm以下の片岩 白色粒、赤色酸化粒を多量に含む	良好	外面:褐色(7.5YR6/6)内・断面:灰黄褐色(10YR5/2)	外面タタキ、内面ナデ、指オサエ、口縁横ナデ、庄内古2段階
158	2	5区	B7・b, c3	153 3層黒色砂層	弥生土器	高坏	-	(11.2)	(9.4)	-	-	やや粗	軟	褐色(5YR6/8)	一部反転復元、外面ヘラミガキ、内面ナデ指オサエ、シボリ
159	2	4区	A7・x5-6,y5-6	153自然流路 中層	弥生土器	器台	8.0	(5.1)	-	-	80%	やや粗1~4mm大の石英、長石、片岩粒含む	良好	明褐色(7.5YR5/6)	部分反転復元、内外面ヘラミガキ、円形透かし庄内?
160	2	4区	A7・r6	153自然流路 中・下層	弥生土器	器台	(17.4)	15.1	-	18.0	70%	密1~2mm大の長石含む	軟	褐色(5YR6/6)	一部反転、外面ヘラミガキ、内面、口縁、脚部端は横ナデ
161	2	4区	A7・w5	153自然流路 中層	土師器	鉢	11.6	6.1	-	2.7	99%	粗3mm以下の片岩 白色粒を多量に含む	良好	外面:褐色(7.5YR7/6) 内面:灰白色(2.5Y8/2) 断面:にぶい黄褐色(10YR6/4)	内外面とも磨滅により調整不明、布留
162	2	4区	A7・v5-6,w5-6	153自然流路 中層	軟質土器	把手付鉢	(6.8)	6.9	3.6	3.6	75%	密1~2mm大の石英、長石、雲母、含む	良好	明赤褐色(5YR5/8)	部分反転復元、外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキとナデ、底部未調整
163	2	5区	B7・d7	153自然流路 T1黒色粘土	埴輪	形象	長さ(12.3)	幅(5.6)	-	-	5%	やや粗2mm以下の白色 灰色粒を多量に含む	良好	外面:灰褐色(5YR6/2) 内面:灰褐色(5YR5/2) 断面:灰色(N4/)	不明だが器財系、表面はナデ、二条沈線内に斜線
164	2	5区	B7・d7	153自然流路 黒色粘土	埴輪	形象 円筒底部	-	(4.7)	-	(20.0)	5%	粗2.5mm以下の赤色酸化粒 石英を多量に含む	良好	外面:明褐色(7.5YR7/2) 内面:浅黄褐色(10YR8/3) 断面:灰色(N4/)	反転復元、内外面ナデ
165	2	5区	B7・c4	153自然流路 黒色砂層	須恵器	坏身	(13.2)	(3.7)	(15.4)	-	10%	密	良好	灰色(N5/)	反転復元、口コロナデ、ヘラケズリ、6c
166	2	4区	A7・q7	153自然流路 中・下層	須恵器	-	-	(12.7)	(11.2)	-	80%	密2~3mm大の長石粒少量含む	良好	灰色(N5/)	部分反転復元、外面口コロナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ、内面ナデ、6c
167	2	5区	B7・c, d6	153自然流路 T1黒色粘土	土師器	皿	-	0.7	-	5.6	20%	密2mm以下の赤色酸化粒を微量	良好	内外面:にぶい褐色(10YR7/2) 断面:褐灰色(10YR6/1)	底面回転糸きり
168	2	5区	B7・e3	153自然流路 T3黒色砂層	土師器	皿	(16.7)	2.3	-	(14.1)	40%	密3mm位の石英微量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3) 断面:灰色(N4/0)	反転復元、内面ナデ、口縁横ナデ、底部は指オサエと不定方向のナデ
169	2	5区	B7・c5	153自然流路 T黒色粘土	瓦器	碗	8.8	3.3	-	5.0	40%	密	良好	内外面:黒色(N2/) 断面:灰色(N6/)	反転復元、内外面ヘラミガキ、口縁横ナデ付け高台、14cか
170	2	5区	B7・c5	153自然流路 T黒色粘土	黒色土器	碗	-	(3.8)	-	-	15%	密	良好	外面:にぶい褐色(7.5YR7/3) 内面:黒色(N1.5/) 断面:黒色(N2/)	反転復元、内面ヘラミガキ、外面ナデ、回転糸切り
171	2	5区	B7・c5	153自然流路 トレンチ黒色粘土	瓦器	皿	-	(1.9)	-	(6.0)	30%	密	良	内外面:暗灰色(N3/)	反転復元、内面ヘラミガキ、外面ヘラケズリ付け高台、回転糸切り
172	2	6区-1	A7・r3	153自然流路 5層	弥生土器	広口壺	10.0	14.3	11.5	3.4	95%	やや粗1~3mm大の石英・長石、赤色斑粒含む	軟	褐色(7.5YR7/6)~にぶい黄褐色(10YR7/4)	外面タタキとナデ、内面指オサエとナデ、弥生後期?
173	2	5区	B7・e3	153自然流路 T3黒色砂層	弥生土器	有孔鉢	-	(5.9)	-	3.7	5%	密1~3mmの石英少量 1~2mm位の片岩少量	良好	灰白色(2.5Y7/1)~にぶい褐色(7.5YR7/3)	部分反転復元、外面タタキ、内面工具によるナデ
174	2	5区	B7・c4	153自然流路 T1、8層	弥生土器?	高坏	(17.8)	(5.6)	-	-	40%	密1~3mm位の石英少量 2~5mm位の片岩少量	良好	灰黄色(2.5Y7/2) 断面:にぶい黄色(2.5Y6/3)	反転復元、外面は剥離により調整不明、内面ヘラミガキ、古墳時代前期?(庄内?)
175	2	4区	A7・s5	遺物包含層第8層 黒褐色シルト粘土層	土師器	高坏	-	6.2	-	-	43%	やや粗4mm以下の片岩 白色粒を多量に含む	良好	外面:にぶい黄褐色(10YR7/3) 内面:灰黄色(2.5Y5/1) 断面:灰白色(2.5Y8/2)	一部反転合成、外面はヘラミガキか?、内面ヘラミガキ、庄内、3c中
176	2	4区	A7・q4	遺物包含層第8層 黒褐色シルト粘土	土師器	壺	-	7.6	10.0	3.0	90%	粗1~8mm大の片岩、石英・長石、赤色斑粒含む	軟	褐色(5YR6/6)	外面は剥離により調整不明、内面はナデとヘラ状工具による圧痕、布留?
177	2	4区	A7・s5	遺物包含層第8層 黒褐色シルト粘土層	土師器	小型丸底壺	(8.0)	(9.0)	-	-	40%	密1~5mm位の石英少量 1~4mm位の片岩少量	良好	にぶい褐色(7.5YR7/4)~浅黄褐色(7.5YR8/4)	反転復元、外面ナデ、内面指オサエとナデ、4c~5c?
178	2	4区	A7・r4	遺物包含層第8層 黒褐色シルト粘土	土師器	碗形高坏	(12.5)	10.8	-	(15.8)	80%	粗5mm以下の片岩、白色粒を多量に含む	良好	外面:褐色(5YR6/6) 内面:にぶい褐色(2.5YR6/4) 断面:暗オリーブ灰(2.5GY4/1)	一部反転復元、剥離により調整不明庄内2段階か
179	2	4区	A7・t6	遺物包含層第8層	弥生土器	広口壺	(15.6)	(8.2)	-	-	20%	密1~3mm位の石英少量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)~褐色(5YR7/6) 断面:褐色(7.5YR6/6)	反転復元、外面はヘラミガキか?、内面は指オサエとナデ、口縁は横ナデ、庄内?
180	2	5区	B7・d3	153自然流路 T1青灰色砂層	土師器	二重口縁壺	(25.0)	(6.4)	-	-	10%	密1~2mmの石英少量 1mm以下のチャート微量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/3)~にぶい褐色(5YR7/4)、断面:灰色(N5/0)	反転復元、内外面とも横ナデ布留?
181	2	4区	A7・r4	遺物包含層第8層	土師器	直口壺	(13.4)	(18.0)	(25.8)	-	30%	密	やや軟	浅黄褐色(7.5YR8/8)	反転復元、外面は剥離のため調整不明、内面ナデと指オサエ、口縁横ナデ、庄内

表3-5 出土遺物観察表(土器)

( )は復元値

報告書番号	地区			遺構層位	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大径(cm)	底径(cm)	残存率	胎土	焼成	色調	備考
	年度	区画	グリッド												
182	2	4区	A7・v5	包含層第8層	土師器	土鉢	長さ8.2	厚さ3.8	幅3.9		50%	密	良好	外面:にぶい黄褐色(10YR7/3) 内面:灰白色(2.5Y7/1) 断面:灰白色(10YR8/2)	
183	2	4区	A7・x6	包含層第8層	須恵器	播鉢	-	3.2	-	(10.8)	8%	粗2mm以下の白色粒を多量に含む	良好	外面:灰色(N5/) 内面:欠損 断面:灰白色(N7/)	反転復元、回転ヘラケズリ、自然釉、7~8cか?
184	2	4区	A7・r5	包含層第7層第8層 上面	須恵器	横瓶	-	17.5	18.6	-	80%	粗1mm以下の白色粒を多量に含む	良好	外面:灰色(N4/) 内面:黄灰色(2.5Y4/1) 断面:灰色(N5/)	外面カキメ、波状文、自然釉と石付着、TK217~64ぐらい
185	2	5区	B2・b2	精査	埴輪	形象円筒部	-	(8.8)	(26.4)	(23.4)	不明	密1~3mm大の石英・長石粒を含む	良好	にぶい褐色(7.5YR7/3)	反転復元、正位粘土接合、外面ハケメ、内面指オサエとナデ
186	2	5区	B7・c7	包含層	形象埴輪	器財	長さ(17.4)	厚さ(4.1)	幅(8.3)		5%	粗6mm以下の石英下半赤色酸化粒を多量に含む	良好	外面:にぶい褐色(7.5YR7/4) 内面:褐色(5YR7/6) 断面:暗灰色(N3/)	ナデ?後、二条沈線
187	2	5区	B7・e.f3	包含層第7層	土師器	碗	(12.0)	(2.8)			10%	密	やや軟	褐色(5YR6/6)	口クロナデ
188	2	5区	B4・c4	包含層第8層	土師器	鉢	(24.0)	(7.5)	-	-	8%	粗1mm以下の赤色酸化粒を多量に含む	良好	褐色(7.5YR7/6)	反転復元、内外面とも磨滅のため調整不明、奈良
189	2	5区	B7・e.f3	包含層第7層	須恵器	坏		(2.1)	(13.4)	(11.0)		やや粗1~4mm大の長石多く含む	良好	灰色(N4/)	口クロナデ、底粗いナデ、付け高台
190	2	4区	A7・y3	包含層第8層	瓦	平瓦					20%	密	良好	灰色(N4/)~灰白色(N7/)	布目痕、縄タタキ目
191	2	5区	B7・d3	153自然流路T3 青灰色砂層	土師器	坏	(15.4)	2.9	-	(9.8)	-	密1~2mm赤色酸化粒少量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2)	反転復元、横ナデ、底切り離し後不定方向のナデ、11c?
192	2	5区	B7・e1	包含層	土師器	坏	(13.7)	(4.0)		(7.5)	20%	密 細かい赤色酸化粒中量	良好	褐色(7.5YR7/6)~にぶい褐色(7.5YR7/3)~褐色(10YR5/1)	内外面ナデ、底部静止糸切り痕
193	2	5区		包含層 東側溝	土師器	碗(高台部)		(2.6)		高台径(6.5)	95%	密1~4mm位の石英少量	良好	灰白色(5Y7/1)~にぶい褐色(5YR7/4)	内外面ナデ?、見込中央付近にへら描き[大]、付け高台
194	2	5区	B7・d3	153自然流路T1 青灰色砂層	土師器	坏	-	(1.6)	-	(9.0)	60%	密1~2mm位の赤色酸化粒少量	良好	にぶい黄褐色(10YR7/2)	反転復元、内外ナデ、付け高台 11c?
195	2	5区	B7・e1	包含層 黒色土器A類	碗(底部)		(1.6)	(10.2)	(6.4)		30%	密 赤色斑粒多く含む	軟	内面:2.5Y2/1(黒) 外面:10YR7/4(にぶい黄橙)	内面粗いナデ、外面横ナデ、付け高台
196	2	5区	B7・e3	包含層第8層	土師器	羽釜	(23.8)	(4.1)	-	-	5%	密1.5mm以下の黒色粒を少量含む	良好	外面:黒色(2.5Y2/1) 内面:黒色(N1.5/) 断面:褐色(10YR4/1)	反転復元、内外面ナデ、口縁横ナデ、古代
197	2	5区	B7・b1	包含層	土師器	皿	8.2	1.5	-	-	80%	密1.5mm以下の灰色赤色酸化粒を微量含む	良好	外面:にぶい黄褐色(10YR7/4) 内面:浅黄褐色(7.5YR8/4) 断面:浅黄褐色(10YR8/4)	内外面横ナデ、11cの前~中頃
198	2	5区	B7・b1	包含層	土師器	皿	9.0	1.7	-	-	98%	密1mm以下の赤色酸化粒を微量含む	良好	褐色(5YR6/6)	内外面横ナデ、11cの前~中頃
199	2	4区	B7・a7	包含層第8層	土師器	皿	(8.8)	1.5	-	-	70%	密1mm大の赤色酸化粒を少量、2.5mm大の赤色酸化粒を1個含む	良好	外面:浅黄褐色(10YR8/4) 内面:褐色(5YR6/8) 断面:褐色(5YR6/6)	内外面横ナデ、13c
200	2	4区	B7・a7	包含層第8層	瓦器	皿	8.5	1.5	-	7.0	80%	密2.5mm以下の灰色粒を微量含む	良好	外面:暗灰色(N3/) 内面:灰色(N4/) 断面:灰色(N5/)	内面板状工具による放射状ナデ、外面横ナデ、13c前半
201	2	5区	B6・f25	包含層第7層	瓦器	皿	7.6×8.0	1.5		6.5×6.8	98%	密	やや軟	黄灰色(2.5Y5/1)	内面ナデ、外面横ナデ、底部未調整
202	2	4区	B7・y7	包含層第8層	瓦器	碗	-	4.1	-	7.0	25%	粗2mm以下の灰色褐色粒を多量に含む	良好	外面:黒色(N4/) 内面:灰色(N4/) 断面:灰色(N4/)	反転復元、付け高台 12cへはいるか?
203	2	5区	B7・e1	包含層	瓦器	碗(高台部)		(2.2)		(6.5)	30%	密1mm以下の石英少量	良好	灰色(N4/0)~灰色(10Y7/1)	内面へらミガキ、付け高台
204	2	4区	A7・y7	包含層第8層	瓦器	碗	(14.6)	4.4	-	5.7	45%	密1mm以下の黒色粒を微量含む	良好	外面:黒色(N2/) 内面:暗灰色(N3/) 断面:灰白色(N7/)	反転復元、内面へらミガキ、外面指オサエと横ナデ、13c前半
205	2	5区	B7・c7	包含層第8層	瓦器	碗	(14.5)	5.2		5.5~5.7	60%	密	良好	暗灰色(N3/)	一部反転復元、内面へらミガキ、外面指オサエ、横ナデ、12c末~13c初頭
206	2	5区	B7・d5	包含層第8層	陶器	青磁皿	10.5	1.6	-	-	12%	密5mm以下の黒色粒を微量含む	良好	内:外面:オリーブ灰色(2.5GY6/1) 断面:灰白色(N7/)	反転復元、内面へらミガキ、外面指オサエ横ナデ、14c末~15c前半
207	2	4区	A7・y4	包含層第8層	土師器	甕	幅(10.7)×(21.0)	(25.0)			10%	密2~4mm位の片岩中量1~2mm位の石英少量	良好	明赤褐色(5YR5/6)~暗黄褐色(2.5Y5/2)	内外面工具によるナデ、底基部は指オサエ
208	2	5区	B6・f25	包含層第7層	瓦器	碗	13.5~15.0	4.2~5.4	-	5.0	80%	密	良好	灰色(N6/0)~N7/0)	内面ミガキ、外面指オサエとナデ、付け高台、13c?
209	2	5区	B6・f25	包含層第7層	瓦器	碗	(14.0)	4.5	-	5.5	30%	密2~8mm位の片岩微量	良好	灰色(N4/0) 断面:灰白色(N7/0)	一部反転復元、内面ミガキ、外面指オサエとナデ、付け高台、13c?
210	2	5区	B6・f25	包含層第7層	瓦器	碗	(14.4~15.6)	(3.2~4.3)		(4.1~4.5)	70%	密	軟	灰色(7.5Y5/1)	内面ミガキ、外面指オサエとナデ、付け高台
211	2	4区	A7・x4	包含層第8層	瓦器	片口鉢	(25.6)	(9.4)			10%以下	やや粗1~2mm大の長石含む	軟	灰白色(7.5Y7/1)~黒褐(2.5Y3/2)	反転復元、内面板状工具によるナデ、12c末~13c初
212	2	5区	B7・e1	包含層 東幡系須恵器	こね鉢		(27.0)	(4.8)			5%以下	密	良好	灰色(N4/)	外面口クロナデ
213	2	5区	B4・c4	包含層第8層	陶器	播鉢	(25.2)	(5.7)	(27.4)		10%以下	やや粗2~5mm大の長石粒を含む	良好	にぶい赤褐色(5YR4/3)	反転復元、内面スリ目、口縁口クロナデ、外面粗いナデ、15c末?

表4 出土遺物観察表(石製品)

報告書番号	地区			遺構層位	石材	器種	幅(cm)	長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存率	備考
	年度	区画	グリッド									
64	1	1-1区	j20	暗褐色土	緑色岩	紡錘車	φ4.5	-	0.5	21	100%	表裏、側面研磨
65	1	2区	A7x18	4-1層	サヌカイト	石剣	6.2	10.8	1.9	150	40%	先端、基部欠損、側縁の剥離は階段状剥離が多い
66	1	1-2区	e17	28	砂岩	一石五輪塔	11.8	48.0	10.7		100%	地輪の一面を砥石として転用
214	2	5区	B7d3	153自然流路T青灰粘土	苦鉄質片岩	不明石製品	3.9	(14.7)	1.8	190	80%	両側縁に鼓打による凹みあり、先端に使用による鼓打?
215	2	4区	A7x6	第8層	片岩	温石	11.5	(17.1)	2.8	740	70%	表面に切削工具の痕跡あり
216	2	5区	B7b4	自然流路埋土直上	片岩	温石	(10.2)	(9.2)	1.9	250	40%	表面に切削工具の痕跡あり
217	2	5区	B7・e-3.e-4	自然流路T4上層	粗粒砂岩	敲石	6.5	11.9	5.0	590	100%	両端と側面中央に鼓打痕あり
218	2	5区	B7d3	清掃中	片岩	敲石	10.6	18.7	5.4	2100	100%	表面は磨かれたようにならめら
219	2	4区	A7・u-2.u-3	100溜池④	極細粒砂岩	砥石	6.2	10.9	4.0	760	100%	

表5 出土遺物観察表(金属製品)

報告書番号	地区			遺構層位	種類	器種	幅(cm)	長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存率	備考
	年度	区画	グリッド									
220	2	4区	A7f5	8層下面	銅製品	銅鏃	5.8	1.9~0.4	0.5	13.10		
221	2	5区	B7・e-3.e-4	自然流路T4上層	鉄製品	鉄鏃	6.7	1.2~0.5	-	5.90		



1. 1-1 区全景 (北東から)



2. 1-2 区全景 (北上空から)



3. 2 区上層全景 (北東から)



1.2区下層全景(南東から)



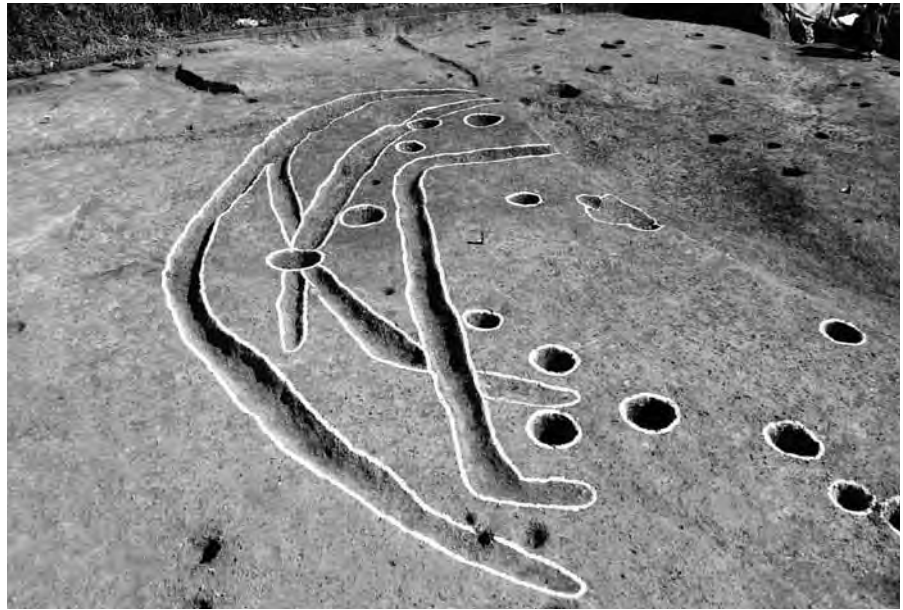
2.2・3区全景(北西上空から)



3.1-2区北壁基本層序  
(南から)



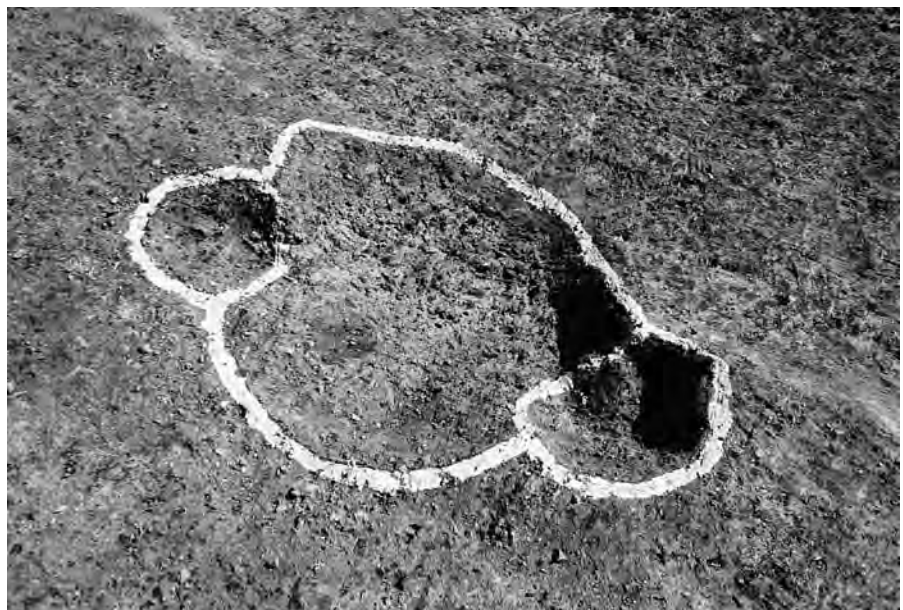
1. 365、366、367、368 竪穴建物  
完掘（西から）



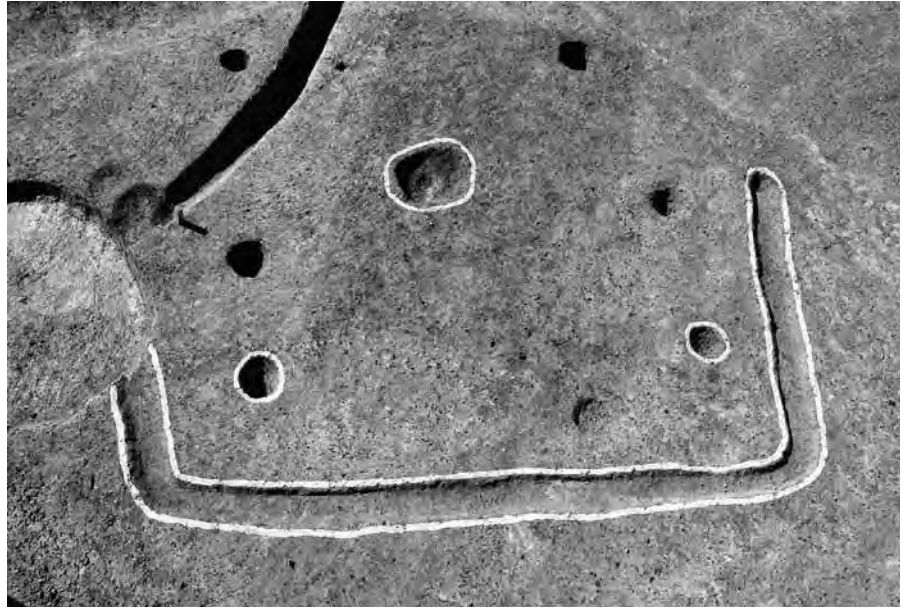
2. 372 炉土器出土状況  
（南から）



3. 372 炉完掘  
（北東から）



1. 303 竪穴建物完掘  
(北東から)



2. 13 竪穴建物完掘  
(西から)



3. 6・7 溝完掘  
(南から)





1. 6 溝瓦器出土状況  
(北から)



2. 209 溝完掘  
(南東から)



3. 228 土坑土器出土状況  
(北東から)





1. 210 谷状地形  
(北西から)



2. 210 谷状地形堆積状況  
(北西から)



3. 掘立柱建物 1  
(南から)

1.5区遠景（北西上空から）



2.4区全景（西上空から）



3.4区全景（上空から）



1.5区全景 (上空から)



2.6区全景 (東半)  
(南から)

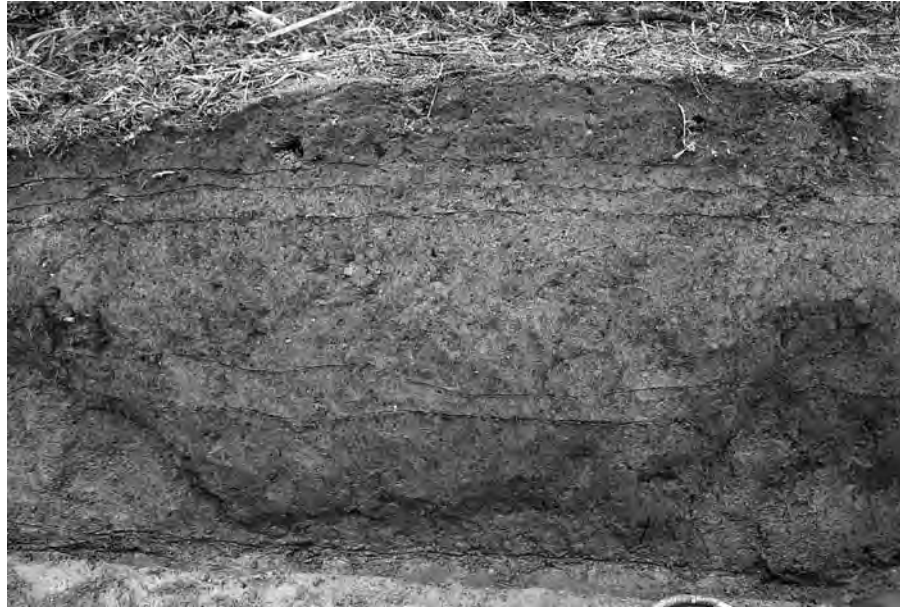


3.6区全景 (西半)  
(東から)





1. 5区北壁基本層序  
(南から)



2. 101 竪穴建物完掘  
(南から)

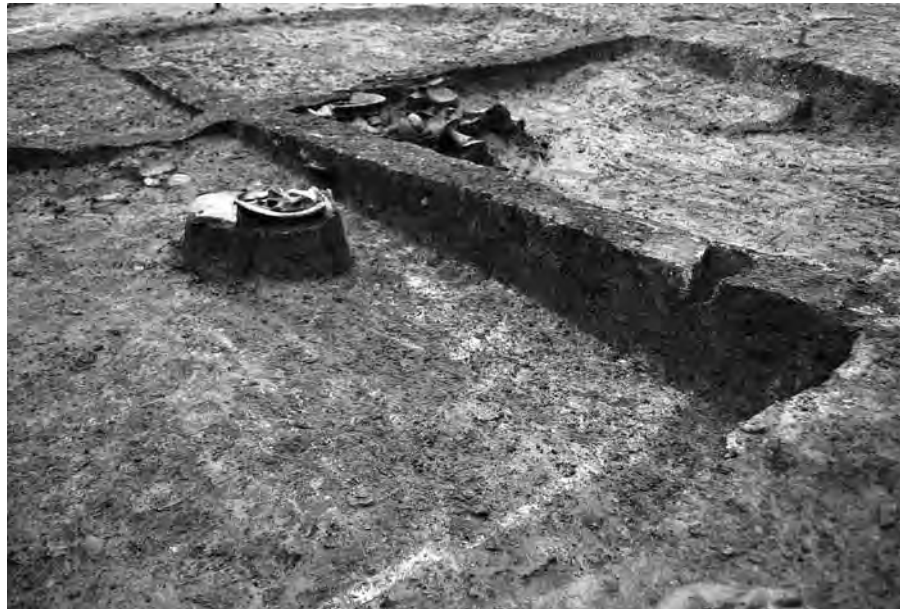


3. 101 竪穴建物堆積状況  
(南から)

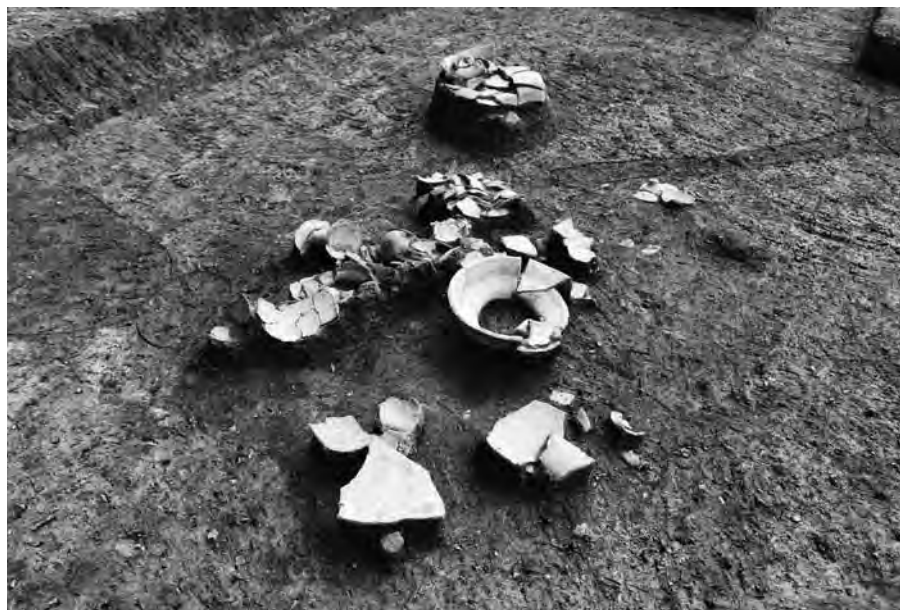




1. 102 竪穴建物  
(南西から)



2. 102 竪穴建物堆積状況  
(北東から)

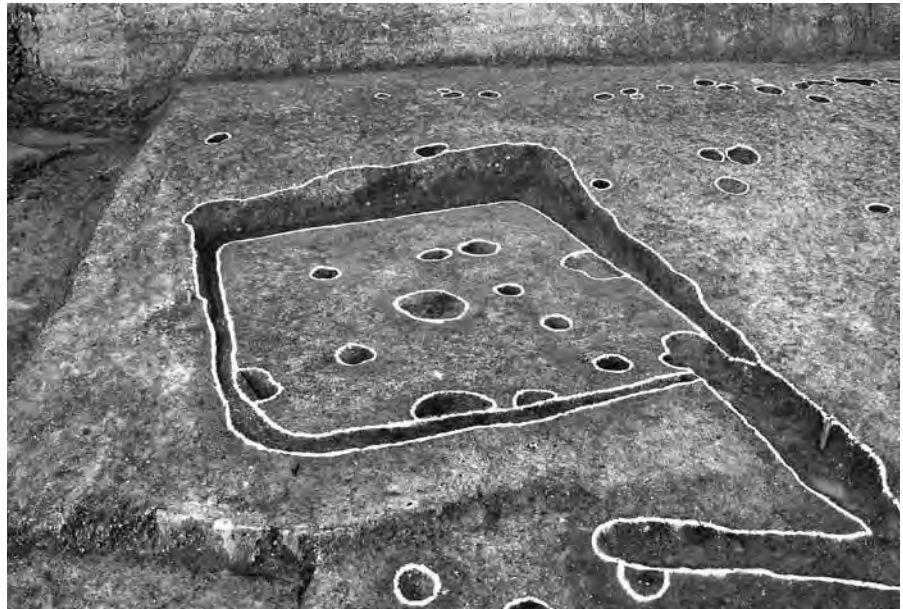


3. 102 竪穴建物土器出土状況  
(北西から)

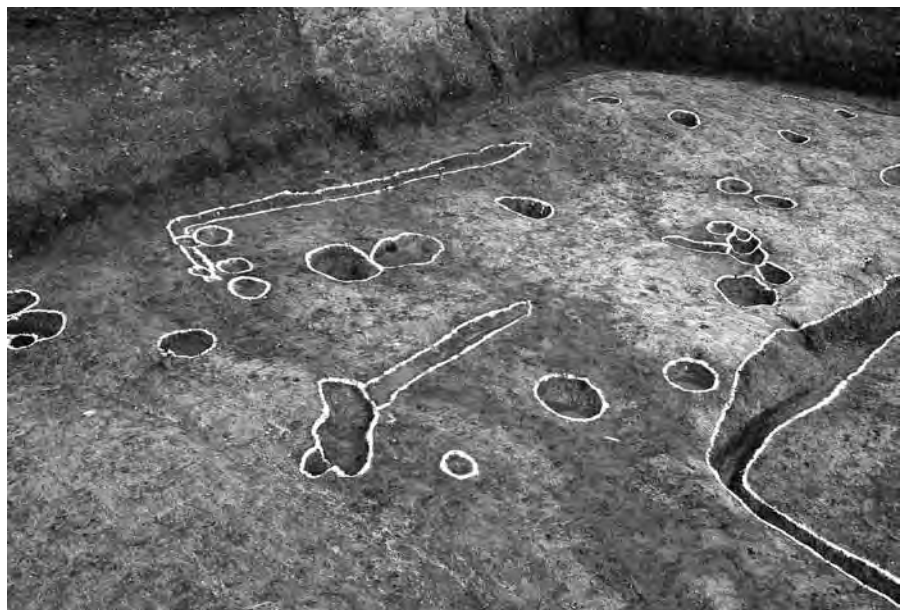
1. 102 竪穴建物完掘  
(南から)

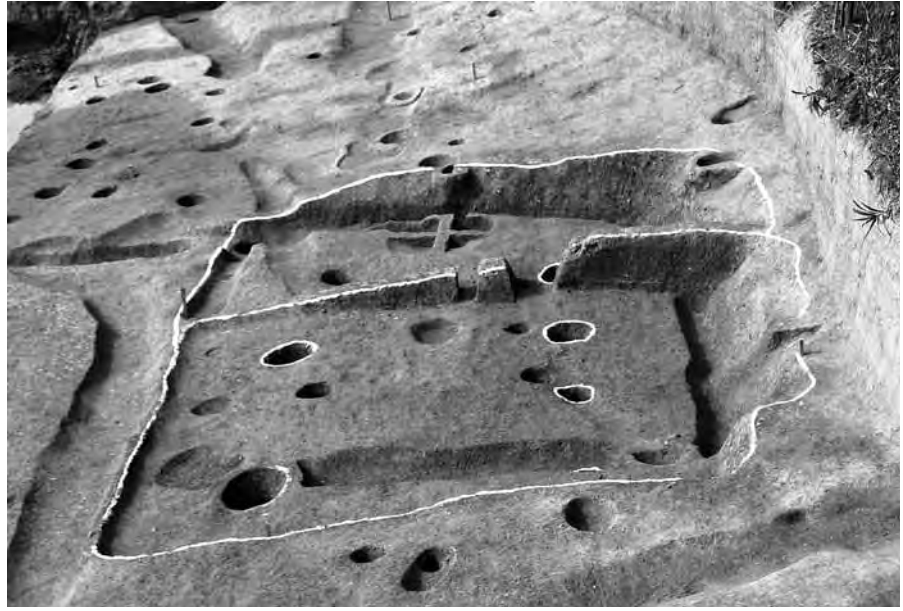


2. 103 竪穴建物完掘  
(南から)



3. 189 竪穴建物完掘  
(南西から)





1. 456・457 竪穴建物  
(東から)

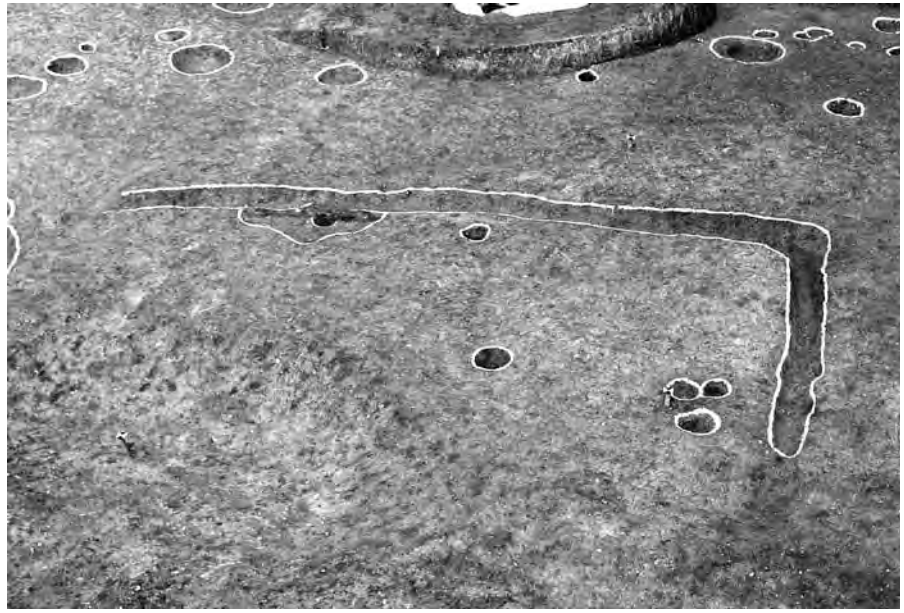


2. 456 竪穴建物堆積状況  
(南から)



3. 457 竪穴建物堆積状況  
(南から)

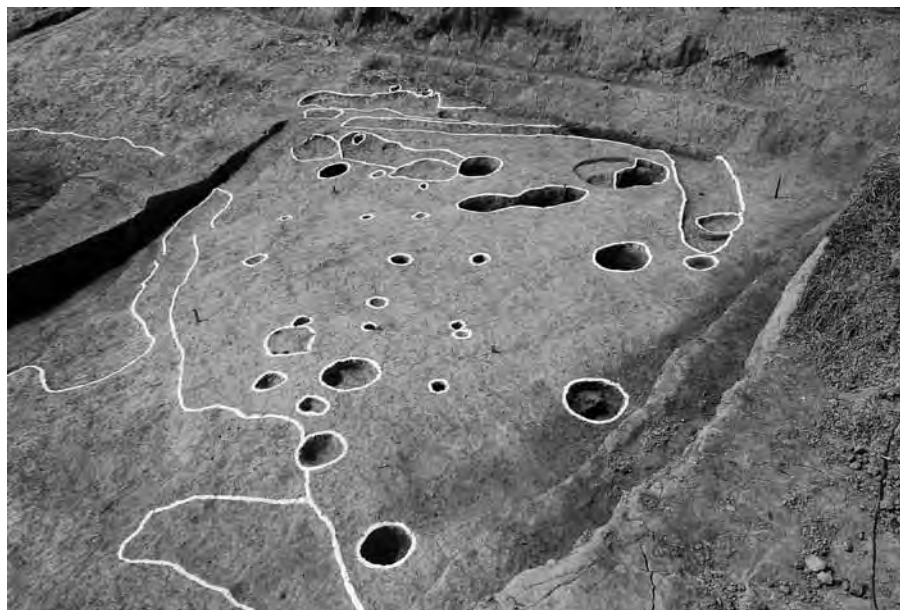




1. 223 竪穴建物  
(南から)



2. 277・278 竪穴建物  
(南西から)



3. 掘立柱建物 2  
(南東から)

1. 掘立柱建物 2  
27 柱穴  
(東から)



2. 100 溜桧  
(西から)

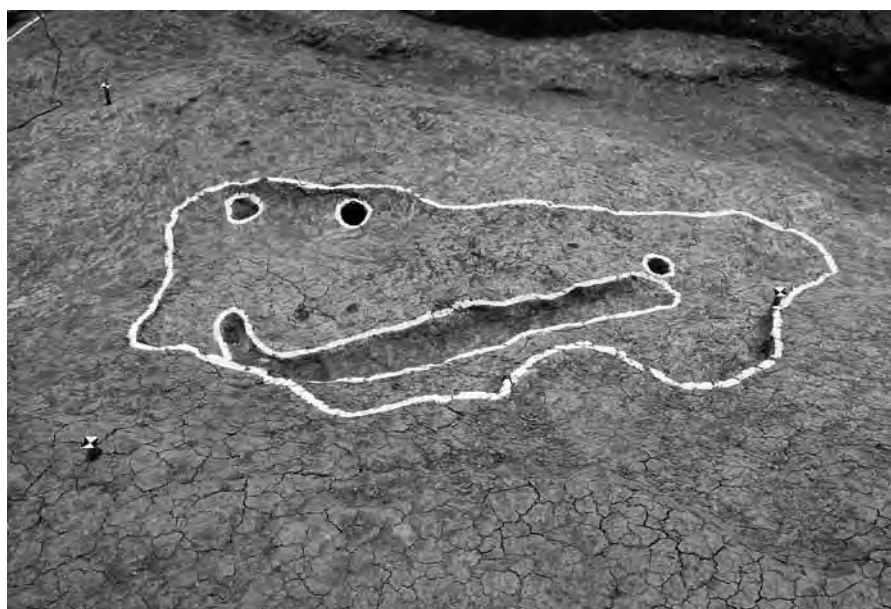


3. 100 溜桧堆積状況  
(南から)





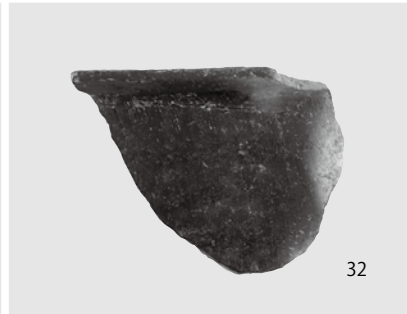
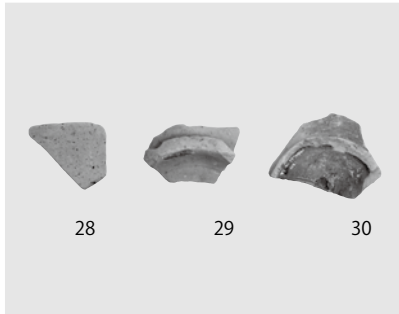
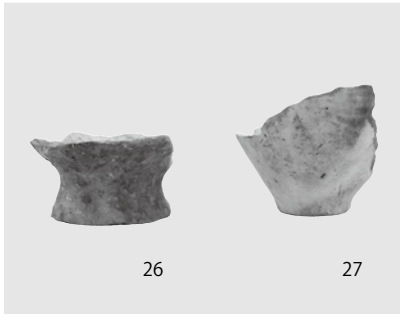
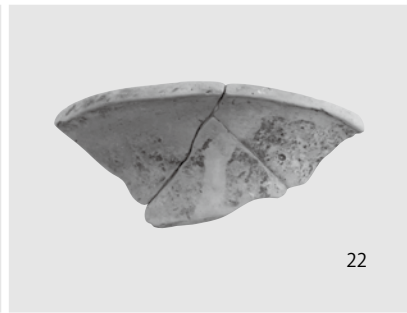
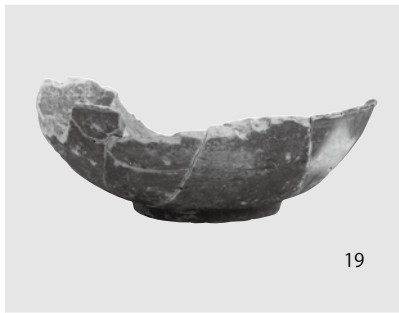
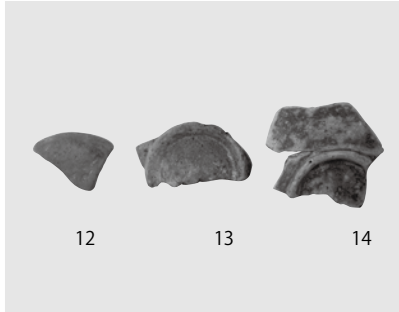
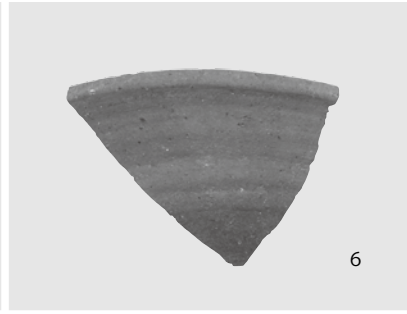
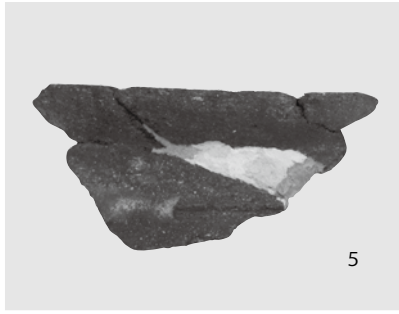
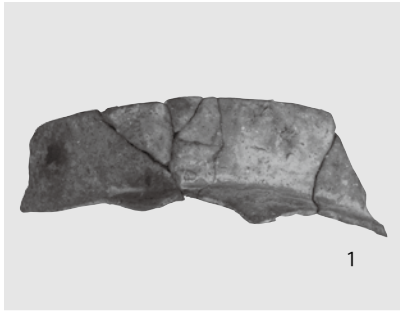
1. 100 溜柵瓦器出土状況  
(南から)



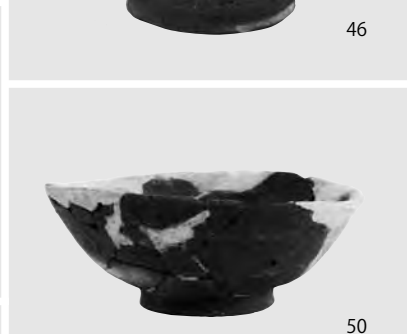
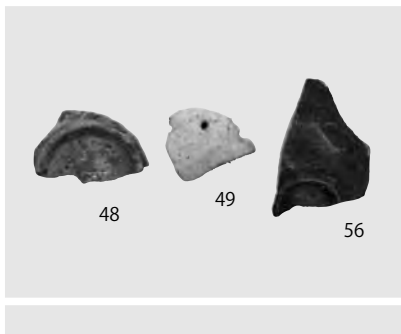
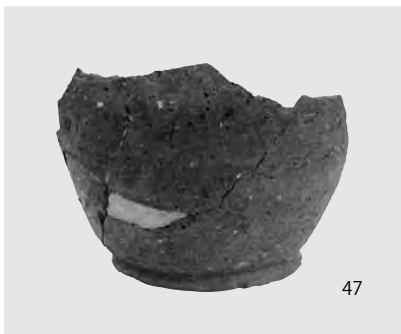
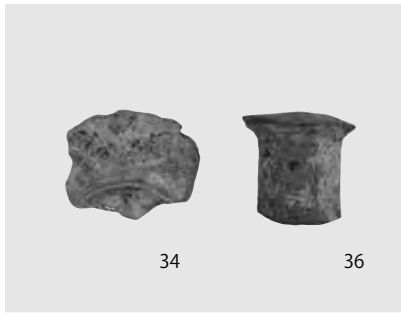
2. 66 段状遺構完掘  
(北西から)

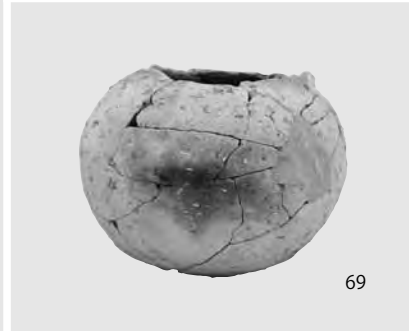
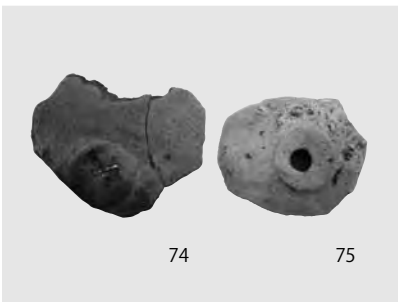
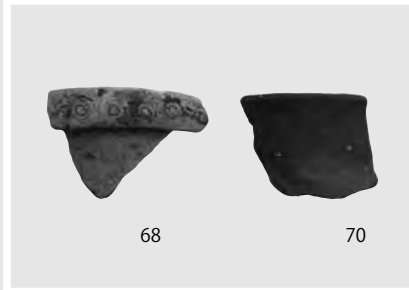
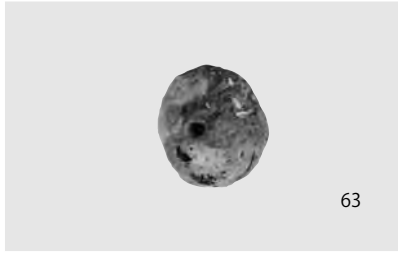
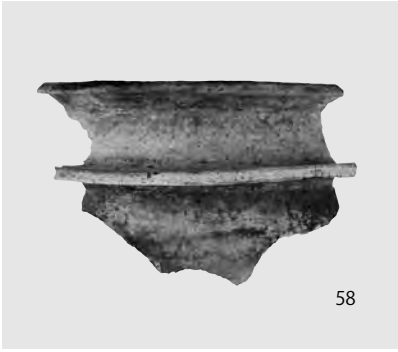
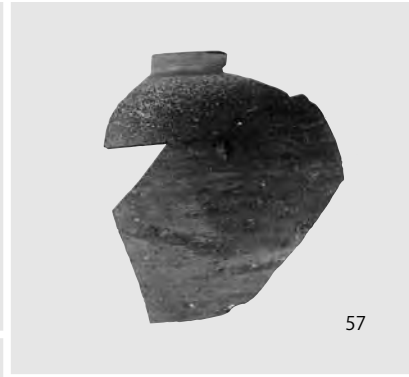


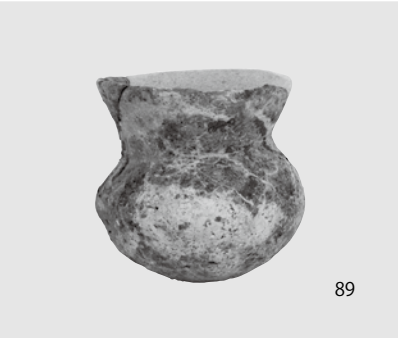
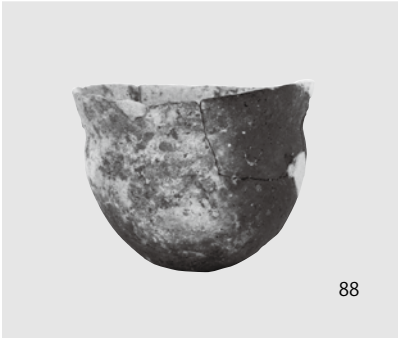
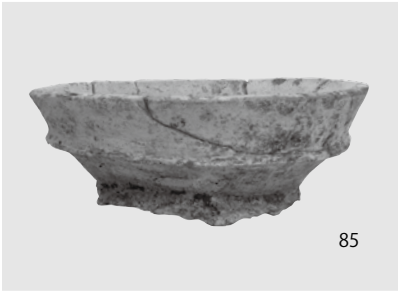
3. 153 自然流路堆積状況  
(南東から)

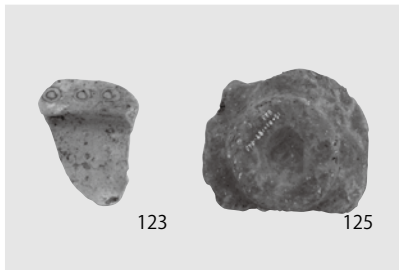
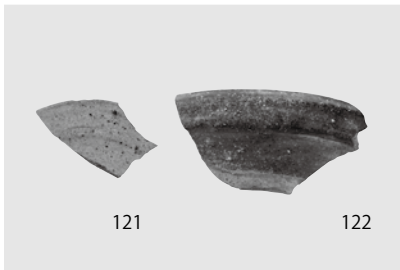
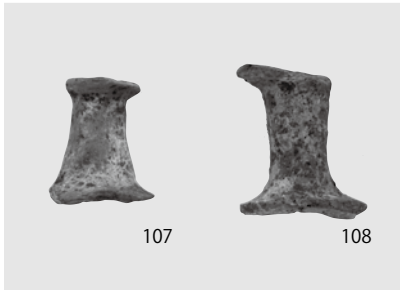
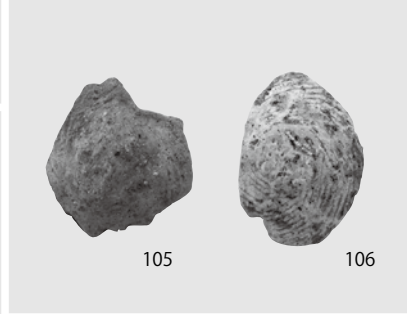
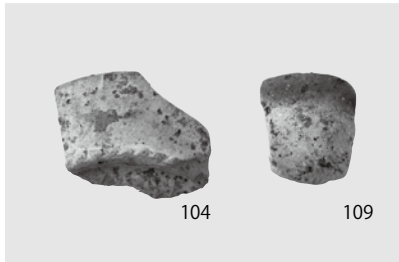
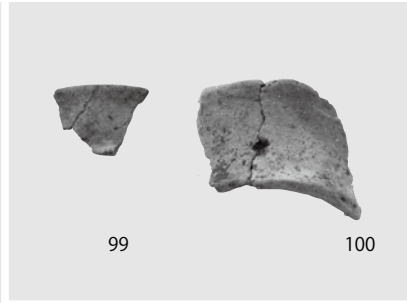
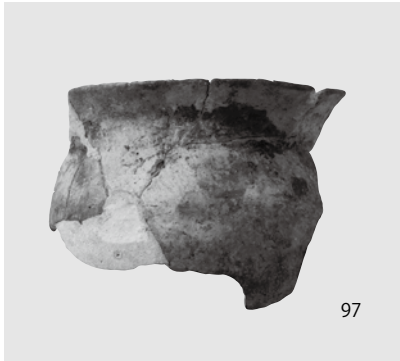




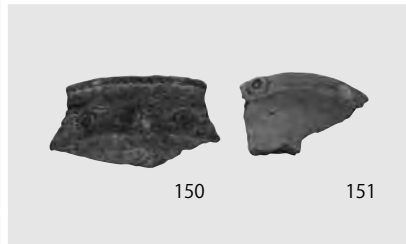
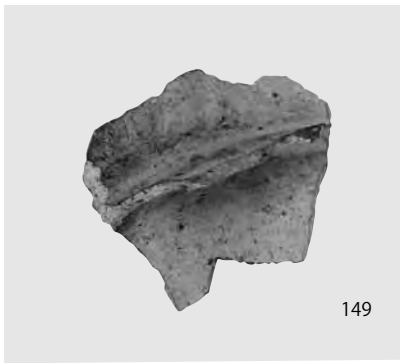
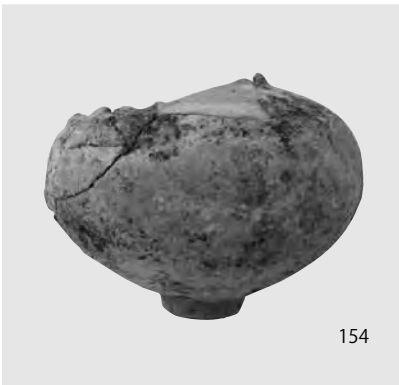
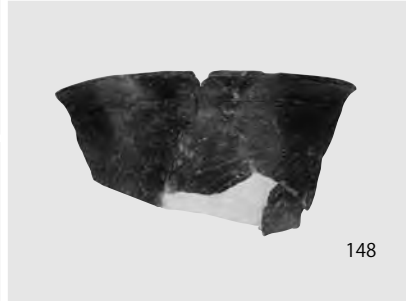
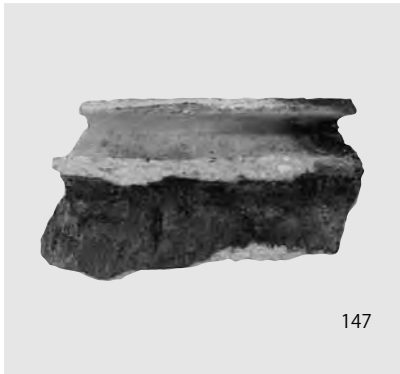
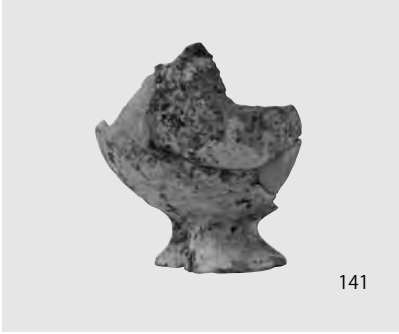
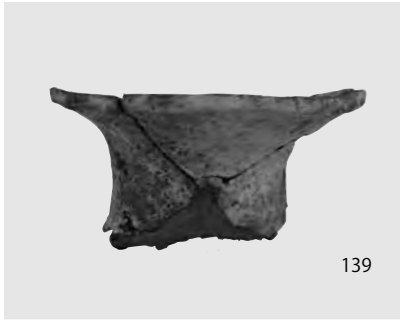


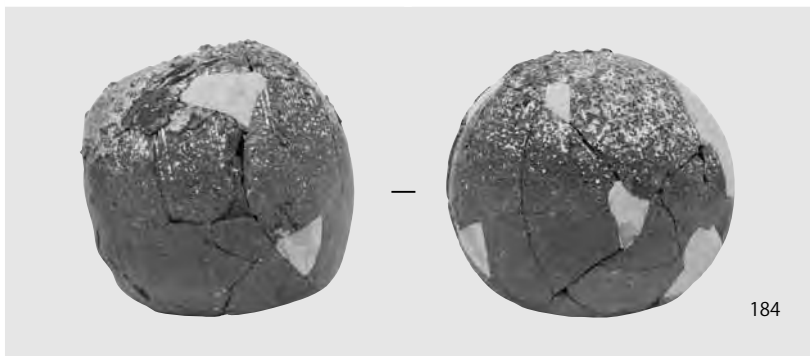
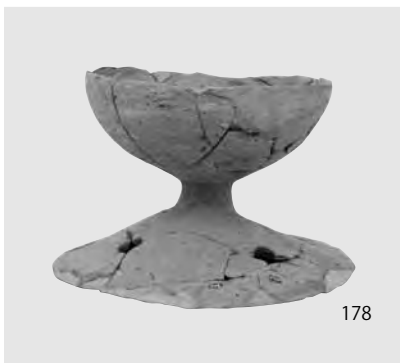
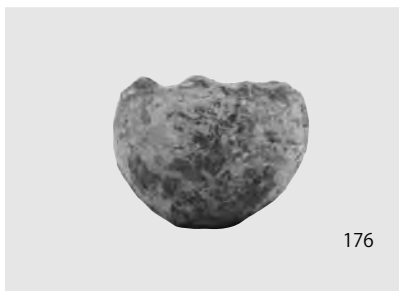
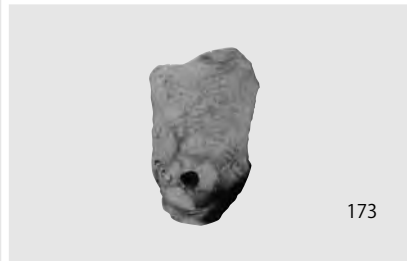
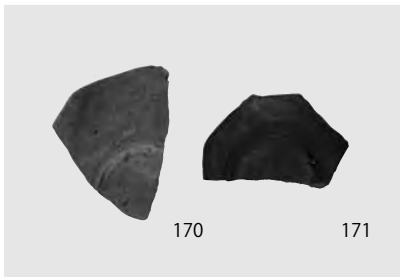
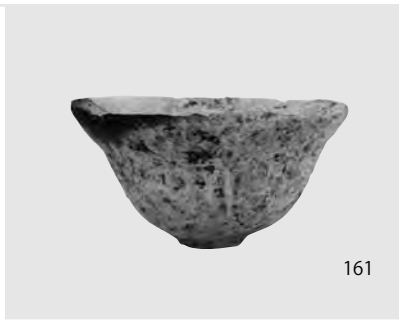














## 報告書抄録

ふりがな	てらうちこふんぐん、そうかたいせき							
書名	寺内古墳群、相方遺跡							
副書名	和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書							
編著者名	加藤達夫							
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1 TEL 073-472-3710							
発行年月日	西暦2017年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
てらうちこふんぐん 寺内古墳群	わかやまけん 和歌山県 わかやまし 和歌山市	3020150	187	34° 12′	135° 13′	1次調査 20151214 ～ 20160316	1次調査 2,118㎡	和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業
そうかたいせき 相方遺跡	もりおてほ 森小手穂 きれにし 吉礼・西			440	25″付 近	42″付 近	2次調査 20160530 ～ 20161115	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寺内古墳群 相方遺跡	古墳群 散布地	弥生時代 ～ 古墳時代	竪穴建物		弥生土器 土師器 須恵器 埴輪片		特になし	
		中世	自然流路・掘立柱建物・溜桝・溝		瓦器 土師器 一石五輪塔			
要約	和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴い1次調査で面積2,118㎡を、2次調査で1904㎡を調査した。検出した遺構には弥生時代後期、弥生時代終末期から古墳時代初頭の竪穴建物、中世の掘立柱建物、溜桝、溝状遺構、中世までに埋没した谷状地形、自然流路などがあり、遺物としては弥生時代から、古墳時代、古代、中世にかけての各期の土器類、石製品などが出土した。							

## 寺内古墳群、相方遺跡

一和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智  
勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、  
海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書一

2017年3月3日

編集・発行：公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の1

印刷・製本：白光印刷株式会社

〒641-0062 和歌山県和歌山市雑賀崎 2021- 3